

Communication Report 2019

NEXCO西日本グループ
コミュニケーションレポート

全体版



[スローガン]

みち、ひと・・・

[3つのめざす姿]

● 高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を

目次

NEXCO西日本グループの使命	1
トップメッセージ	3
NEXCO西日本グループについて	
事業エリア・会社概要・グループ会社	5
NEXCO西日本グループのあゆみ	7
NEXCO西日本グループの事業	9
NEXCO西日本の成り立ちと	
高速道路事業のスキーム	11
中期経営計画2020	12
コーポレート・ガバナンス	13
特集	
特集1 災害対応力の強化	23
特集2 高速道路の長期保全	27
特集3 高速道路ネットワークの 機能強化	29
特集4 SA・PAでの お客さまサービス向上	33
ステークホルダーとともに	
お客さま	35
社会	65
投資家・国民の皆さま	101
お取引先	109
グループ社員	117
より広い社会、未来への働きかけ	
環境保全	133
社会貢献	152
データ集	
CSRの重要課題と取り組み状況	163
財務報告	167
第三者意見	169
編集方針・Q&A	170
[付録]用語録	171

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。

また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

グループ理念

私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章（抜粋）

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー（お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先）の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業（事業活動）を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

ステークホルダーへの約束

私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結び、人と人、地域と地域。夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

● 地域を愛し、地域とともに生きる

● たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ

社会の持続的な発展

NEXCO西日本グループの成長



社会貢献



環境保全



グループ社員
連結子会社27社
約15,000人



お客さま
ドライバー、バス事業者
トラック事業者など



お取引先
建設会社
SA・PAテナント会社
など



社会
道路周辺の地域住民、
地方自治体、産業界、学术界、
国際社会など



投資家・国民の皆さま
金融機関、株主(財務大臣)、
国民など

より広い社会、未来への働きかけ

経営を支える基本姿勢

(コンプライアンス・リスクマネジメント・情報セキュリティ)



これからも高速道路の安全・安心を最優先に 社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

はじめに

2018年度は、7月の豪雨、9月の台風21号等により、西日本各地において大規模な災害が発生し、人々の生活や企業活動に大きな影響が及びました。当社グループが管理する高速道路も大きな被害を受けましたが、関係機関や建設各社等からの多大なご協力と当社グループの総力を挙げた取り組みにより、早期に高速道路の復旧を成し遂げることができました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

NEXCO西日本グループの使命と理念

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、当社グループは24時間365日、高速道路サービスを間断なく提供するとともに、高速道路の機能を維持発展させる使命

を担っています。

私たちは「リスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします」というグループ理念のもと、これらの使命の達成に向けて「中期経営計画2020」を進めています。

NEXCO西日本グループの取り組み

当社が管理する高速道路は約3,500kmを超え、その中には老朽化が進行している路線もあります。そのため、当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を維持し将来の世代へ健全な社会資産として引き継ぐため、高速道路リニューアルプロジェクトや耐震補強対策を推進しています。

また、当社管内の各道路において、暫定2車線区間



の4車線化等を進めており、交通混雑解消や、自然災害・重大事故等の有事の際のリダンダンシー強化を図っています。2019年3月に全線4車線化が完了した高松自動車道においては、繁忙期における交通渋滞が解消される等の整備効果が現れています。新名神高速道路においては、高槻～大津間の未整備区間の建設や、すでに開通している大津～土山間において暫定4車線区間の6車線化を進めており、ネットワークを更に充実させる取り組みを行っています。

一方で、社員の健康と安全を守るための環境整備は経営者の責務と考え、社員の健康管理を強化し、働きやすい職場づくりを推進するなど、働き方改革にも取り組んでいます。

CSR への社会の動きと対応

高速道路という社会インフラの機能をさらに高め、社会の持続的な発展に寄与することが当社グループの社会的責任（CSR）であると考えています。そして私たちは、事業活動を通じて、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献していきます。

おわりに

あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、従業員、沿道地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

酒井和広

社員の豊かな生活の実現のために 働き方改革に取り組んでいます。

2019年4月に長時間労働の是正や柔軟な働き方の実現などをめざした、働き方改革関連法が施行されました。当社においても、「社員の働きがい・やりがい」「ワークライフバランス」「生産性向上」の観点から各種制度を創設し、社員の豊かな生活の実現をめざしています。

(1) 社員の健康確保（長時間労働の抑制）

1日の所定労働時間を短縮するとともに、時間外労働時間の上限時間の引き下げを行い、社員の更なる健康確保に努めています。

(2) 休みやすい企業風土の醸成

法律で取得が義務付けられた年次有給休暇5日に加え、「ワークライフバランス休暇制度（笑休）」を創設し、休みやすい企業風土の醸成をめざします。

(3) 自律的な働き方の支援

「効率的な業務執行」「社員の健康の維持増進」等のための時差出勤制度を導入するとともに、育児・介護と仕事の両立支援制度を拡充することで、社員がキャリアを

途切れさせることなく長期に活躍できる環境を整えています。

また、事業の計画的な執行と働き方改革の推進を両立して実現するため、3つの視点に基づき生産性向上をめざします。

(1) 業務の省力化

ICT(情報通信技術)やRPA(ロボットによる業務自動化の取り組み)を活用し、業務の省力化を進めています。

(2) 業務の選択と集中

アウトソーシングを活用し、コアとなる業務に社員が専念できるように業務の選択と集中を進めています。

(3) 成果の最大化

社員のキャリアに応じた各種研修を段階的・継続的に実施することにより、社員一人ひとりのスキル向上に取り組み、成果の最大化をめざします。

事業エリア (24府県)

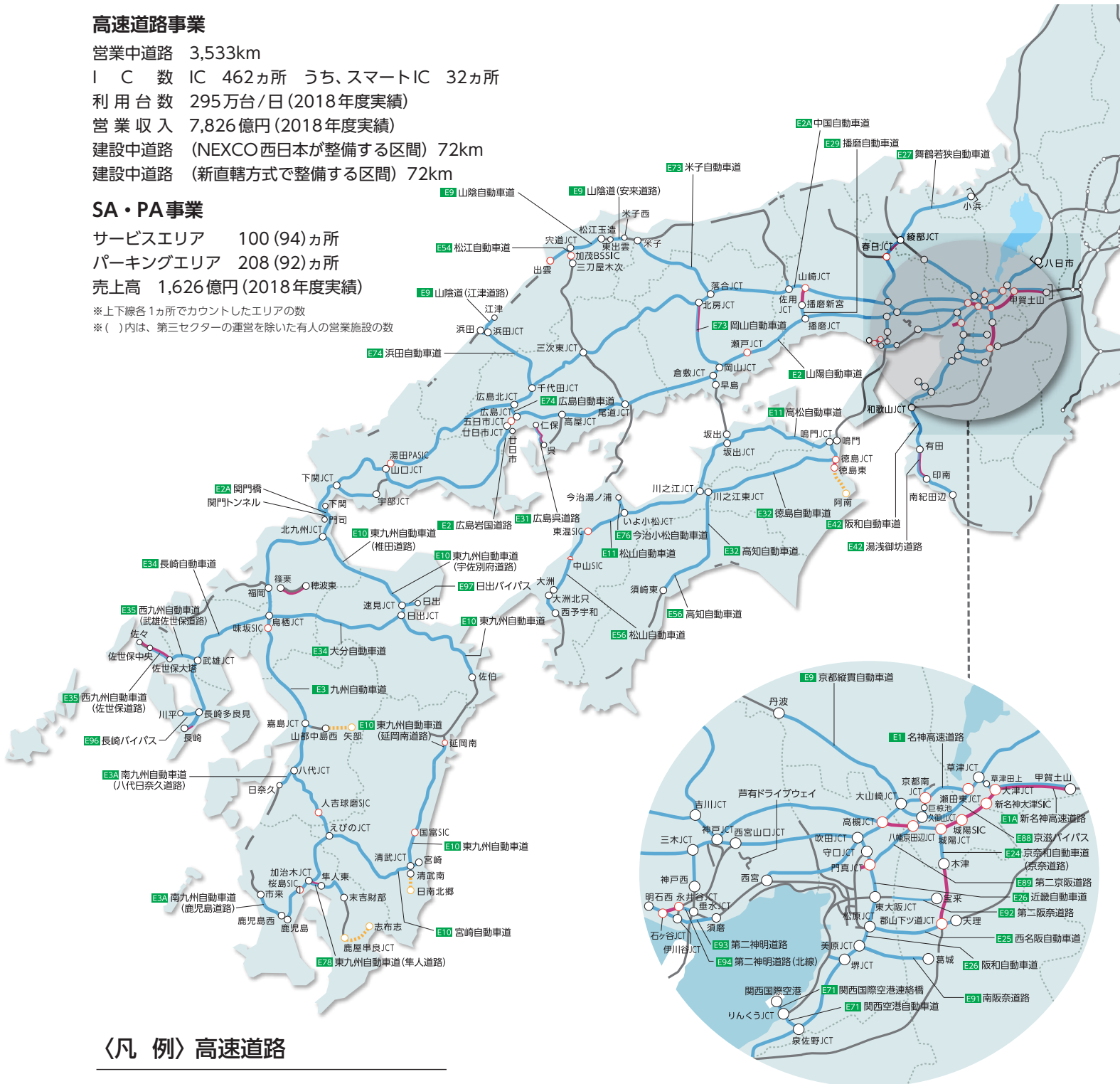
高速道路事業

営業中道路 3,533km
 IC 数 IC 462カ所 うち、スマートIC 32カ所
 利用台数 295万台/日(2018年度実績)
 営業収入 7,826億円(2018年度実績)
 建設中道路 (NEXCO西日本が整備する区間) 72km
 建設中道路 (新直轄方式で整備する区間) 72km

SA・PA事業

サービスエリア 100 (94)カ所
 パーキングエリア 208 (92)カ所
 売上高 1,626億円(2018年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
 ※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数



〈凡例〉高速道路

- 営業中道路
- 事業中道路注1
- 事業中道路注1 (新直轄方式注2で整備する区間)
- 他の自動車専用道路など

注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

※標記上の略称

JCT : ジャンクション
 SA : サービスエリア
 PA : パーキングエリア
 SIC : スマートインターチェンジ



(2019年7月現在)

会社概要 (2019年7月現在)

商号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)

代表者 代表取締役社長 酒井 和広
本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号

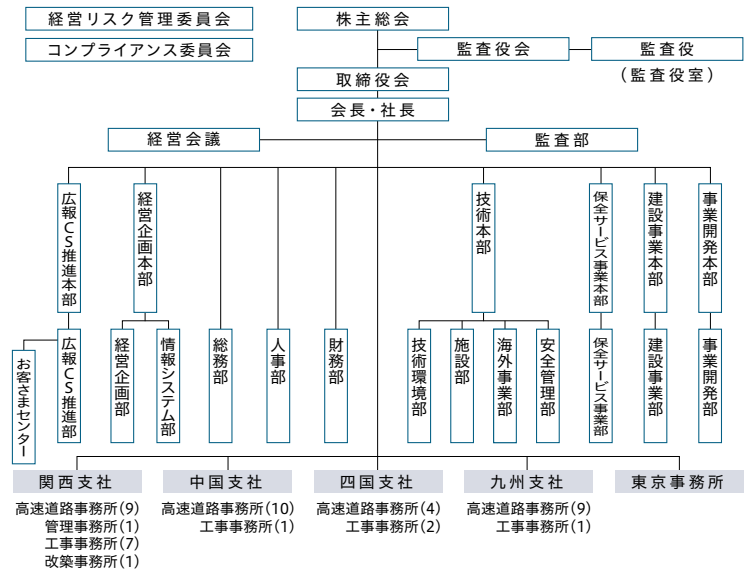
資本金 475億円

設立年月日 2005年10月1日

従業員数※ (単体) 2,476人 (連結) 15,301人

※ 2019年3月末現在

組織図 (NEXCO西日本、2019年7月現在)



グループ会社 (2019年7月現在)

連結子会社 27社

■ 料金収受

西日本高速道路サービス関西株式会社
西日本高速道路サービス中国株式会社
西日本高速道路サービス四国株式会社
(※ 交通管理も実施)

西日本高速道路サービス九州株式会社
西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
(※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)

■ 交通管理

西日本高速道路パトロール関西株式会社
西日本高速道路パトロール中国株式会社
西日本高速道路パトロール九州株式会社

■ 点検・管理

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
(※ 保全作業も実施)
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
(※ 保全作業も実施)

■ 保全作業

西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

■ 不動産関連業務および人材派遣業務

西日本高速道路ビジネスサポート株式会社

■ SA・PAの運営・管理

西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
西日本高速道路ロジスティクス株式会社
西日本高速道路リテール株式会社

■ 有料道路の運営・管理

芦有ドライブウェイ株式会社

■ 海外事業

NEXCO-West USA, Inc.

■ ウルトラファインパブル関連事業

株式会社Ligaric

■ 橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント・調査等事業

株式会社富士技建
NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
株式会社フジエンジニアリング

■ 広告事業

NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

■ SA・PAの運営・管理

沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

■ システムの開発・改良および運用管理

株式会社NEXCOシステムズ

■ 研究および技術開発

株式会社高速道路総合技術研究所

■ 料金収受機械保守

ハイウェイ・ツール・システム株式会社

■ 保険代理店業務

株式会社NEXCO保険サービス

■ トラックターミナルの運営

九州高速道路ターミナル株式会社

■ 海外事業

日本高速道路インターナショナル株式会社

みち、ひと…未来へ。



NEXCO西日本
グループについて

特集

ステークホルダーと
ともに
未来への働きかけ

データ集

NEXCO 西日本グループのあゆみ

1956～2004

1956

日本道路公団発足



1963

日本初の高速道路
名神高速道路(栗東IC～尼崎IC間)開通



1965

名神高速道路 全線開通

1970

日本万博博覧会開会



1980

磁気カード式通行券の実用化



1983

中国自動車道 全線開通
ハイウェイラジオ放送開始

1991

ロゴマーク(CI)の
導入



1992

高松自動車道・松山自動車道・高知自動車道が直結

1995

阪神・淡路大震災発生
高速道路にも甚大な被害



九州自動車道 全線開通

1997

山陽自動車道 全線開通

2001

ETCの運用開始

2004

スマートインターチェンジの導入開始

2005～2010

2005

10月：道路関係四公団の民営化
西日本高速道路株式会社設立



12月：グループ会社の設立(以降、順次設立)

2006

4月：ブランドネーム、ロゴマーク決定



2007

11月：阪和自動車道 全線開通

2008

2月：新名神高速道路
(亀山JCT～草津田上IC)開通



11月：ハイウェイ交通情報提供
『i Highway』サービス開始



2009

3月：休日高速道路料金
上限1,000円、平日3割引等
利便増進割引の試行

2010

3月：第二京阪道路 全線開通



6月：高速道路無料化
社会実験の開始(2011.6まで)

2011～2015

2011

- 1月：海外点検業務等への参入を開始
- 3月：東日本大震災発生

2012

- 11月：大分自動車道 山田SA下り線が「エコエリア山田」としてリニューアルオープン
太陽熱・排熱活用など環境新技術を導入
- 12月：中央道笹子トンネル天井板落下事故発生

2013

- 4月：京都縦貫自動車道（沓掛IC～大山崎JCT間）開通

2014

- 1月：高速道路リニューアルプロジェクト 発表



- 7月：舞鶴若狭自動車道 全線開通
- 12月：東九州自動車道今川PA(上下)オープン

2015

- 3月：徳島自動車道（鳴門JCT～徳島IC間）開通
高松自動車道と徳島自動車道がダブルネットワーク化
- 6月：茨木技術研修センター「I-TR(アイトレ)」開設



2016～2020

2016

4月：熊本地震発生



4月：新名神高速道路有馬川橋
橋桁落下事故 発生

東九州自動車道
(椎田南IC～豊前IC)開通
北九州市から宮崎市が直結



2017

6月：近畿圏の新たな高速道路料金の開始
(対距離制への移行)

2018

3月：新名神高速道路
(高槻JCT・IC～神戸JCT)が全て開通
宝塚北SAオープン



11月：大阪・関西万博
誘致決定

NEXCO 西日本グループの事業

NEXCO 西日本グループでは、「高速道路の建設」と「安全かつ効率的な運営管理」を行う高速道路事業、お客さま満足度の向上をめざすSA・PAの運営管理等を行う関連事業を実施しています。

高速道路事業

建設事業

地域の発展と、地域の暮らしや利便性向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークの整備や、6車線化及び4車線化事業などの既存ネットワークの機能向上を推進しています。



建設中の新名神高速道路 宇治田原第一高架橋



完成式 長崎自動車道 長崎芒塚IC～長崎多良見IC

保全サービス事業

お客さまにいつでも安全・快適に高速道路をご利用いただけるよう、路面や構造物の点検、清掃、補修などの維持管理をはじめ、24時間体制で道路巡回、交通情報の提供、料金收受などを行っています。



構造物の点検



道路巡回

SA・PA事業

SA・PAにおいて、くつろぎ、楽しさ、賑わいを実感していただける空間の創出のほか、地域と連携した取り組みを実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たなサービスを提供しています。

関連事業

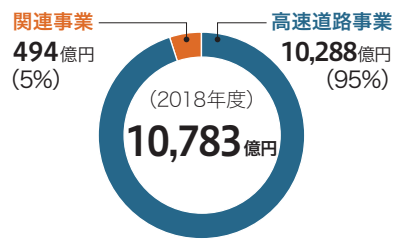


新名神高速道路 宝塚北 SA 外観

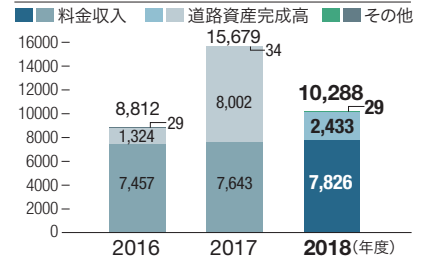


SAでのイベント開催状況

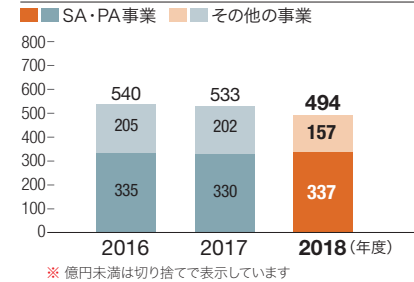
営業収益の事業別内訳*



高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)*

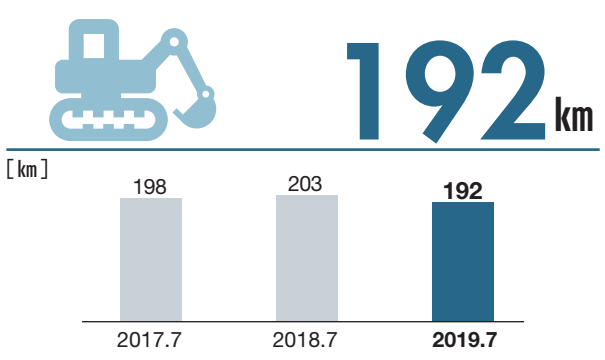


関連事業の営業収益 (単位: 億円)*

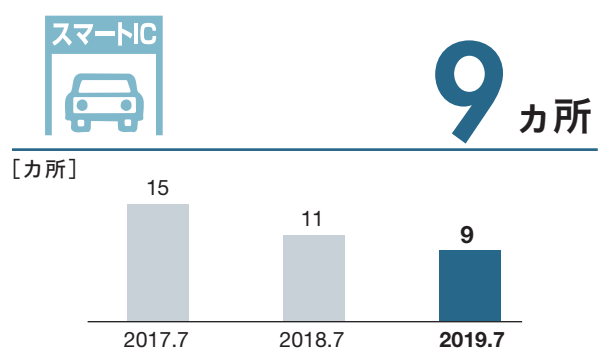


* 億円未満は切り捨てて表示しています

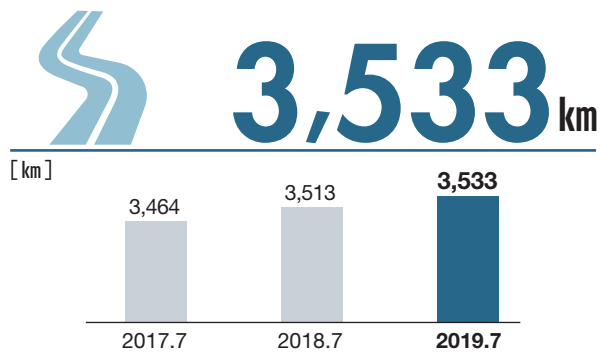
建設延長 (新設 72km / 6車線化及び4車線化 120km)



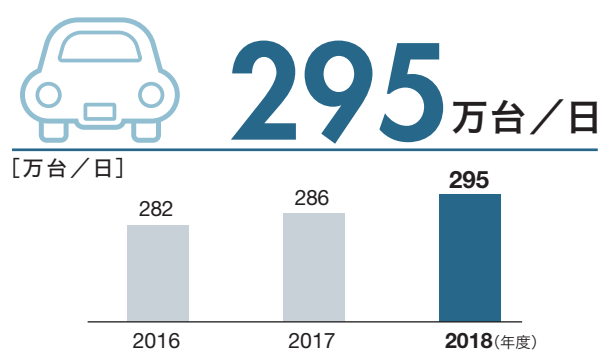
スマートIC事業中箇所



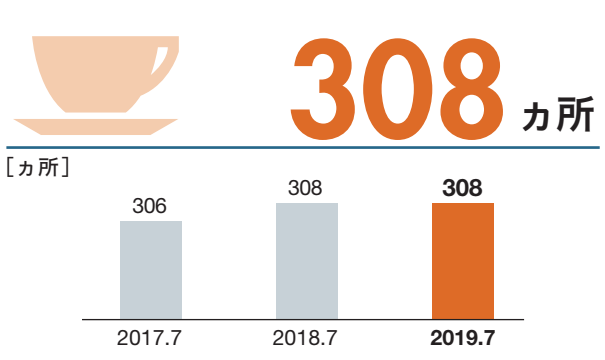
営業延長



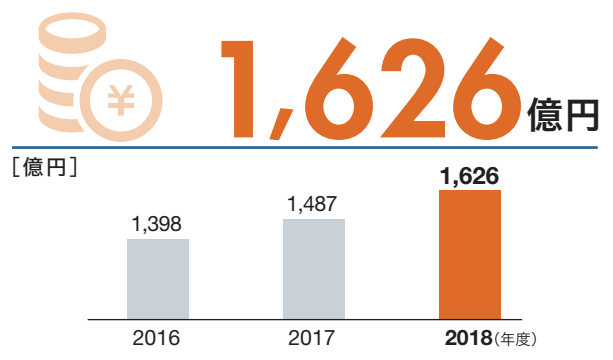
高速道路利用台数



SA・PAの数



SA・PA売上高



NEXCO西日本の成り立ちと高速道路事業のスキーム

NEXCO西日本の成り立ち

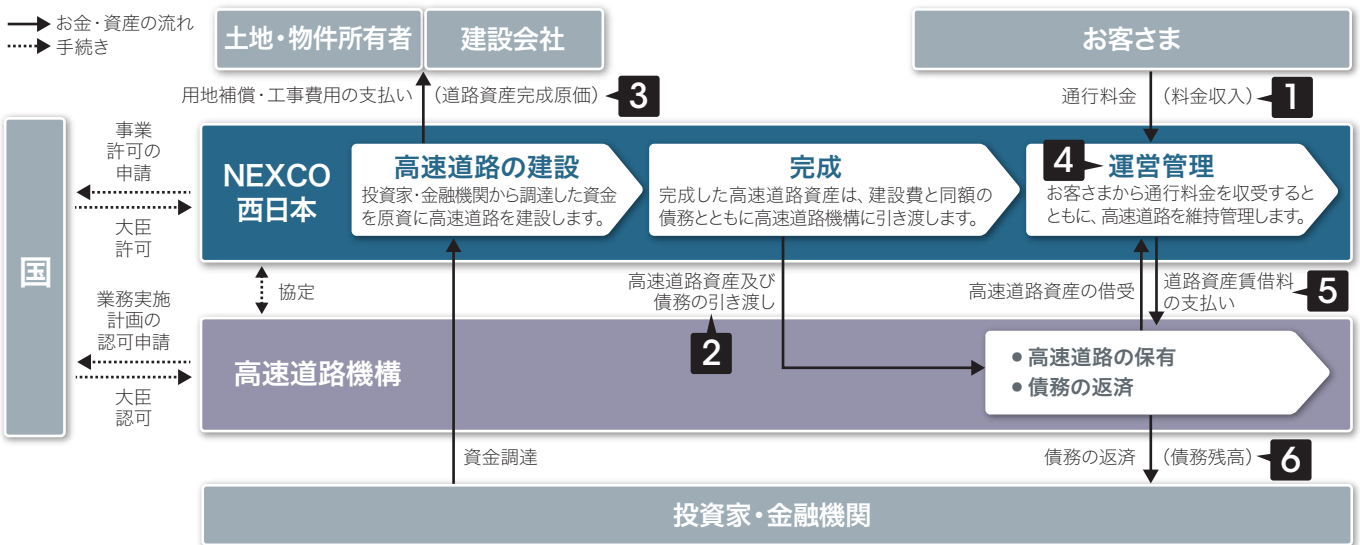
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、高速道路会社各社は、高速道路機構から資産を借り受け、運営管理を担っています。



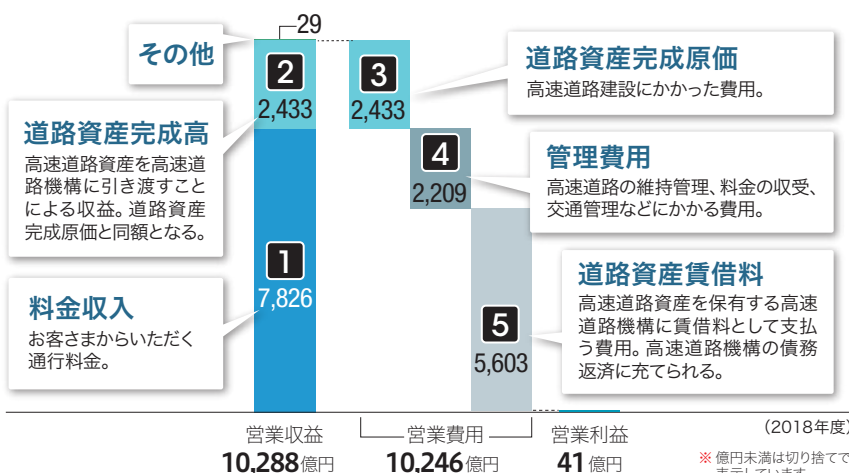
民営化の目的

- 1.旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
- 2.必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
- 3.民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。

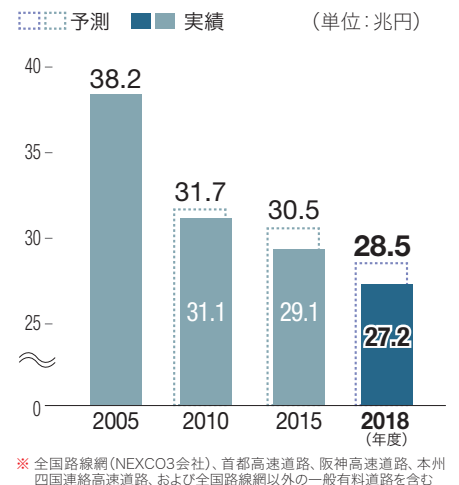
高速道路事業のスキーム



高速道路事業の損益※(12345)



高速道路機構の債務残高※(6)



中期経営計画 2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

当社グループはこの使命を全うするため、当社グループ理念（1ページ参照）のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進していきます。

策定の背景

経営環境の変化



- 老朽化の深刻化
- 大型車、重量超過車両の増加



- 異常気象、災害の頻発化（東日本大震災、熊本地震、南海トラフ・内陸直下型地震への懸念）



- 地域創生の推進
- 訪日観光客の増加
- 生産性の向上への期待

基本的な考え方

安全・安心

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、間断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

信頼

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化をめざすとともに、地域から期待される事業を展開します。

成長

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域とともに100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ一体となって進化し続けます。

主な重点施策

① 100年後も安心して利用できる高速道路



高速道路リニューアルプロジェクトに着手

② 高速道路ネットワークの機能強化



新名神高速道路の建設

③ 工事の安全対策の徹底



工事中の重大事故の撲滅に向け、リスクマネジメントを推進

コーポレート・ガバナンス（企業統治）

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

コーポレート・ガバナンス

会社のガバナンス体制

- ▶ 内部統制システムを整備し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

グループ行動憲章

- ▶ 「NEXCO西日本グループ行動憲章」のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています

WEB

コンプライアンス

会社のコンプライアンス体制

- ▶ グループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

コンプライアンス通報・相談窓口の設置

- ▶ 社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています **WEB**

リスクマネジメント

会社のリスクマネジメント体制

- ▶ グループ全体でリスクマネジメントに取り組んでいます

工事の安全管理の強化

- ▶ 工事の安全管理の強化に取り組んでいます

情報セキュリティ

情報セキュリティの強化

- ▶ 情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます

情報セキュリティ推進体制

- ▶ 本社、支社・事務所における情報セキュリティ推進体制を構築しています **WEB**

人権の尊重

基本方針と推進体制

- ▶ 人権問題啓発推進会議を設置し、毎年活動を見直しています [WEB](#)
- ▶ 人権問題啓発推進の基本方針（NEXCO西日本グループ） [WEB](#)

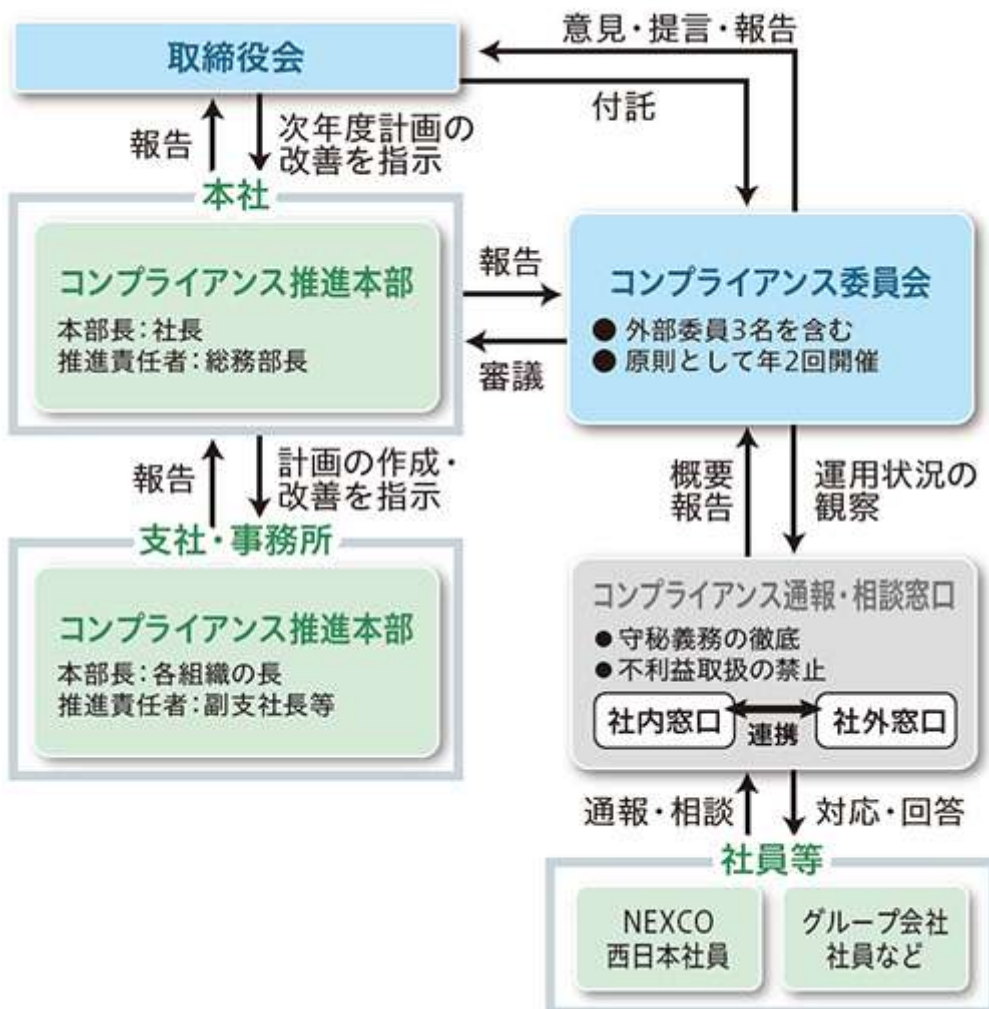
啓発活動

- ▶ 人権を尊重した明るい職場づくりに努めています [WEB](#)

コンプライアンス

会社のコンプライアンス体制

▼コンプライアンス推進体制



グループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

当社では、[コンプライアンス](#) の徹底と、より高度な倫理観を確立するため、本社・支社・事務所にそれぞれコンプライアンス推進本部を設置し、毎年度ごとにコンプライアンス推進計画の作成、実施及び実施状況の検証を行っています。

また、自律的な社内秩序の維持、不祥事の抑制・抑止を図るため、コンプライアンス通報・相談窓口を設置し、社員等からのコンプライアンスに関する通報や相談に対応しています。

さらに、公正かつ透明性の高い企業活動の実践を図るため、客観性かつ多様な知見を有する外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス向上に向けた意見や提言をいただいています。

社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています

公益通報制度として、法令、社内規程、さらには企業倫理等に照らして、グループ会社の業務運営や役員・社員の行動に疑問を感じた時などに、通報や相談を受け付ける「[コンプライアンス](#) 通報・相談窓口」を設けています。窓口は、社内窓口のほかに、外部窓口（弁護士）を4地区に設置し、広くグループ全体の案件に対応しています。通報や相談は、当社グループで働く従業員（契約社員、派遣労働者等を含む）やその他の関係者のほか、当社と取引関係のある方からも受け付けています。

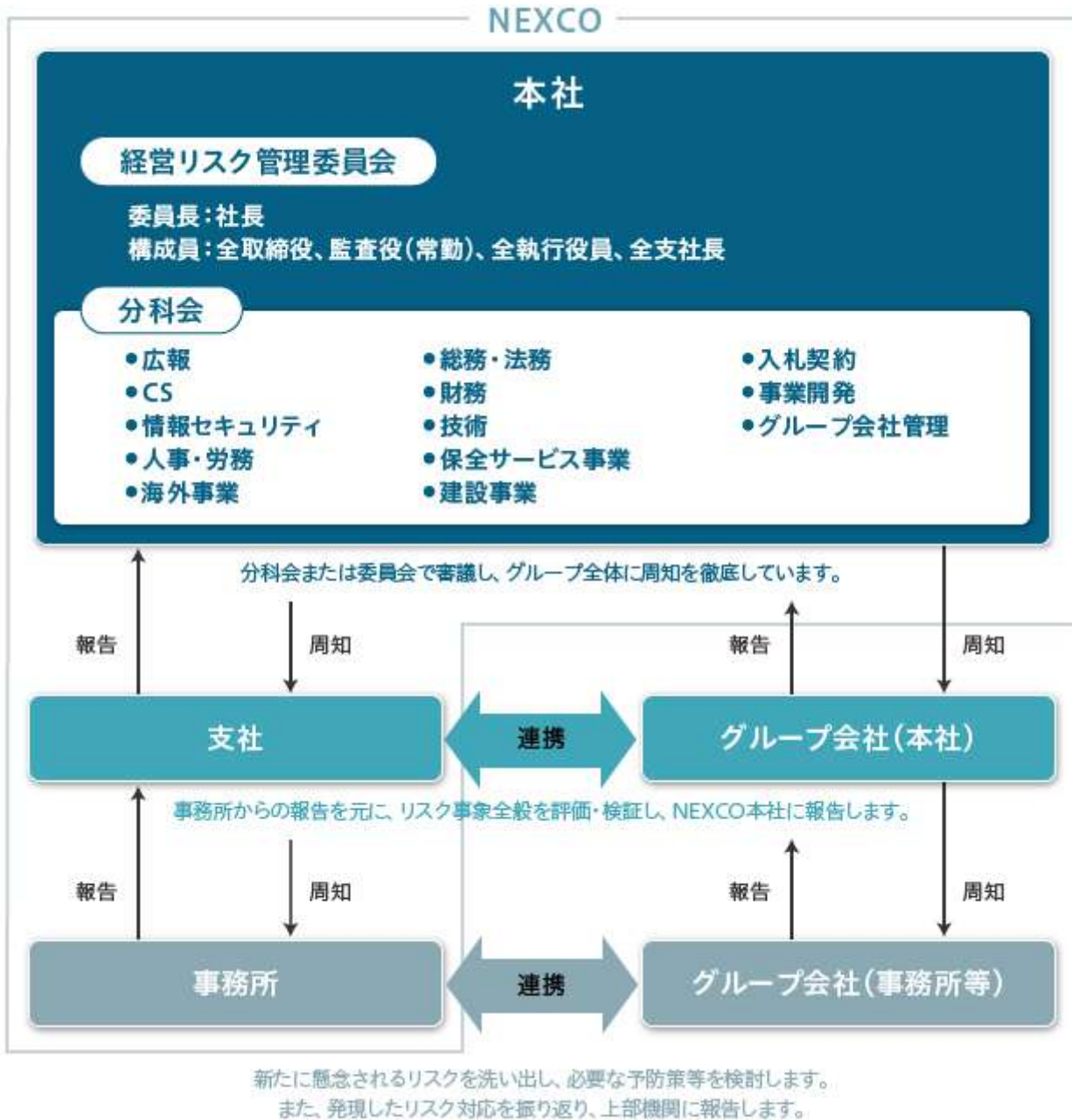
窓口の運用にあたっては、通報者及び調査協力者を保護するため、関係者の守秘義務の遵守を徹底するとともに、通報及び調査協力を理由とした不利益取扱いを禁止しています。

また、匿名通報の場合を除き、調査の結果を通報者に回答しています。

リスクマネジメント

会社のリスクマネジメント体制

▼リスク管理体制



グループ全体でリスクマネジメントに取り組んでいます

当社グループの事業活動に伴うリスクについては、現場を担う事務所及び支社において、グループ会社と連携しながらリスクの洗い出しを行う等自律的に管理していくとともに、当社グループ全体のリスクを統括的に管理する「経営リスク管理委員会」を組織し、グループ全体のリスクの評価・見直しや、予防措置ならびにリスク発現時の対応状況の検証を行うなど、継続的なリスクマネジメント活動^④を推進しています。

工事の安全管理の強化

工事の安全管理の強化に取り組んでいます

《重大事故リスクマネジメントシステムへの取り組み》

次の3項目をマネジメントシステムの柱としてPDCA  を回し、工事の安全性を向上させる取り組みを実施しています。

○ 工事安全に関する社員教育の充実

リスク予見力などを向上させるため、実践的な研修を継続的に実施しています。また、茨木技術研修センターに「安全啓発コーナー」を整備し、重大事故を風化させることなく、工事安全の重要性を再認識する場として活用しています。



安全啓発コーナー

○ 重大事故リスクアセスメント

工事施工会社が策定する施工計画書に重大事故リスクに関する安全対策の記述を求め、受発注者合同で確認・共有を行い、工事の安全性を高めています。

○ 安全協議会活動の強化

現場の安全パトロールにおいて、重大事故リスクや施工計画の変更箇所などに関して重点的に確認しています。



受発注者で実施する安全パトロールの様子

《安全管理体制の強化》

全社的な工事安全レベルの向上を図るため、平成30年度に次の会議体を設置し、工事安全管理体制を強化しました。これにより、発注者の確認や安全啓発活動を通して、工事施工会社の安全意識を高めています。

○「安全対策部会」

現場で発生した工事中事故の報告、重大事故リスクアセスメントの実施状況の確認等を行うことで、事故対策の共有や工事安全管理の確実な実施等を推進させ、現場での工事安全性の向上を図ります。

○「工事安全推進会議」

各現場での取り組みの展開や安全啓発活動、新技術・新工法の検証等を行います。



安全標語



指差呼称

情報セキュリティの強化

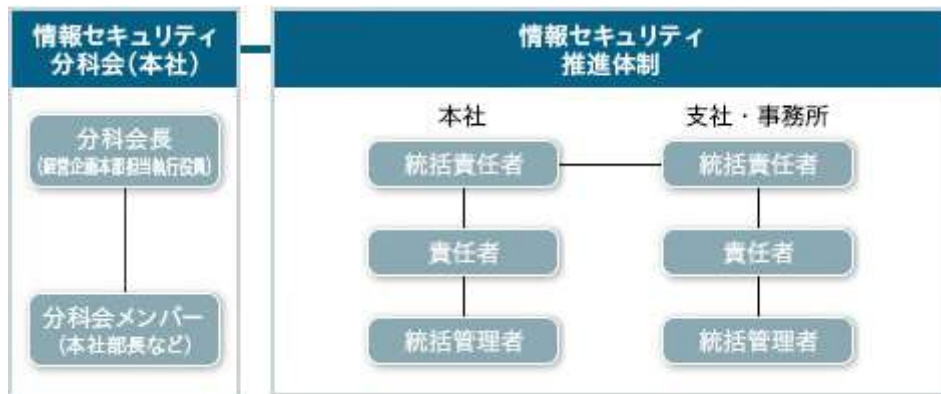
情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ 意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立するため、ソフト面の対策として「個人情報流出させない5か条」の掲示、標的型メール攻撃に対する訓練、情報セキュリティ教育による社員の意識向上に取り組んでいます。

また、ハード面の対策として、不正アクセス対策及びウイルス対策、外部メール誤送信対策に加え、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制の整備を徹底しています。

情報セキュリティ推進体制

▼情報セキュリティ推進体制



本社、支社・事務所における情報セキュリティ推進体制を構築しています

「経営リスク管理委員会」内に設けられた「情報セキュリティ分科会」を中心に、社内における情報セキュリティのマスタープランの作成、実行、検証を行っています。

また、「統括責任者」を筆頭に、情報セキュリティ推進体制を構築し、各拠点における情報資産の安全かつ円滑な運用に努めています。

また、NEXCO西日本およびNEXCO西日本グループ各社のメンバーによりサイバー攻撃対応チーム（CSIRT）を構築しております。

本チームは、NEXCO西日本グループにおけるセキュリティインシデント 対応にかかる初動対応マニュアルの整備やセキュリティ強化に向けた対策の策定を行い、インシデントへの迅速かつ組織横断的に対応する体制の構築をめざしています。

定期的にCSIRTメンバーによる意見交換会や疑似訓練などを行うことにより、各社のインシデント事例を共有し、グループ各社でインシデント対応時の課題と改善点を共有することでグループ全体のセキュリティ対応力の強化に努めています。

基本方針と推進体制

人権問題啓発推進会議を設置し、毎年活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を策定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

2018年度は各種社員研修の中で人権に関する講義を行ったほか、社内報（年2回）、メールマガジン（人権週間に集中的に5回）の発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。また、グループ会社に対しても、出張研修などを実施しました。

2019年度も引き続き、活動を継続していきます。

人権問題啓発推進の基本方針（NEXCO西日本グループ）

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」（世界人権宣言）との認識のもと、私たちは、一人一人の人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。

- ・人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
- ・人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
- ・人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。

人権を尊重した明るい職場づくりに努めています

当社グループでは、人権を尊重し、差別をしない、させない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めています。

外部の各種講演会等に参加し、講演内容のふりかえりを社内掲示板に掲載しました。また、ハラスメントを課題とした研修会を行い啓発活動を行いました。

タンカー船衝突の様子



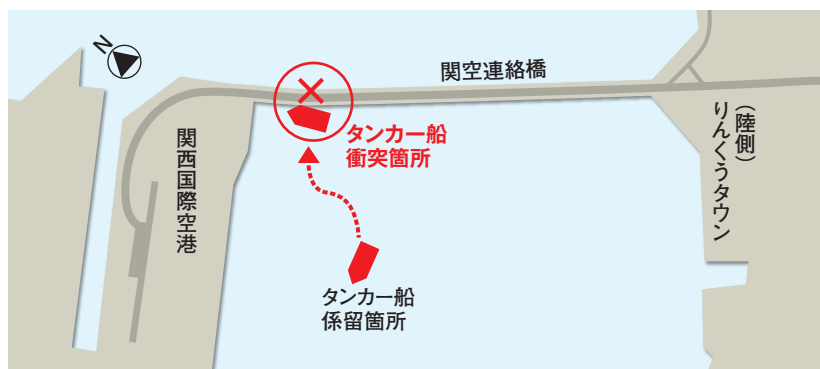
関空連絡橋の復旧

～「日常」を早急に取り戻すために～

台風によるタンカー船衝突というかつてない事態。空港に取り残された人々を救出し、「日常」を取り戻すため、NEXCO西日本グループ、協力会社一丸となって復旧に取り組みました。

台風21号 ～災害対応の記録～

2018年9月4日、25年ぶりに非常に強い勢力で上陸した台風21号は、近畿地方を中心に甚大な被害をもたらしました。空の玄関口である関西国際空港では、高潮による浸水、停電が発生。さらに空港への唯一のアクセス道路である関空連絡橋にタンカー船が衝突したため、道路と鉄道が不通状態となり、空港にいた人々が取り残される事態となりました。



衝突による橋のずれの様子

■早期復旧の取り組み

当社は、人命救助の観点から一刻も早く取り残された人々を救出するため、損傷を受けなかった上り線を活用した片側交互通行による通行措置を9月5日0時40分から開始し、シャトルバス等により7,800人が関西国際空港外へ救出されました。その後、関西国際空港の営業再開に向けて上り線、下り線それぞれの車線を確保した通行とするため防護柵工事等を行い、7日5時10分に対面通行へ移行しました。空港の一部運航再開に間に合わせることで、空港へのアクセス機能を早期に確保しました。



シャトルバスによる救助の様子



撤去作業の様子



復旧完了の様子

関空連絡橋全線復旧までの流れ



■完全復旧までの取り組み

台風の影響によりタンカー船が関空連絡橋に衝突するというかつてない事態でしたが、関係機関、工事関係者等の協力により、当初見込みのゴールデンウィーク前から前倒しの4月8日に完全復旧し、日常を取り戻すことができました。



阪奈高速道路事務所 所長 ※
藤島 勝利

関西そして日本の玄関口のアクセスを担っていることに誇りをもって

昨年9月4日、台風21号による暴風の影響で発生した関空連絡橋へのタンカー船衝突は、私たちにとっても衝撃的な出来事でした。現場では、当日夜半から被災を免れた上り線を利用し、緊急車両の通行及び関空島に取り残された方々の救出バス誘導を開始。これと併行して、支社・本社をはじめ、グループ会社、復旧協力会社等多くの皆さまからご支援を頂き、翌日から対面通行による一般車の交通確保作業並びに損傷した下り線橋梁復旧作業に着手しました。

特に橋梁復旧に関しては、施工会社の迅速な対応により損傷桁の撤去・製作・架設まで円滑に進められ、また、各関係機関のご協力も得ながら、復旧作業に携わる関係者が連携し、一丸となって取り組んできたことで、4月8日に完全復旧を迎えることができました。今回の関空連絡橋復旧に携わって頂いた皆さまに厚くお礼申し上げます。

私たちは、これからも関西そして日本の玄関口（関西国際空港）のアクセスを担っていることに誇りをもって、サービスを提供してまいります。

※ 所属・役職は、2019年5月時点のものです。

災害対応力の強化



土砂流入による盛土崩壊
／広島呉道路（坂南IC～天応西IC）



至高松（新宮IC）

至高知（大豊IC）

土砂崩落による橋梁上部工流出
／高知県（新宮IC～大豊IC）

平成30年7月豪雨 ～災害対応の記録～

西日本から東海地方を中心に観測史上1位の雨量記録を更新し、甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨。この豪雨により、これまでに経験のない広い範囲で当社管内の高速道路が通行止めとなりました。なかでも東西軸の重要幹線道路である中国自動車道・山陽自動車道等が重大な被害を受け、雨が止んだあとも災害による通行止めが継続しました。

高速道路の早期復旧をめざし、NEXCO西日本グループ一丸となって取り組みました。

高速道路の主な被災箇所

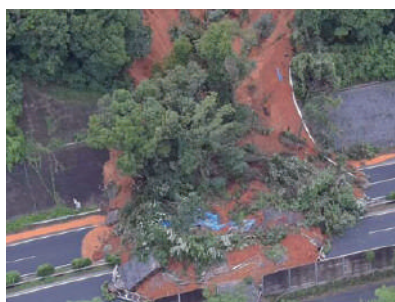
当社が管理する高速道路において、今回の豪雨で広域的に多数の被害が発生し、そのうち通行止め解除に時間を要する重大な被災箇所は10ヵ所発生しました。この10ヵ所のうち7ヵ所が区域外から高速道路上に流木・土砂が流れ込んだ被害であり、特に山陽自動車道の本郷IC～広島東IC間（5ヵ所）に集中しました。



流木・土砂等の流入/山陽道（河内IC～高屋JCT）



流木・土砂等の流入/山陽道（本郷IC～河内IC）



切土のり面崩落/九州道（新門司IC～小倉東IC）



切土のり面崩落/東九州道（椎田南IC～豊前IC）

緊急車両等の通行確保に向けた取り組み

自治体からの災害派遣要請を受けた、自衛隊や警察・消防等の緊急車両の通行を確保しました。

併せて、特に被害の大きかった中国地方への緊急物資等輸送を支援するため、山陽自動車道の広島IC～河内IC間において、緊急物資等輸送車両の通行が可能となる措置を実施しました。



緊急物資等輸送車両通行の様子

関係機関との連携

九州自動車道

福岡北九州高速道路公社と連携し、公社が管理する北九州高速道路の上り線を、九州自動車道上り線の代替とすることにより、本州と九州を連絡する交通軸を早急に確保しました。



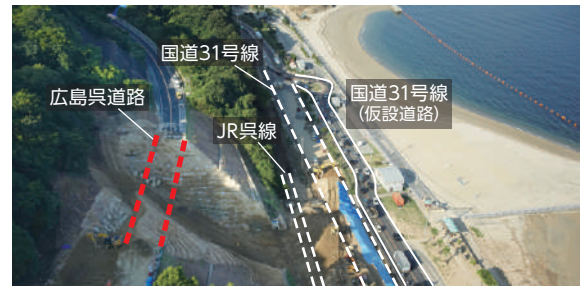
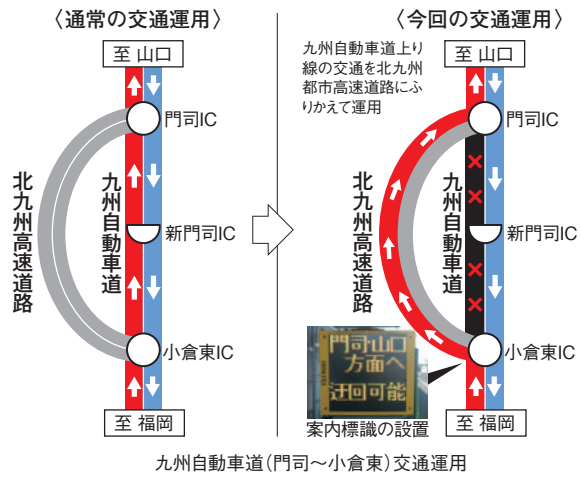
応急復旧の様子

広島呉道路

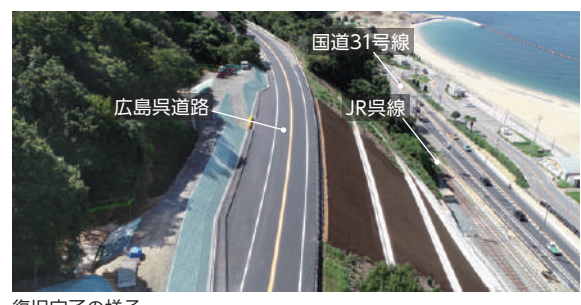
崩落土砂の撤去において、並行する国道31号線、JR呉線も被災したため、国土交通省中国地方整備局及びJR西日本と連携して効率的な復旧作業にあたりました。

国道31号線を仮設道路により早期に交通確保していただいたことで、広島呉道路やJR呉線の復旧作業スペースを確保でき、併せて関係機関との施工調整、昼夜連続での施工により、当初11月としていた復旧目標を9月下旬に早めることができました。

また、広島呉道路の通行止めによる呉市周辺へのアクセス低下への対応として、広域迂回ルート料金調整や広島市と呉市を結ぶ都市間バスへの通行措置により、定時性の確保に努めました。



復旧作業の様子



復旧完了の様子



広島県地域政策局 地域力創造課長
山田 和孝 様

災害時の広島～呉間の移動手段を連携して確保しました

広島県では、全域において交通インフラが甚大な被害を受け、中でもJR呉線・広島呉道路・国道31号が全て遮断された広島～呉間の交通確保が急務であったため、まず、JR呉線沿線において各種の対策を行いました。

NEXCO西日本グループには、広島呉道路通行止め区間における、全国初の災害時BRTの実施や国道31号の渋滞対策について、迅速かつ効果的な協力・連携をいただきました。

バスの運行を再開した当初は、広島～呉間の所要時間が3時間以上かかる便もありましたが、NEXCO西日本グループとの連携等の結果、所要時間が約75分と大幅に短縮され、1日に最大約3千人が利用されるなど、JR復旧までの県民の主な移動手段となりました。

今後も、災害時に迅速かつ効果的な対策が取れるよう、平時からNEXCO西日本グループをはじめとした関係機関との連携強化に取り組んでいきます。



床版取替工事の状況
九州自動車道 本名川橋

高速道路リニューアルプロジェクト

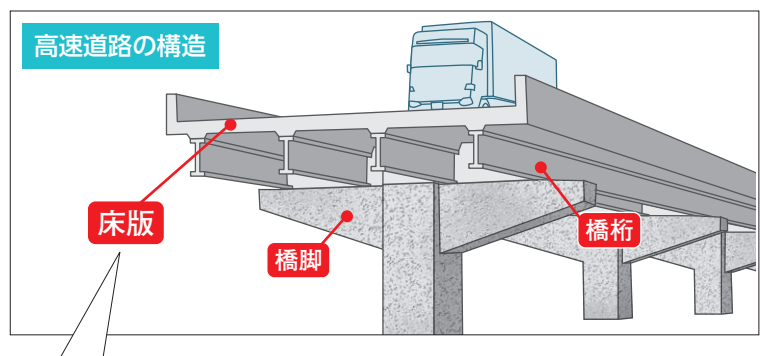


現在、NEXCO 西日本が管理する高速道路は約3,500kmに達しており、その約4割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。そのため当社では、道路ネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

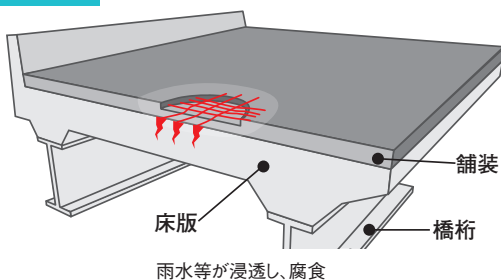
床版取替工事の目的

高速道路の橋梁について、年数経過に伴う老朽化や大型車交通量の増加、凍結防止剤の散布により、「床版」と呼ばれる構造物が劣化しています。

リニューアルプロジェクトでは、その床版を新しいものに取り替える工事を実施し、高速道路を健全に保っています。



床版の劣化



上面 舗装の損傷状況



下面 コンクリートの剥離



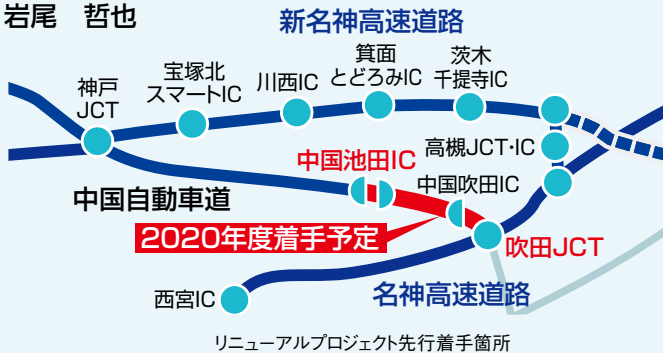
阪神改築事務所 所長
岩尾 哲也

関西の活力を支えて50年、まだまだ使命は続きます。 だから今“高速道路リニューアルプロジェクト”

阪神改築事務所は、中国自動車道吹田JCT～神戸JCT間31.6kmのリニューアル工事を主に担当します。当区間は前回の大阪万博（EXPO'70）の頃整備され、開通後50年を迎えようとしています。都市内を通過するため連続高架橋形式が大半を占め、複数の鉄道施設や主要道路と交差・並行するとともに、沿線には住宅街等が近接しているため、工事による騒音、周辺道路の交通混雑等の社会的影響をいかに最小化していくかが重要課題となります。

特に、2020年度より先行着手する中国自動車道吹田JCT～中国池田IC間は、一定期間の終日通行止めによる工事を計画しています。交通管理者及び他の道路管理者と密に連携し、きめ細かな事前広報及び迂回路情報の提供を実施するとともに、新技術の導入による通行止め期間の短縮に努めてまいります。

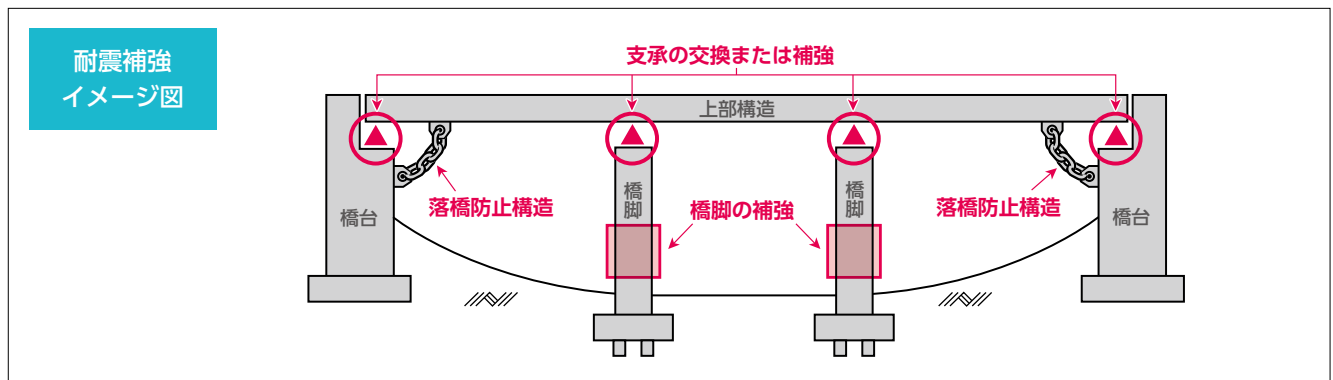
末永く安全・安心に高速道路をご利用いただくために、高速道路リニューアルプロジェクトにご理解とご協力をお願いいたします。



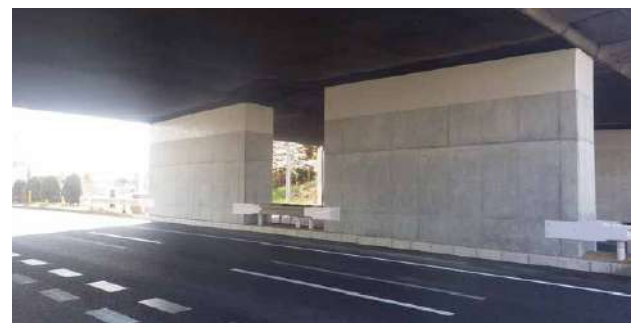
耐震補強対策の加速化

2016年4月に発生した熊本地震における橋梁の被災状況を踏まえ、お客さまに安心して高速道路をご利用いただけるよう、橋梁の耐震補強を進めています。

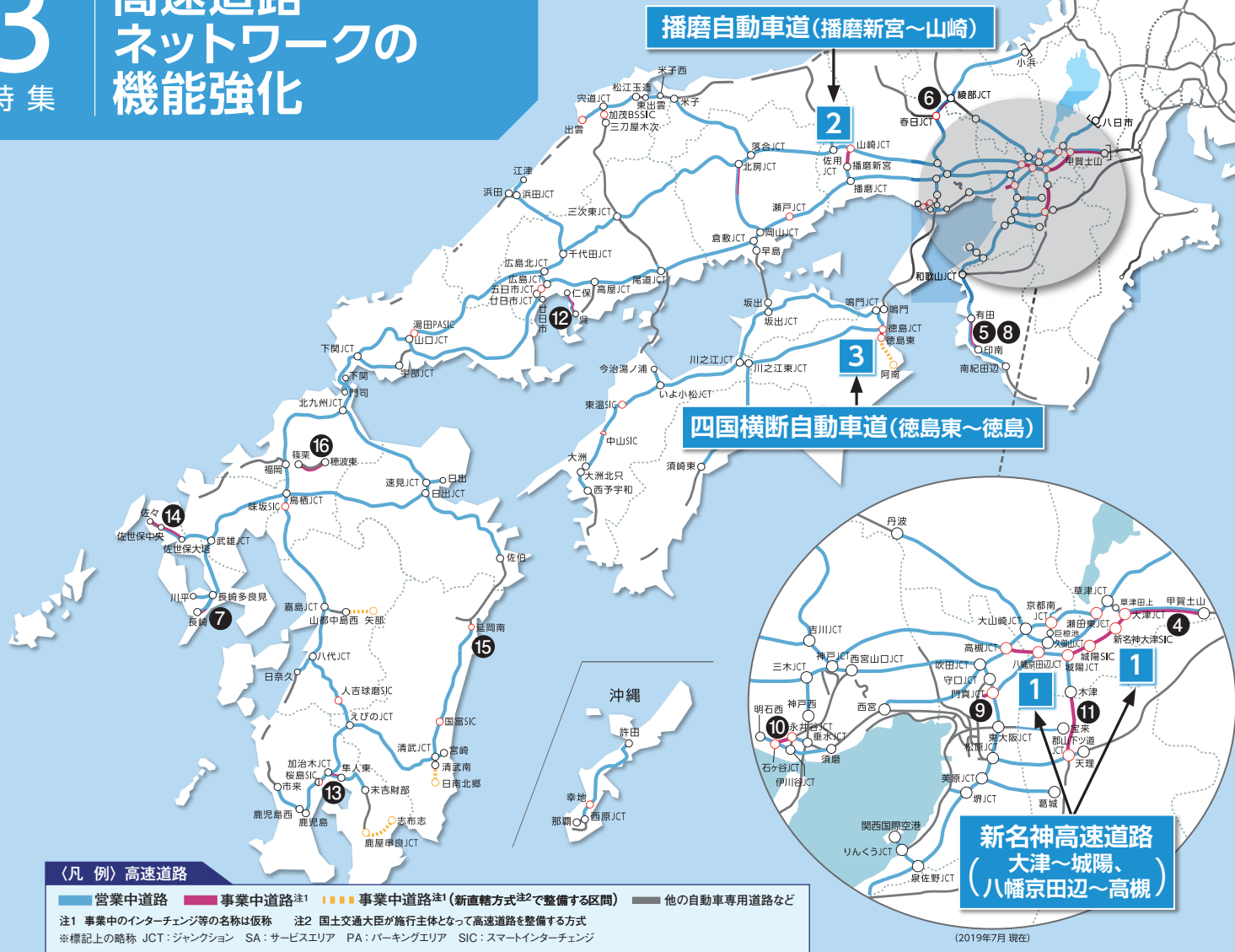
具体的には、落橋・倒壊の防止対策に加えて、路面に大きな段差が生じないように支承の補強等を行っています。



耐震補強前



耐震補強後



高速道路ネットワークの着実な整備

当社では、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークを構築することを目的とし、新名神高速道路などを含む7道路72kmの区間の新設事業及び阪和自動車道など9道路120kmの区間の6車線化及び4車線化事業を行っています。

以下に代表的な3つの事業区間について紹介します。

1 新名神高速道路 (大津～城陽、八幡京田辺～高槻)

1963年の粟東IC～尼崎ICの開通以来、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路の多重化をめざし、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。現在大津JCT～城陽JCT・IC及び八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間は、用地取得及び工事に着手するなど地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



淀川橋 工事の様子

2 播磨自動車道（播磨新宮～山崎）

播磨新宮IC～山崎JCT間は、鳥取県と兵庫県、岡山県の南北の連携が強化されることに加え、中国自動車道と山陽自動車道の結びつきを強めることを目的とした延長約12kmの事業です。

現在、全線にわたり工事に着手しており、引き続き、地元の皆さまや関係行政との協議を進めながら、更に工事進捗を図っていきます。



中国自動車道と接続する山崎JCT工事の様子



吉野川大橋 工事の様子

3 四国横断自動車道（徳島東～徳島）

徳島東IC～徳島JCT間は、高松道・徳島道および新直轄方式で整備されている阿南～徳島東IC間を結ぶ延長約4kmの事業です。

この整備により、四国東部における広域ネットワークが構築されることで、地域間交流の強化、沿線道路の渋滞緩和、災害時の代替機能の強化などが期待されています。

TOPICS

吉野川渡河部の環境保全の取り組み

徳島東IC～徳島JCT間のうち、吉野川に架かる「吉野川渡河部」は、多種多様な希少生物が生息・生育し、渡り鳥のシギ・チドリ類が飛来する干潟があることから、環境保全の観点において重要な場所です。

このような自然豊かな「吉野川渡河部」の環境保全のため、専門家から必要な指導、助言を得るため検討会を設置し、環境保全に配慮しながら事業を進めています。



吉野川渡河部の様子

吉野川河口域で見られる希少生物の例
ハマシギ



4～16 その他主な事業中箇所

2019年度以降も新規区間の整備や4車線化等の改築事業を進めていくことで、広域的なネットワークの形成によるアクセスの向上や所要時間の短縮を実現し、観光誘客や地域産業の活性化、物流事業等の効率化、救急医療活動など社会サービスの効率化に貢献していきます。

主な事業中箇所

区間	延長	区間	延長
1 新名神高速道路 大津JCT～城陽JCT・IC	25km	10 第二神明道路 永井谷JCT～石ヶ谷JCT	7km
1 新名神高速道路 八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC	10km	11 大和北道路 木津IC～郡山下ツ道JCT	12km
2 播磨自動車道 播磨新宮IC～山崎JCT	12km	12 広島呉道路 坂北IC～呉IC(4車線化)	13km
3 四国横断自動車道 徳島東IC～徳島JCT	4km	13 隼人道路 加治木JCT～隼人東IC(4車線化)	7km
4 新名神高速道路 甲賀土山IC～大津JCT(6車線化)	28km	14 佐世保道路 佐世保大塔IC～佐々IC(4車線化)※	17km
5 阪和自動車道 御坊IC～印南IC(4車線化)	10km	15 延岡南道路 延岡南IC	1km
6 舞鶴若狭自動車道 福知山IC～綾部IC(4車線化)	10km	16 八木山バイパス 篠栗IC～穂波東IC(4車線化)	13km
7 長崎自動車道 長崎IC～長崎芒塚IC(4車線化)	3km		
8 湯浅御坊道路 有田IC～御坊IC(4車線化)	19km		
9 淀川左岸線延伸部 門真JCT～門真西	1km		

(注) 事業中区間の IC・JCT 名称は仮称
※ 佐世保中央IC～佐々IC(9km)については、佐世保道路4車線化完了時に国の管理から当社管理になります

3 特集

高速道路 ネットワークの 機能強化



4車線化完了前の状況／高松道(板野IC～引田IC)



4車線化完了後の状況／高松道(板野IC～引田IC)

更なるネットワーク強化の取り組み

NEXCO西日本では、暫定2車線区間における交通渋滞の解消や安全性の更なる向上を目的とし、渋滞や事故が多く発生している区間から順次、4車線化を進めています。2018年度は、舞鶴若狭自動車道及び高松自動車道の2区間計56.5kmを4車線化し、既存ネットワークの強化に取り組んでいます。

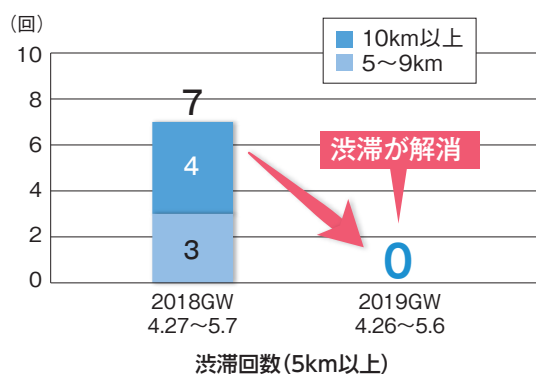
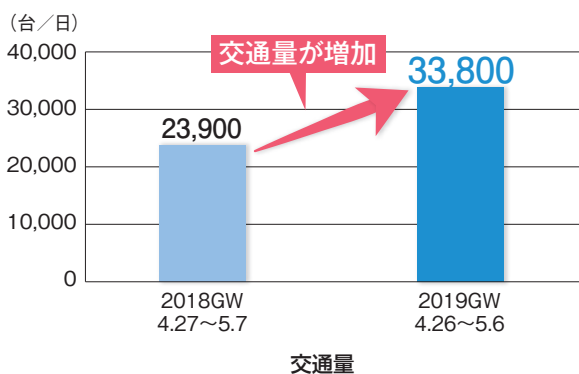
■高松自動車道 4車線化工事の完了

高松自動車道は、2003年に全線が開通し、地域の発展と暮らしの向上に貢献してきました。その後、交通量が増加していく中で、暫定2車線区間において様々な課題が顕在化したため、2012年より4車線化工事に着手しました。そして2019年3月8日、工事が完了し、4車線での走行が可能となり、整備効果が現れています。

① 定時性の向上

2019年GWは10連休となりましたが、5km以上の渋滞はなく、定時性が向上しています。

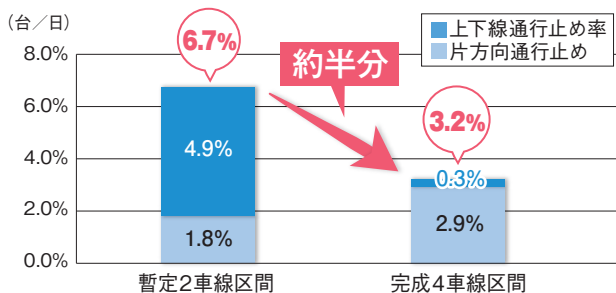
〈2019年GW期間中の交通量及び渋滞回数〉



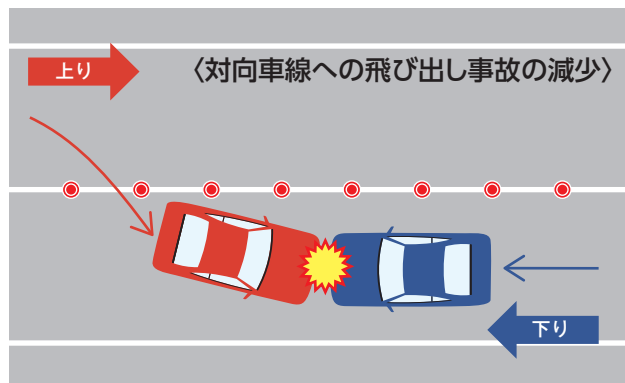
2 安全性の更なる向上

中央分離帯が設置され、対向車線への飛び出し事故が防止されるとともに、渋滞が減少することにより、渋滞後尾での追突事故が減少することから、快適性や安全性が向上します。さらに、突発的な事象に起因する通行止めの減少が期待されます。

〈交通事故発生時に通行止めとなる割合〉



割合：事故通行止め件数 / 総事故件数 (対象は高松道)
出典：NEXCO西日本調べ (集計対象：2012～2016総事故)



ジェイアール四国バス株式会社
新田 典寛 様

4車線化により、高松道がより便利になることに大いに期待しています

4車線化されることにより、危険が少なくなること、渋滞や工事による通行止めがなくなってもらえればと思っています。

年に数回、工事による通行止めがあり、通行止め時には一般道へ迂回運行しており、約40分から1時間ほど遅れて運行していたため、それがなくなるとお客さまや乗務員の負担も少なくなると思います。

所要時間が短くなることで四国と関西がもっと身近に感じられるようになり、四国の魅力をもっと知ってもらえたらうれしいです。

TOPICS

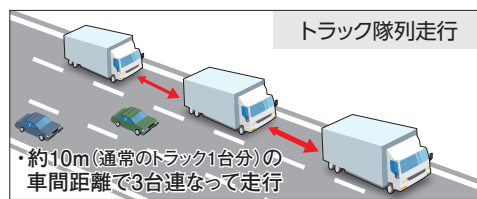
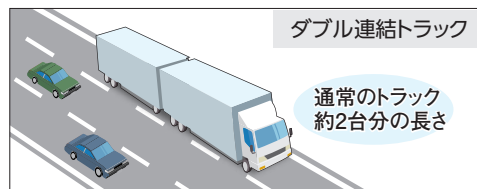
新規事業化について

2019年3月、国土交通大臣から新規事業許可を受け、既存ネットワークの強化を目的とした新たな事業に取り組んでいきます。

具体的には、重要インフラの緊急点検を踏まえ、暫定2車線区間の機能強化による防災及び減災対策のため、広島呉道路の4車線化等を推進していきます。また、ダブル連結トラックやトラック隊列走行の実現を見据えて、物流の効率化等に資する新名神高速道路の6車線化も併せて進めていきます。



新名神6車線化施工箇所



〈物流の効率化・運転手不足の解消〉

高速道路のお客さまと地域の皆さまに 愛されるSA・PAを目指して

NEXCO西日本では、快適な休息をご提供できるよう地域の特性を活かした店舗づくりや品揃え、清潔で快適なトイレや、駐車場の整備など、高速道路のお客さまと地域の皆さまにくつろぎ、楽しさ、にぎわいを実感していただける空間を提供します。



新名神高速道路 宝塚北 SA

お出かけ前にSA・PAをもっと身近に

～インスタグラムでお得な情報を発信しています～

おすすめ商品やイベント情報などをいち早くお客さまにお伝えできるよう、公式アカウントを開発。新商品や季節のおすすめメニュー、地域物産展やイルミネーションなどの情報をご覧いただけます。

NEXCO西日本SA・PA
公式インスタグラム



新商品や新店舗がぞくぞく登場

ナショナルブランドからローカルブランド、一般市中でも話題や人気のお店を高速道路をご利用のお客さまにもより身近に楽しんでいただける商業施設をめざしています。お客さまに新たな喜びをご提供できるよう心がけています。

**九州自動車道
古賀SA(下り線) / 一蘭**

高速道路初出店

**名神高速道路
吹田SA(上り線) / TABLES**

高速道路初出店

**山陽自動車道
権現湖PA(下り線) / 松のや**

宝塚北SA / どうとんぼり神座

**宝塚北SA / 北極星監修の
チキンオムライス**

**西名阪自動車道
香芝SA(下り線) /
天井・天ぷら専門店
「天井てんや」**

奈良県初

西日本の高速道路初出店

イベントで旅をさらに楽しく



阪和自動車道
岸和田SA(上下線)・紀ノ川SA(上下線) /
阪和道はパンダ道キャンペーン



和歌山県の人気観光施設「アドベンチャーワールド」とサービスエリアがコラボしました。

宝塚北SA /
ハイウェイモーターショー

話題のクルマが集結し、見て、触れて、乗れる体験型イベントです。



徳島自動車道
上板SA(上下線) /
阿波踊り演舞

徳島の夏の風物詩を多くのお客さまに楽しんでいただきました。



山陽自動車道
吉備SA(上り線) /
イルミネーション

点灯式では多くのお客さまにお立ち寄りいただきました。

キャッシュレスで便利、快適、そしてお得に

お買い物・お食事時のお支払いを快適に済ませていただけるよう、SA・PAではキャッシュレス化を推進しています。

～イオンNEXCO西日本カードを発行～

イオングループと提携してクレジットカードを2018年11月より発行しました。ETCカードで高速道路をご走行されると、イオンのときめきポイントが土日で通常の3倍(平日は通常の2倍)たまるなど、よりお得にご利用いただけます。



SA・PAの入会イベント



モバイルでの決済



～モバイル決済サービスの導入～

- WeChat Pay** :九州自動車道 古賀SA(上り線) 他11ヵ所 (2018年4月より順次)
- Alipay** :名神高速道路 草津PA(下り線) 他7ヵ所 (2017年1月より順次)
- LinePay** :大分自動車道 山田SA(下り線) 他5ヵ所 (2017年1月より順次)
- PayPay** :名神高速道路 草津PA(上下線) 他7ヵ所 (2018年12月より順次)

※2019年7月よりセブンイレブン店舗で「WeChat Pay」「Alipay」を導入予定

小さなお子さま連れでも安心してお買い物を

2021年までに、すべてのサービスエリアで24時間利用可能なベビーコーナーの設置、妊産婦の方も利用できる屋根付き優先駐車スペースの整備、ショッピングコーナーでのおむつの販売をめざします。

屋根付き優先駐車スペース



妊産婦の方もご利用いただけます。

おむつの販売



ショッピングコーナーにておむつを小単位で販売しています。

ベビーコーナー整備

授乳専用個室



手洗い用のシンク



オムツ替え台

お客さま

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

交通安全の取り組み

交通安全の確保

交通安全対策アクションプラン

- ▶ ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています **WEB**

逆走対策

- ▶ 2020年までに高速道路での逆走事故ゼロをめざしています

対面通行区間での事故対策

- ▶ ワイヤロープ設置による安全対策を行っています **WEB**

さまざまな交通安全対策

- ▶ 水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装 **WEB**
- ▶ 夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク **WEB**
- ▶ 走行速度を抑制する導流レーンマーク、薄層舗装 **WEB**
- ▶ カーブ区間での安全対策 **WEB**

高速道路走行時のルールとマナー

- ▶ 高速道路を安全にご利用いただくため、高速道路走行時のルールとマナーについて呼びかけを行っています **WEB**

DRIVE&LOVE

- ▶ 幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています **WEB**

高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

- ▶ 24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和



交通容量の確保

- ▶ ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています [WEB](#)

一部拡幅工事・ネットワーク強化

- ▶ 新名神の開通や高松道4車線化により渋滞が減少しました [WEB](#)

渋滞予測情報の提供

- ▶ 渋滞回避のための呼び掛けを行っています
- ▶ さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています

道路交通情報の発信



道路管制センター

- ▶ 情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

アイハイウェイ

- ▶ 交通情報をスマートフォンやパソコンで手軽にチェックできるサービス「アイハイウェイ」を提供しています [WEB](#)

お客さまサービスの向上



料金所でのサービスの向上

- ▶ 快適なご利用のため、おもてなしの心をもって応対します

ETCの利便性向上

- ▶ 入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています [WEB](#)

CS推進本部会議

- ▶ 経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています [WEB](#)

お客さまセンターでの対応品質の向上

- ▶ 高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています [WEB](#)

お客さまの声の状況

- ▶ 約39.4万件のお客さまの声をいただきました [WEB](#)

お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

- ▶ お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています [WEB](#)

CS推進オピニオンリーダー意見交換会

- ▶ 意見交換会を開催し、各界の有識者から意見をお聞きしています [WEB](#)

CS（お客さま満足）の向上

- ▶ CS向上のため、研修やCS推進大会を実施しています [WEB](#)

魅力あふれるSA・PAづくり

店舗のリニューアル

九州自動車道古賀SA(下り線)

- ▶九州自動車道 古賀サービスエリア(下り線)では初登場が目白押し!

地域と連携した商品展開

『柑橘香る玉女フロランタン』の販売

- ▶地元の高校生が開発した洋菓子を販売しています

地域の賑わい拠点

ウェルカムゲートの設置

- ▶高速道路に乗らなくても店舗にお越しいただけます

各種イベントの実施

- ▶季節や地域ごとに企画を行っています
- ▶サービスエリアを『ウインターイルミネーション』で彩りました [WEB](#)

ドライブの拠点機能

インフォメーションの設置

- ▶SA・PAのインフォメーションでは快適で楽しく、安全なドライブをサポートしています

インバウンド対応の強化

- ▶訪日外国人ゲストが安心して利用できる環境を整えています。 [WEB](#)

Wi-Fiサービス

- ▶Wi-Fiの整備により、旅先でも情報を入手しやすい環境を整えています

シャワーステーション

- ▶シャワーステーションを設置しています [WEB](#)

交通安全対策アクションプラン

ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています

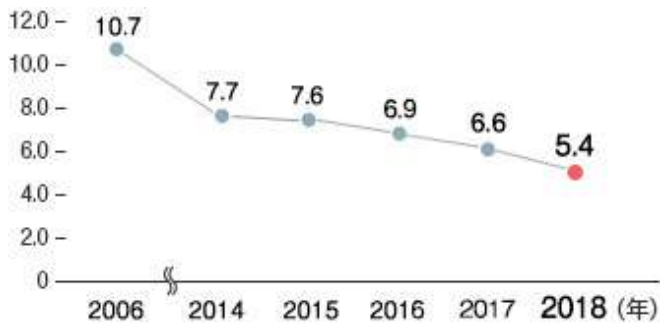
2011年度に策定した「交通安全対策アクションプラン」を軸に、ハード・ソフト両面から交通安全対策を強化しています。

ハード面では、視認性向上・速度抑制などの対策を、事故が多い箇所を優先して、2018年度に管内41カ所を実施しました。

ソフト面では、ETC 2.0などのプローブ情報から車両の挙動や速度を算出し、ヒヤリハット箇所の抽出や旅行時間の精度向上などにつなげ、より高精度な情報提供に向けて取り組みを継続しています。

これらの結果、死傷事故率は、NEXCO西日本創立直後の2006年の10.7件/億台kmから2018年は5.4件/億台kmと全体的に減少傾向にあります。今後「アクションプラン」の効果を検証し、さらなる安全の実現に努めていきます。

▼高速道路の死傷事故率



逆走対策

2020年までに高速道路での逆走事故ゼロをめざしています

高速道路における逆走は、重大事故につながる非常に危険な行為です。

当社では、2020年までに逆走事故をゼロにすべく、料金所周辺の開口部の締め切り、一般道接続部の誤進入対策、さらには一般公募で寄せられた逆走防止技術の現地展開を進めています。併せて、ホームページやチラシ・ポスター等を活用し、逆走の危険性をお客さまに訴える広報活動を実施しています。



逆走対策の例



チラシによる広報活動

対面通行区間での事故対策

ワイヤロープ設置による安全対策を行っています

重大事故につながりやすい対面通行区間での正面衝突事故防止対策として、2017年度よりワイヤロープを設置しています。その結果、2018年3月末時点で38件のワイヤロープ接触事故が発生したものの突破事故は発生していないことから、対向車線突破防止効果が確認されました。今後も引き続き残りの対面通行区間へのワイヤロープ設置を進めていきます。

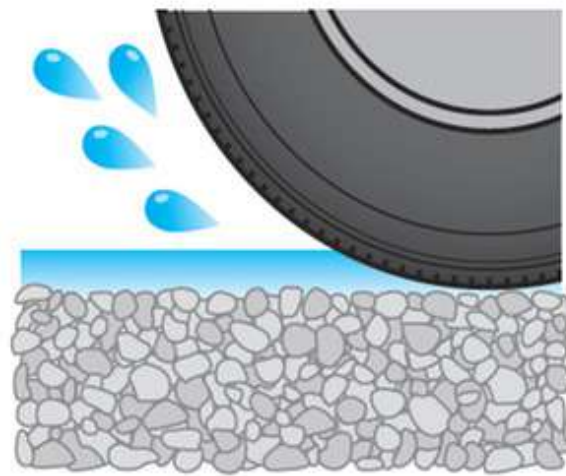


ワイヤロープの設置状況

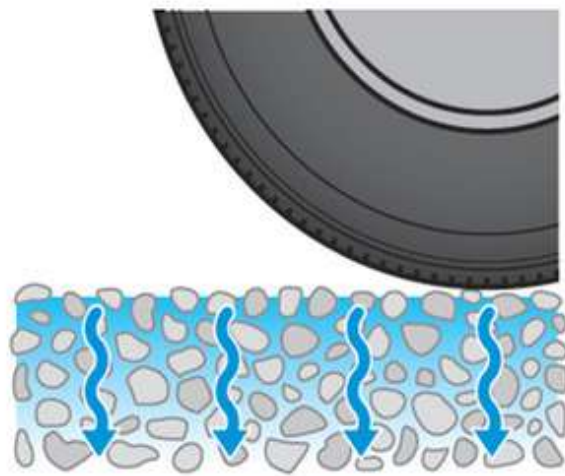
さまざまな交通安全対策

水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装

高機能舗装は一般的な舗装に比べ、車が巻き上げる水しぶきが減り視野性が向上します。また、**滑り摩擦係数** μ が高くなるため、雨天時の走行安全性の向上や交通事故の防止にも有効です。



隙間がなく雨水がたまりやすい



隙間があり水はけが良い

夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク

一般的なレーンマーク（路面標示）よりも反射輝度が高い「高輝度レーンマーク」によって、夜間や雨天時の視認性を向上させることで、注意喚起を行っています。



高輝度（凹凸）レーンマーク

走行速度を抑制する導流レーンマーク、薄層舗装

車線の幅を狭く見せる効果のある導流レーンマークによって、速度抑制を促しています。また、舗装表面に塗装によるわずかな段差を設け、走行車両に振動を与える**薄層舗装** [□](#)によって、漫然運転を抑制する注意喚起を行っています。



路面の横断している赤色部分が薄層舗装

カーブ区間での安全対策

カーブ区間などの道路線形を路面標示などによって事前にお知らせし、速度抑制及び視野性向上を図ることで、カーブ区間における事故防止対策を強化しています。



矢羽板や路面標示の施工例

高速道路走行時のルールとマナー

高速道路を安全にご利用いただくため、高速道路走行時のルールとマナーについて呼びかけを行っています

高速道路を安全にご利用いただくために、高速道路走行時のルールとマナー、万が一高速道路でトラブルに見舞われた際の対処方法などについて、交通安全キャンペーンや各種チラシ、ポスター、会社ホームページ等で呼びかけを行っております。

また、いわゆる「あおり運転」等の危険な運転行為に関する防止を目的として、NEXCO西日本管内で統一的・集中的に啓発活動を実施しております。

高速道路走行時のマナーとルール 守ってください！5つの約束

高速道路は、ルールとマナーを守ることによって、快適なドライブができます。
5つの約束を守ってゆたかの安全運転を！

(1)安全速度を守る



高速道路での
悪質・危険な運転
は
道路交通法違反
です！



(2)十分な車間距離をとる



(3)割り込みや、いわゆる
「あおり運転」をしない



(4)わき見運転をしない



(5)路肩走行をしない



ドライブにはラブがある。
DRIVE&LOVE

DRIVE&LOVE

幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています

社会全体で交通事故ゼロを目指すプロジェクト「[DRIVE&LOVE](#)」を2010年に立ち上げ、283の賛同企業・団体、約27,300名の個人サポーター（2019年1月末時点）の皆さまとともに、安全運転の実施を呼びかけています。

2017年度に活動のキャッチフレーズを「笑顔の運転」という”より日常語に近いもの”に変更し、各種交通安全啓発イベントへの参加、公式ウェブサイトでの情報発信、賛同企業・団体との交流会の場で「得意分野を生かしたPR協力」を依頼するなど、プロジェクト認知の拡大・理念の浸透を推進し、安全運転を実施していただく個人サポーターのさらなる獲得に向けて活動しています。



DRIVE&LOVEロゴ



企業交流会の様子

関連ページ

- ▶ [「DRIVE&LOVE」公式ウェブサイト](#)
- ▶ [安全・快適ドライブ（ドライバーの皆様へ）](#)

高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を巡回しています。交通管理隊が収集・把握した渋滞の状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してお客さまに発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況



隊員間の連携により、お客様の安全と交通の確保に取り組んでいます。

高速道路の巡回では2人1組で業務に臨みます。事故等の異常事象では、1人は「監視員」として、赤旗を用いた走行車両への注意喚起や、通行する車の動向監視を行います。

もう1人は「作業員」として、お客さま対応や異常事態への対応を行います。一瞬の隙が事故を引き起こすこともあることから、2人の密接な連携は欠かせません。

作業時には車の動向に注視し、迅速かつ的確な処理に努めることで、お客さまと自らの安全や、円滑な交通の確保に取り組んでいます。



西日本高速道路パトロール九州(株)
鹿児島基地

副班長 **前田 修身** 隊員 **田中 義樹**

交通渋滞の緩和

交通容量の確保

ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています

高速道路の渋滞を緩和するため、ほかの道路とのネットワーク形成による交通の分散や車線の増設、文字情報などの提供による速度低下抑制など、ソフト・ハード両面の対策に取り組んでいます。

また、当社には渋滞予測を専門とした社員（渋滞予測士）が在籍し、ゴールデンウィーク・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測情報を提供するなど、お客様への渋滞回避の呼びかけを行っています。

▼高速自動車国道における渋滞状況



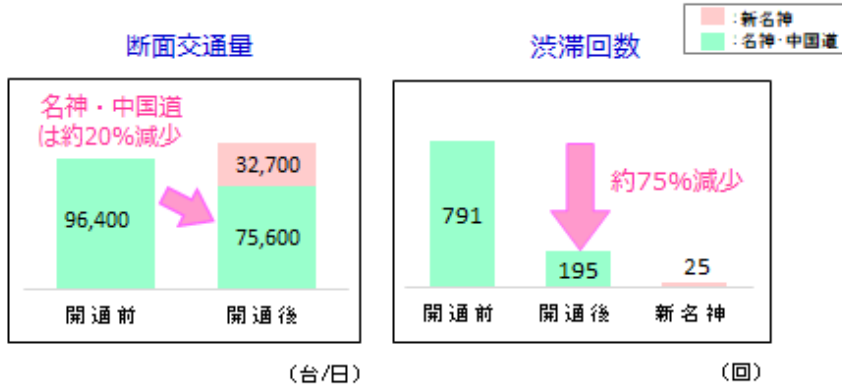
一部拡幅工事・ネットワーク強化

新名神の開通や高松道4車線化により渋滞が減少しました

2018年3月18日に新名神高速道路（高槻～神戸）が全線開通し、「新名神」と「中国道・名神」のダブルネットワークが完成しました。これにより、渋滞が大幅に減少しました（開通後1年間で5km以上の渋滞回数が75%減少）。

また、2019年3月8日には高松自動車道の全線4車線化が完了し、こちらでも渋滞が減少しました。（ゴールデンウィーク期間中の5km以上の渋滞回数について、2018年は7回発生、2019年は0回）
現在も、湯浅御坊道路の4車線化や播磨自動車道建設などの事業を進めています。

新名神（高槻～神戸）開通後1年間の交通状況



- ・断面交通量は、交通量計測装置による値（加重平均）
- ・渋滞は、5km以上の渋滞回数を集計
- ・渋滞は、5km以上の渋滞回数を集計
- ・開通前：2017.3.20～2018.3.17（1年間）、開通後：2018.3.19～2019.3.18（1年間）で集計
- ・集計範囲：名神（吹田JCT～高槻JCT・IC）、中国道（神戸JCT～吹田JCT）、新名神（高槻JCT・IC～神戸JCT）

渋滞予測情報の提供

渋滞回避のための呼び掛けを行っています

ゴールデンウィーク・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測ガイドを製作し渋滞予測情報を公表するほか、「渋滞予測士」（渋滞予測を専門で行う社員）がテレビ・ラジオ・新聞等に出演し、渋滞の傾向や渋滞回避のための分散利用について呼び掛けを行っています。

▼渋滞予測士による予測情報の提供



さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています

お客さまに渋滞低減にご協力いただくことを喚起するため、上り坂などで速度回復を促し適正な交通容量を確保するための簡易情報板の設置をしています。またゴールデンウィーク・お盆・年末年始の交通混雑期には渋滞予測ガイドを製作し渋滞予測情報を公表する他、「渋滞予測士」（渋滞予測を専門で行う社員）がマスメディアを通じた分散利用や渋滞回避の呼びかけを行っています。

また、ウェブサイトのルート・料金検索のページにて、「渋滞予測」、「渋滞予測を加味した所要時間」や「出発時間をずらした場合の所要時間」が確認できるようにしています。

▼簡易情報板設置状況



▼渋滞予測ガイドの配布（交通混雑期限定）



▼渋滞予測を加味した所要時間が確認できます

The image shows the NEXCO website interface. At the top, there are navigation tabs: '料金・交通' (Toll/Traffic), 'サービスエリア情報' (Service Area Information), and '企業情報' (Company Information). Below these are main menu items: 'ルート検索・料金情報' (Route Search/Toll Information), 'リアルタイム交通情報' (Real-time Traffic Information), '工事規制予定' (Construction Regulation Schedule), '渋滞予測' (Traffic Prediction), '観光・イベント情報' (Tourism/Event Information), and '安全・快適ドライブ' (Safety/Comfortable Drive).

The 'ルート検索・料金情報' section is highlighted with a blue box and contains options: 'IC名を入力して検索' (Search by IC name), '地域から探す' (Search by region), '道路から探す' (Search by road), and '都道府県から探す' (Search by prefecture). The 'リアルタイム交通情報' section shows a map of Japan with a callout for '渋滞予測を確認' (Check traffic prediction). The '工事規制・通行止め' section also has a callout for '渋滞予測を確認'.

A blue arrow points from the search section to a detailed route page. This page shows a list of routes with callouts for '渋滞予測を加味した所要時間を確認' (Check travel time including traffic prediction) and '渋滞予測を確認' (Check traffic prediction). To the right, a graph titled '出発予定時刻' (Planned Departure Time) shows '所要所要時間の推移' (Travel time shift) with callouts for '出発時間をずらした時の所要時間を確認' (Check travel time when departure time is shifted).

関連ページ

- ▶ 渋滞予測カレンダー
- ▶ ルート検索・料金情報

道路交通情報の発信

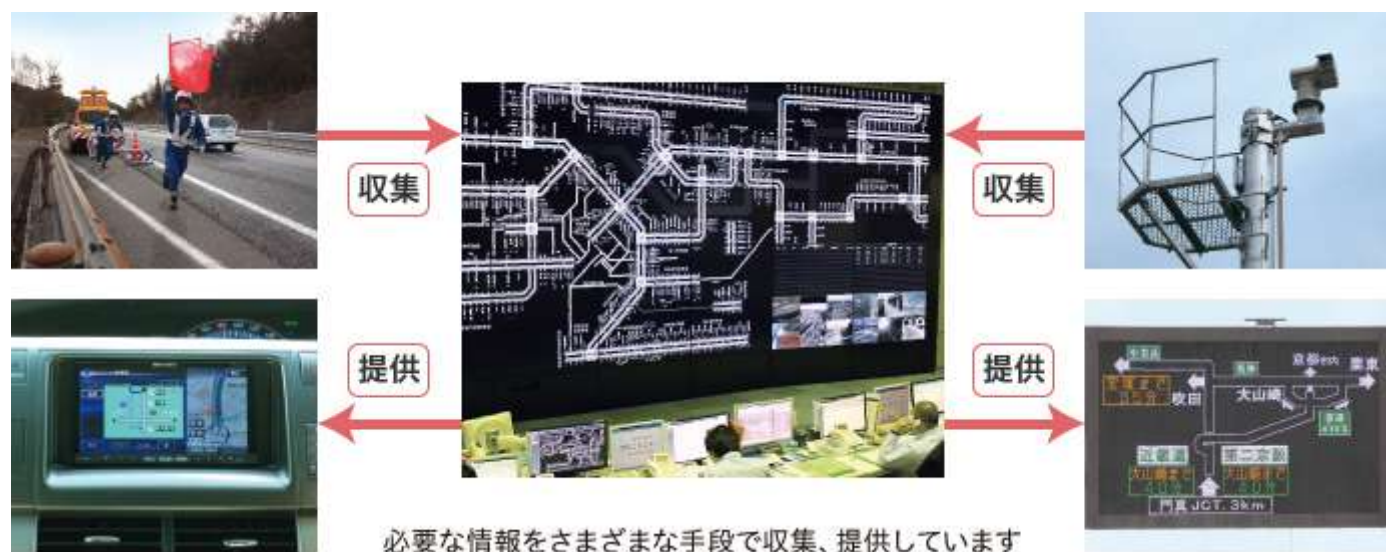
道路管制センター

情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。

同センターの交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、情報板やカーナビなどを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

▼道路管制センター



アイハイウェイ

交通情報をスマートフォンやパソコンで手軽にチェックできるサービス「アイハイウェイ」を提供しています

「アイハイウェイ」では、現在の交通状況の表示や道路映像、SA・PA駐車場映像のリアルタイム配信、通行止め時の料金調整を行う乗継情報の提供など、便利な情報を提供しています。

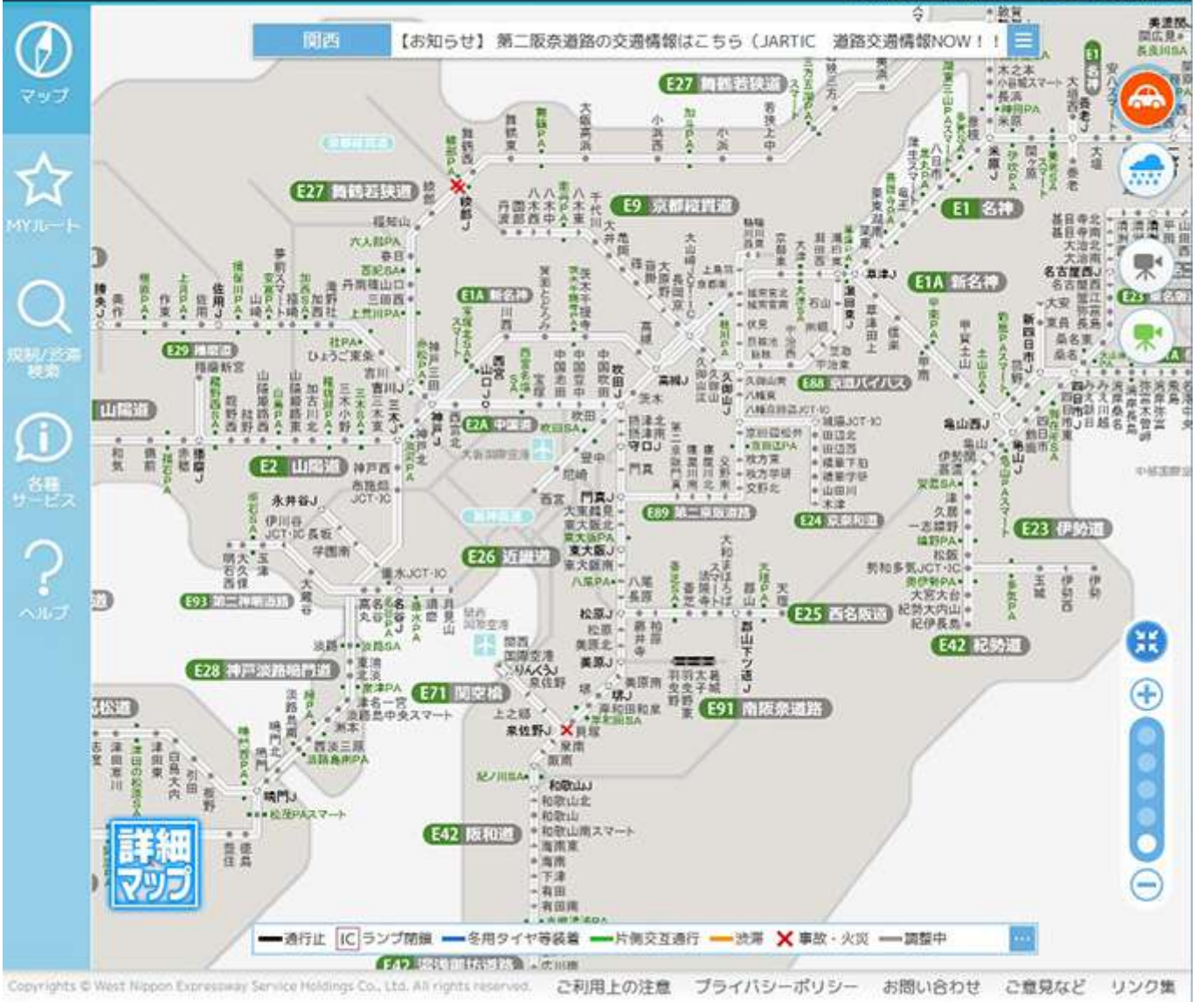
また、スマートフォン用のアプリケーションも配信しており、累計330万回を超えるダウンロードをいただいております。2018年度は、パソコン版サイトのフルリニューアルを行い、地図が見やすくなるとともに各機能の操作性を向上させました。また、道路映像箇所の追加を行っており、今後もお客さまの利便性向上に向けた取り組みや、コンテンツの充実に努めていきます。

▼スマートフォンでの画像イメージ



▼パソコンでの画像イメージ

◆渋滞後尾ではハザードランプを点灯し



関連ページ


▶ [アイハイウェイ](#)

お客さまサービスの向上

料金所でのサービスの向上

快適なご利用のため、おもてなしの心をもって対応します

料金所は、お客さまを笑顔でお迎えし、快適に高速道路をご利用いただけるようなサービスに努めています。

近年、ETC  の普及、料金精算機の導入等に伴い、インターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。そこで、勉強会やアナウンス研修等を行い、声によるご説明・ご案内においても「笑顔」を届けられるよう、これからも「NEXCO西日本の顔」として24時間365日体制で取り組んでまいります。



料金收受の様子

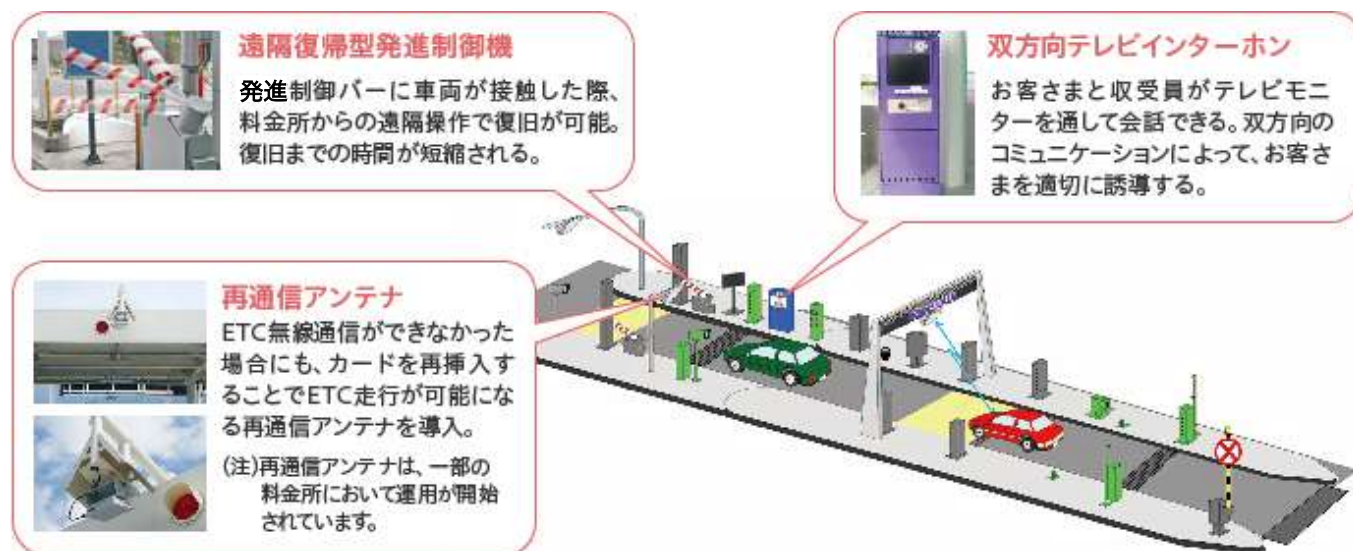
ETCの利便性向上

入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています

入口ETCレーンが1つしかない料金所では、カード未挿入などによるトラブルやメンテナンスなどで、ETCレーンが閉鎖されている時には、一般レーンのご利用をお願いしており、ご不便をおかけしていました。

このため当社では、ETCサービス休止時間の削減をめざし、入口レーンへのETC複数設置工事や、円滑なレーン通行を可能にする第二世代ETCの導入工事を進めています。

▼第二世代ETC設備概要



CS推進本部会議

経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています

お客さまのニーズに対応するため、経営層・各担当部による「CS推進本部会議」を隔週開催し、お客さまから寄せられたご意見・ご要望について、議論しています。

特にお客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については注目してフォローするとともに、社内で水平展開すべきものについては重点課題として選定し、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。開催回数は2018年11月に延べ500回に達しました。

なお個別の改善事例については、会社ウェブサイトやSA・PAの掲示板に掲載しています。

こうした取り組みを通じて、今後もお客さまとのいっそうの信頼関係強化をめざしていきます。



第500回CS推進本部会議の様子

▼CS向上のマネジメントシステム



お客様センターでの対応品質の向上

高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています

対応するテレコミュニケーターは、お客さまとの対応を円滑に進めていく能力の向上などを目的とした研修に積極的に取り組むとともに、対応用の資料を作成し勉強会を実施するなど、継続的に対応品質の向上に努めています。

なお、お客さまからいただいたご意見・ご要望は担当部署へ報告し、お客さまサービス向上に繋げております。

今後も、こうした取り組みを継続し、いっそうお客さまにとって利用しやすい相談窓口をめざしていきます。

▼「お客様センター」の受付体制

受付時間	年中無休（24時間）
2018年度の件数	年間約38.7万件（受電件数）
外国語対応	5カ国語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語）

【お問い合わせ急増時の対応】

通行止めの発生時や荒天時など、お問い合わせの急増時への対応として、以下の情報提供を実施しています。

- ・お電話の接続待ち中に、自動音声でのアイハイウェイのご案内
- ・フリーダイヤルからハイウェイテレホン（交通情報の自動音声案内）への転送

お客さまの声の状況

約39.4万件のお客さまの声をいただきました

2018年度、NEXCO西日本にいただいたお客さまの声は、全体で約39.4万件でした。そのうちお客さまセンターへのお電話が約38.7万件となっており、ほとんどが料金や交通情報に関するお問い合わせです。また、ハイウェイポストやメールなどでいただいた声は約0.7万件でした。

また、お客さまの声のうち、ご意見・ご要望は約7,200件（うち、ご不満の声が約1,600件）、お褒めの声は約1,400件でした。

今後も情報提供の充実に努めることでお問い合わせ件数を減少させるとともに、ご意見・ご要望をしっかりと伺い、貴重な経営資源として活かしていきます。

▼いただいたお客さまの声とご意見・ご要望（単位：件）



ハイウェイポスト

お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています

ご意見・ご要望に対する対応・改善状況はウェブサイト（下記リンク『CSの取り組み』）で紹介しています。また、SA・PAにも掲示し、より多くのお客さまにお知らせしています。

お客さまからのご意見・ご要望から改善した一例として、伊予ICにおいて、「宇和島方面」「高松方面」の進行方向と進入路が逆で分かりづらいとのご意見があり、補助標識や路面表示設置の対策を行っていましたが、より分かり易くなるよう方面別にカラー舗装を施工するとともに、同色で着色した案内標識を設置し、改善を図りました。



出典：国土地理院ウェブサイト（<https://mapos.gsi.go.jp/mactlbSearch.do#1>）を加工して使用

【追加対策前】



【追加対策後】



関連ページ

▶ CSの取り組み

CS推進オピニオンリーダー意見交換会

意見交換会を開催し、各界の有識者から意見をお聞きしています

お客さまに提供すべきサービスなどについて、さまざまな立場の有識者からご意見をいただく「NEXCO西日本CS推進オピニオンリーダー意見交換会」を開催しています。

2018年度は9名の有識者にご参加いただき、現地視察も含め3回実施しました。各業界からの高速道路へのニーズを伺うとともに、有識者の方々と活発な意見交換を行いました。

今後も意見交換会を継続し、CS向上に活かしていきます。



新名神建設現場 現地視察の様子

CS（お客さま満足）の向上

CS向上のため、研修やCS推進大会を実施しています

当社グループでは、CS意識向上研修やCS推進大会などを実施し、社員のCS意識向上に取り組んでいます。2018年度は、新入社員を対象としたCS向上研修を実施しました。

また、グループ社員などが部署や立場を超えて対話することで、それぞれの気づきを深めることを目的としたCS交流会を8箇所で開催しました。CSに関するテーマについて、関係するグループ社員などが部署や立場を超えて対話することで、それぞれの気づきを深めることができました。

更には社内向けに、お客さまからいただいたおほめの声の掲出（Good Job Voice）や、おほめの声を深掘りすべく、実際におほめをいただいたスタッフへの取材を行い共有する取り組み（STORY）も実施しており、モチベーションの向上にもつなげております。

今後も、グループ一体のCS活動をさらに推進するとともに、各現場がCS課題を共有しその解決に向けて行動できるよう、支社・本社関連部署が連携して現場支援を強化していきます。



CS交流会の様子



Good Job Voice・STORY

店舗のリニューアル

九州自動車道古賀SA（下り線）

九州自動車道 古賀サービスエリア（下り線）では初登場が目白押し！

店舗面積を1.5倍に拡充。「一蘭」と「ひよ子」の新サブレが初登場し、「タリーズコーヒー」も九州初登場。「焦がし（古賀市）タコ」をはじめ、ご当地商品も取り揃えており、年間161万人（レジ通過人数）のお客さまにご利用いただいております。



ショッピングコーナー 「ひよ子」の新サブレ



ショッピングコーナー 「小さなトマト大福」



ショッピングコーナー



「タリーズコーヒー」



「むなかた鶏の親子丼」



「一蘭」天然とんこつラーメン



「ゴマさば丼」



店舗全面



オープニングイベントでの和太鼓演奏

関連ページ

▶ [SAPAリニューアル情報](#)

地域と連携した商品展開

『柑橘香る玉女フロランタン』の販売

地元の高校生が開発した洋菓子を販売しています

玉名女子高等学校の生徒が新商品を半年間かけて開発。九州自動車道玉名PA（上下線）で販売し、発売開始から半年で1万4千個が売れる人気商品となっています。



レシピを考案した3年5組 食物科の皆さま



上：熊本県特産の不知火（しらぬい）を使用
下：サクサクとした食感が好評の「柑橘香る玉女フロランタン」

関連ページ

▶ [「モテナス」エリア](#)

地域の賑わい拠点

ウェルカムゲートの設置

高速道路に乗らなくても店舗にお越しいただけます

73カ所のSA・PAにウェルカムゲートを設置。一般道からもアクセス可能。近隣のお客さまにもお買い物やお食事だけでなく、イベントでもお楽しみいただいております。



親子向け工作体験の様子
(徳島自動車道 上板SA下り線)



パンづくり教室の様子
(山陽自動車道 小谷SA上り線)



新名神高速道路 宝塚北SA ウェルカムゲート

各種イベントの実施

季節や地域ごとに企画を行っています

2019年3月にオープンから1周年を迎えた宝塚北SAでは、8日間にわたり、地元ゆかりの手塚治虫先生や宝塚歌劇にちなんだ企画を実施しました。他のSA・PAでも、夏のスイカ割りや正月の餅まきなど季節ごとのイベントを行っておりますので、楽しく賑やかなひとときをお過ごしください。



「リボンの騎士」サファイア姫の
王冠の展示（新名神高速道路宝塚北SA）



宝塚歌劇団OGレビューショー
（新名神高速道路宝塚北SA）



スイカ割り大会（宮崎自動車道霧島SA上下線）



新春餅まき大会（山陽自動車道下松SA下り線）



ウィンターイルミネーション
（山陽自動車道三木SA上り線）



ハロウィンイベント
（山陽自動車道小谷SA上り線）

サービスエリアを『ウインターイルミネーション』で彩りました

三木SA（上り線）、吉備SA（上り線）、石鎚山SA（上り線）、古賀SA（下り線）において、平成30年11月10日（土）から平成31年2月28日（木）まで、『ウインターイルミネーション2018-2019』を開催しました。

“日本の和”や“ヨーロッパのチャペル”などさまざまなコンセプトに基づいた美しいイルミネーションを各エリアに設置し、癒しと寛ぎの空間を演出。フォトジェニックさも意識し、クリスマスにはプロカメラマンによる写真撮影会を実施したエリアもありました。

また、点灯期間中には、期間限定の特別グルメやお土産も販売！SNSにてイルミネーションの写真を投稿していただいたお客さまには、お得な割引サービスなどもご用意しました。

今後も、季節や地域にちなんだサービスを積極的に展開していきます。



山陽自動車道 三木SA（上り線）
イルミネーション



山陽自動車道 吉備SA（上り線）
イルミネーション



松山自動車道 石鎚山SA（上り線）
イルミネーション



九州自動車道 古賀SA（下り線）
イルミネーション

関連ページ

- ▶ [特集4：SAPAでのお客さまサービス向上](#)

ドライブの拠点機能

インフォメーションの設置

SA・PAのインフォメーションでは快適で楽しく、安全なドライブをサポートしています

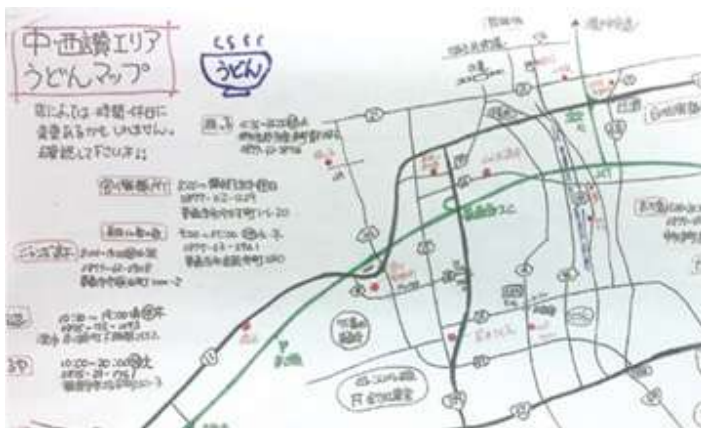
SA・PAに設置されたインフォメーション^④では、お客さまに快適で安全なドライブを楽しんで頂くために高速道路等の交通情報をはじめ、SA・PAのご案内や地域の観光情報など様々なお問い合わせに対応しています。また、インフォメーションは、日本政府観光局（JNTO）から外国人観光案内所（カテゴリー1）の認定を受け、外国語版高速道路ガイドマップの配布、翻訳サービス・多言語翻訳機の活用など、海外のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努めています。



新名神高速道路 宝塚北SA



多言語翻訳機を導入（20カ所）



スタッフ手作りのうどん店紹介マップ（豊浜SA上下線）

インバウンド対応の強化

訪日外国人ゲストが安心して利用できる環境を整えています。

訪日外国人のゲストの利便性向上を図り、ストレスなく安全・安心に利用できる高い品質の「当たり前のサービス」の提供に取り組んでいます。

免税レジを2015年8月から導入を開始し2018年12月時点で37店舗に設置、また、訪日中国人観光客の対応の一環として中国で主流となっているモバイル決済サービスの「Alipay」及び「WeChatPay」を7店舗に導入しました。

当社管内のSA・PAを紹介するホームページの外国語版を2016年3月にリリースしました。（英語、中国語、韓国語に対応）

Wi-Fi サービス

Wi-Fiの整備により、旅先でも情報を入手しやすい環境を整えています

当社管内のSA・PAでは、川南PAを除く全ての有人SA・PA計196カ所にWi-Fi サービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を整備しています。

利用時間や回数に制限がなく、NEXCO 東日本・中日本と共通のID・パスワードで無料をご利用いただけます。

また、5か国語に対応しているため、日本語に不慣れなお客さまにも安心してご利用いただけます。



「W-NEXCO Free Wi-Fi」の
サービスマーク

シャワーステーション

シャワーステーションを設置しています

長距離をドライブされるお客さまへの「疲労回復サービス」の充実として、コイン式のシャワーやランドリー、無料のマッサージチェアを備えたシャワーステーションを、NEXCO西日本管内計8カ所のSA・PAに設置しています。



山陽道 淡河PA（上り線）シャワーステーション



シャワーステーション内のマッサージチェア

関連ページ

- ▶ [W-NEXCO Free Wi-Fi](#)
- ▶ [シャワーステーション](#)

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

社会基盤である高速道路の整備と長期保全

高速道路ネットワークの整備と機能向上

スマートICの整備

- ▶ 2018年度は4カ所のスマートICを新たに整備しました

ネットワークの機能向上

- ▶ 近畿圏の有料道路を一元的に管理し、料金も分かりやすくなりました

高速道路インフラの健全性の確保

道路保全の高度化と効率化

- ▶ 保全事業システムの高度化、効率化を進めています

道路付属物の更新・修繕

- ▶ 照明やジェットファンなど道路付属物の更新・修繕を計画的に実施しています **WEB**

道路構造物損傷の抑制

- ▶ 重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底しています

新技術の導入・研究開発による業務の効率化

新技術による点検・補修

- ▶ 防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています **WEB**
- ▶ コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (Auto CIMA System) **WEB**
- ▶ 赤外線調査トータルサポートシステム (Jシステム) **WEB**

高耐久化技術の開発

- ▶ 腐食しない新材料を用いた超高耐久橋梁の実用化に向けた開発を進めています **WEB**

災害対応力の強化

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

防災体制

- ▶ 道路機能の迅速な回復に努めています [WEB](#)

南海トラフ巨大地震への対策強化

- ▶ 被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました [WEB](#)

地域・他機関との連携

- ▶ 災害協力協定等に基づく連携強化を図っています [WEB](#)

防災訓練

- ▶ 関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています [WEB](#)

冬期における道路交通の確保

- ▶ 大雪時の社会的影響の最小化をめざします

災害に強い道路づくり

斜面災害防止技術の研究開発

- ▶ 無線センサを活用した斜面災害検知技術（newron）の実用化を進めています [WEB](#)

保有している技術・ノウハウを社会へ展開

高速道路技術の他事業への展開

「eQドクターT」によるトンネル覆工点検

- ▶ 新幹線用トンネル検査システムを共同開発しています

音による交通規制中注意喚起技術の展開

- ▶ グループの技術を活用し、高速道路の安全・安心を提供しています [WEB](#)

道路管理のノウハウを活かした業務受託

- ▶ 地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています [WEB](#)

グループの資産・人材を活用した地域貢献

- ▶ 高知県大豊町で、地域と連携して指定管理者事業とアグリ事業を行っています [WEB](#)

一般自動車道の運営事業への参画

- ▶ 維持管理ノウハウを活かした事業を実施しています [WEB](#)

環境技術で社会に貢献

- ▶ ウルトラファインバブルを活用した環境技術をさまざまな事業分野に展開しています [WEB](#)

海外への事業展開

保有する技術の海外展開

- ▶ グループの強みを活かし、海外でも事業を展開しています

米国での橋梁非破壊点検事業

- ▶ 米国に子会社を設立し、事業を展開しています [WEB](#)
- ▶ 橋梁点検事業について、州道路管理者からの受注実績を積み重ねています [WEB](#)
- ▶ 米国での点検事業で培った技術を、日本国内でも役立てていきます [WEB](#)
- ▶ 道路以外の構造物へも事業領域の拡大を図っています [WEB](#)

インドネシアでの事業展開

- ▶ 道路PPP事業に参画しています [WEB](#)

国際貢献活動を基礎としたコンサルティング事業

- ▶ 毎年約100名の海外研修生を受け入れています [WEB](#)

高速道路を通じた地域連携

高速道路を通じた地域活性化

ドライブパスの実施

- ▶ 自治体と連携して、地域の魅力発信に取り組んでいます

オフィシャルパートナーとしての活動

- ▶ 国と協働し、地域の活性化に取り組んでいます [WEB](#)

自治体や関連団体と連携した取り組み

お国じまんカードラリーの展開

- ▶ カードラリーで西日本各地へGO!

高速道路ネットワークの整備と機能向上

高速道路は、国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本です。真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくことで、輸送コストの削減や、交通事故の減少、バランスのとれた地域社会の発展に貢献していきます。

スマートICの整備

2018年度は4カ所のスマートICを新たに整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、スマートICの整備を進めています。スマートICでは、ETC車載器搭載車は一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2018年度は和歌山南（阪和道）、別府湾SA【上り線】（東九州道）、北熊本（九州道）、桜島SA【鹿児島方面】（九州道）で新たにスマートICが開通し、計33カ所となりました。現在、さらに9カ所の整備に着手しています。

▼スマートICの設置予定

スマートIC	設置数
新名神大津（新名神）	9カ所
城陽（新名神）	
湯田PA（中国道）	
加茂BS（松江道）	
中山（松山道）	
東温（松山道）	
味坂（九州道）	
人吉球磨（九州道）	
国富（東九州道）	

（注）スマートIC名称

▼2013～2018年度 スマートIC設置内訳

年度	スマートIC	設置数
2013年度	蒲生（名神）、大和まほろば【大阪方面】（西名阪道）、宇城氷川（九州道）	3カ所
2014年度	松茂（徳島道）、今川（東九州道）、上毛（東九州道）	3カ所
2015年度	夢前（中国道）	1カ所
2016年度	山之口SA（宮崎道）、由布岳PA（大分道）、門川南（東九州道）	3カ所
2017年度	宝塚北（新名神）、福山SA（山陽道）、沼田PA（山陽道）、城南（九州道）、木場（長崎道）、小城（長崎道）	6カ所
2018年度	和歌山南（阪和道）、別府湾【上り線】（東九州道）北熊本（九州道）、桜島SA【鹿児島方面】（九州道）	4カ所

ネットワークの機能向上

近畿圏の有料道路を一元的に管理し、料金も分かりやすくなりました

近畿圏の地方道路公社等が管理していた南阪奈有料道路、堺泉北有料道路、第二阪奈有料道路、阪神高速道路京都線（油小路線・斜久世橋）について、合理的・効率的な管理を行う観点から、NEXCO西日本が移管を受けて一元的に管理を行っております。料金水準も整理・統一され、お客さまに分かりやすくご利用いただけるようになりました。

また、NEXCO西日本の第二神明道路についても、走行した距離に応じた対距離制を基本とする新たな料金に移行しました。

※阪神高速道路京都線（新十条通）は、京都市管理となり、無料で通行できるようになりました。



- : NEXCO西日本が管理する高速道路
- : 2018年以降にNEXCO西日本が移管を受けた高速道路
- : 2019年4月に新たな料金へ移行した第二神明道路

高速道路インフラの健全性の確保

道路保全の高度化と効率化

保全事業システムの高度化、効率化を進めています

老朽化が進む高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物の状態をより正確にかつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視を行っていくのかなど適切な維持補修計画を策定することが重要となります。

当社では一連の業務手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される保全事業システムの推進に努めています。

また、膨大な高速道路資産を確実に点検し正確に健全性を把握するため、高解像度カメラ、赤外線カメラなどの点検支援技術の活用やタブレット端末を使った点検の記録、AIによる健全性診断の支援など点検の高度化、効率化の推進に取り組んでいます。



保全事業システムの流れ



高解像度カメラ (Auto CIMA)



赤外線カメラ (Jシステム)



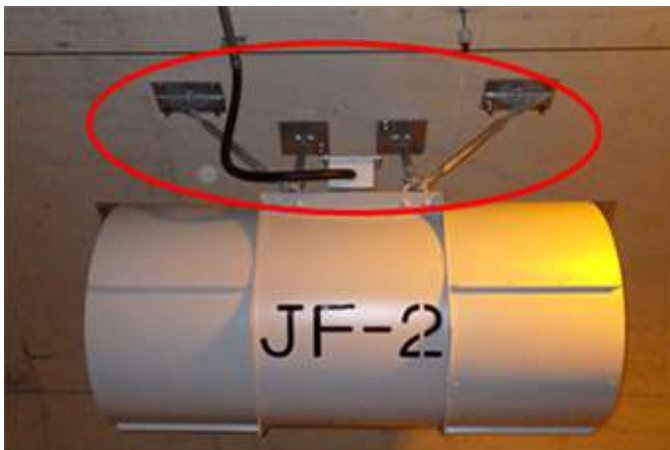
タブレットでの点検記録

照明やジェットファンなど道路付属物の更新・修繕を計画的に実施しています

高速道路の様々な設備が故障し、高速道路の運用に支障が生じる事態を防止するため、点検・更新計画策定から補修・更新までのPDCAサイクルを構築し、計画的な更新を行っています。また落下防止対策として、ワイヤー等による補強や被害が想定されない場所への移設を計画的に実施しています。

特にジェットファンについては、既存の吊金物で十分な強度を有していますが、さらに吊金物を増やし、落下防止に努めています。また、更新にあわせて、吊金物への負荷が小さい軽量型ジェットファンへ取り替えを実施しています。2018年度は、135台のジェットファンについて吊金物を増やし、24台のジェットファンについて軽量型へ取り替えを実施しました。

このほか、老朽化更新にあわせて、LED照明など最新の設備を導入し、省エネや視認性の向上にも取り組んでいます。2018年度には、12kmのトンネル照明をLED化しました。



軽量型ジェットファン



LED照明灯具

関連ページ

- ▶ 高速道路リニューアルプロジェクト
- ▶ 高速道路の長期保全

道路構造物損傷の抑制

重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底しています

重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっており、重量超過等の法令違反車両に対しては、IC 入口や本線料金所を中心に、指導・取り締まりを行っています。また、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発も行っています。



取り締まりの様子

新技術による点検・補修

防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています

路面からの漏水が原因で腐食が起こりやすい鋼橋の橋桁の末端部の劣化を防止するため、「金属溶射技術」を開発し、補修に用いています。この技術は、溶融したアルミニウム・マグネシウム合金などを圧縮空気で吹き付けて金属被膜を形成するもので、防食・防錆に有効なだけでなく、橋桁の末端部のような狭い箇所でも施工が可能です。

また、このような狭小な橋桁部でも施工可能なブラストノズルの改良や、施工環境を改善するためのブラスト工法の開発も進めています。



金属溶射作業の様子



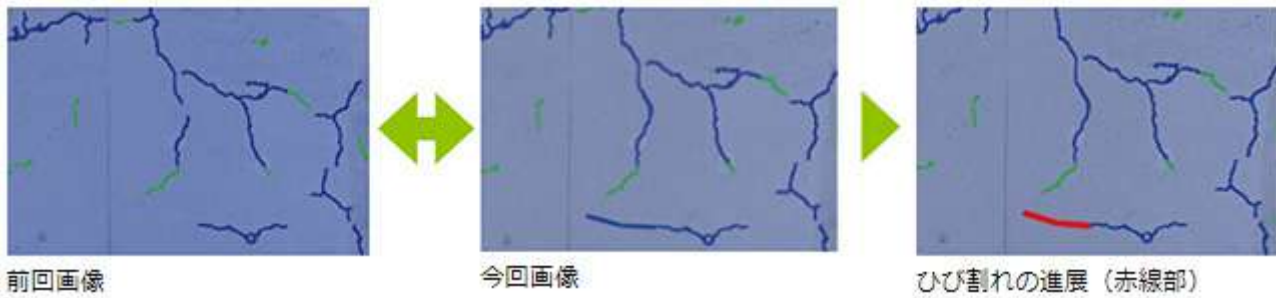
金属溶射前



金属溶射後

コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (Auto CIMA System)

高解像度のデジタルカメラで橋梁床版の下面等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で判別、図化する技術です。近接目視が困難な高橋脚や長大橋であっても、遠方からの撮影で状態を確認することができます。



- ・ 0.2mm以上のひび割れを自動検出
- ・ 変状の経年変化を定量的に把握

箱桁橋の内部等の狭くなっている箇所は小型ビデオカメラ (Walk CIMA) により対応

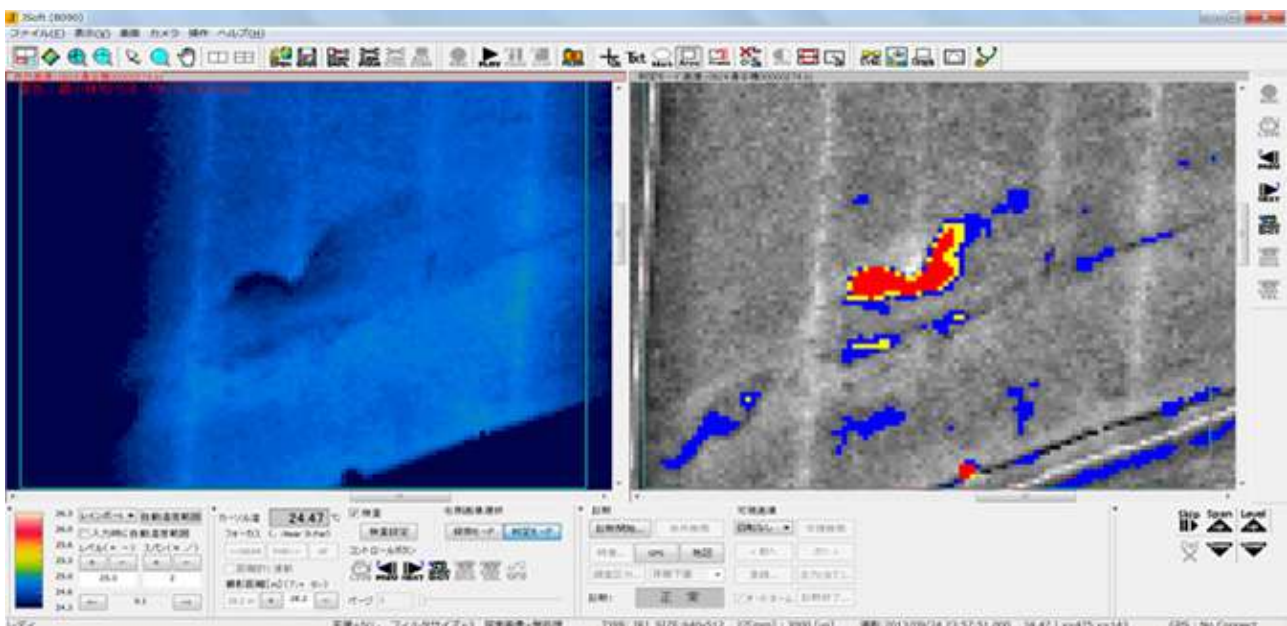
Auto CIMA Systemを使った点検の様子

赤外線調査トータルサポートシステム (Jシステム)

コンクリートの浮き・剥離などの変状部分は、健全部分とコンクリートの表面温度が異なります。この温度差を赤外線カメラを用いて感知し、変状箇所を特定するシステムです。

本システムはコンクリート構造物の非破壊検査技術として国からも評価され※、今後の点検技術の高度化技術として注目されています。

※「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会橋梁維持管理部会」より、「試行的導入に向けた検証を推奨する」と最高位の評価を得ています。またNETISより、「活用促進技術」に指定されました。



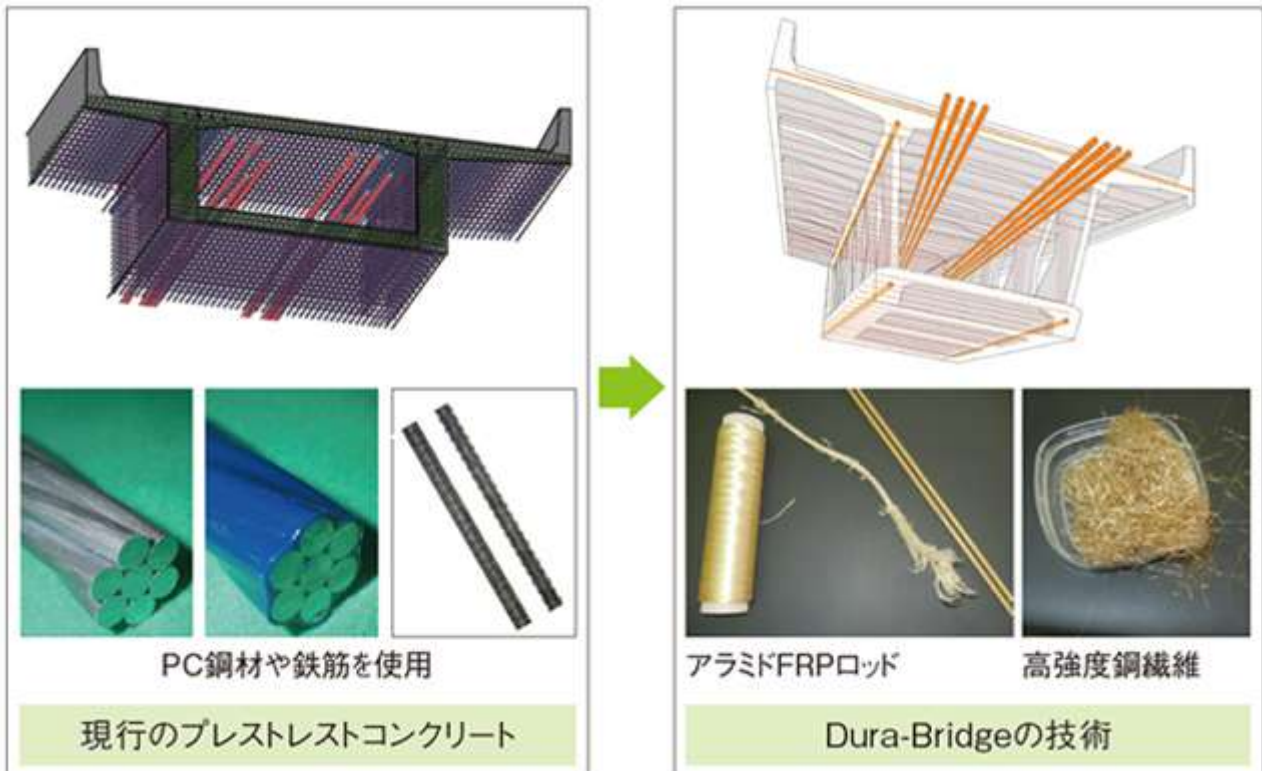
変状箇所特定イメージ

高耐久化技術の開発

腐食しない新材料を用いた超高耐久橋梁の実用化に向けた開発を進めています

高速道路橋は、経過年数に伴う老朽化だけでなく様々な要因で劣化していきます。主な劣化の原因として、橋梁に使われている鉄筋やPC鋼材などの鋼部材の腐食です。そこで、当社は三井住友建設株式会社と共同で鋼部材を一切用いず、腐食しないアラミドFRPロッドや高強度鋼繊維を使用した超高耐久橋梁（Dura-Bridge）や、超高耐久床版（Dura-Slab）を開発しました。

現在は高速道路本線工事への適用に向けて進めており、Dura-Bridgeは試行工事を実施中で、2019年度より桁架設を開始する予定です。



災害に強い組織・連携ネットワークの構築

高速道路への国民の信頼に応えるため、「想定を超えた広範囲の激甚災害」にも対応できる仕組み」を構築します。発生時には速やかに高速道路機能を回復し、被災地域の救急・復旧・復興に貢献します。防災対策をより実効性の高いものへ逐次見直し、不断の努力を続けていきます。

防災体制

道路機能の迅速な回復に努めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心にグループ会社も含め指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を継続的に見直しています。

2017年度は九州北部豪雨での被災状況を踏まえ、急変する気象に対応可能なように、高速道路が通過する自治体を対象に特別警報が発表された場合には防災体制を強化する見直しを行いました。



熊本地震時の社内災害対策本部

南海トラフ巨大地震への対策強化

被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました

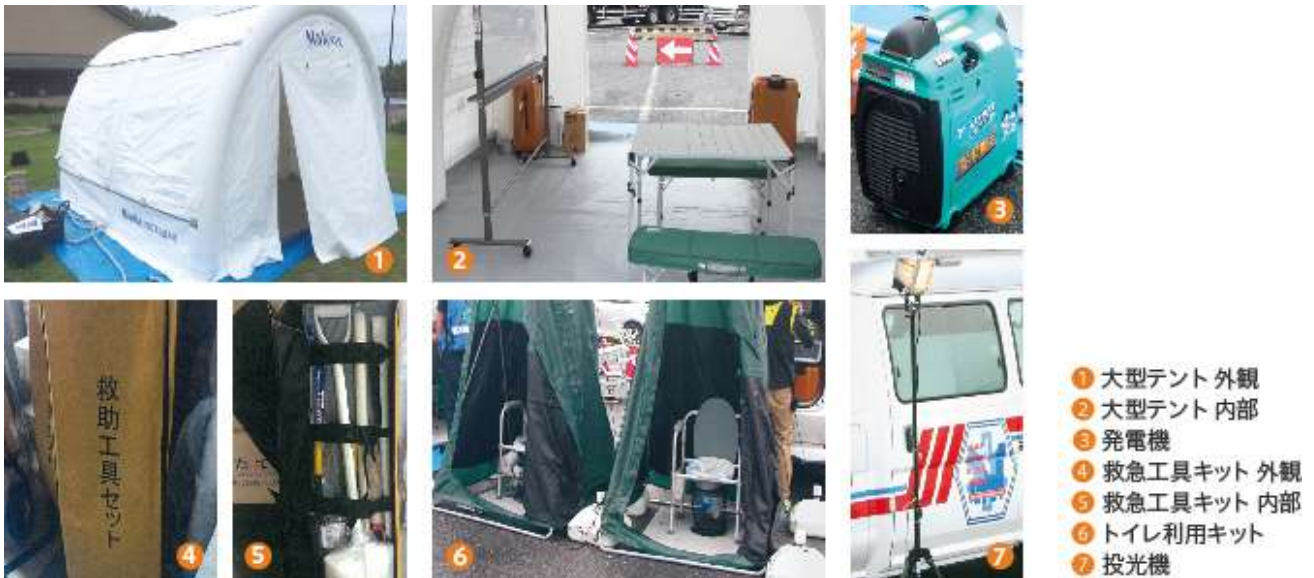
東日本大震災の教訓を踏まえ、津波被害が想定される地区では、事務所や料金所、休憩施設（SA・PA）への非常用自家発電設備の燃料備蓄を7日間分に増やす計画を策定し、2014年度までに112カ所すべてへの備蓄を完了しました。また、一時退避されたお客さまに対する食糧、水、衛生用品などの防災備蓄について、震度5強が想定される休憩施設242カ所に対して、2018年度までに235カ所への配備を完了しました。

▼休憩施設（SA・PA）に備蓄する資機材の一覧

種別	備蓄する資機材	備蓄する施設数（箇所数）	箇所あたりの備蓄量
最低限の衛生用品・食糧・水	携帯トイレ	235	240～3200枚※
	トイレ利用キット	235	2～3セット
	毛布	235	40～500人分※
	おむつ	235	70～540枚※
	生理用品	235	48～384枚※
	ゴミ袋	235	40～540枚※
	非常食	151	120～1080食※
	飲料水	151	240～2136食※
ライフライン  の寸断を想定	備蓄倉庫	235	1台
	発電器	235	1台
	投光機	235	1台
	コードリール	235	1台
	石油ストーブ	235	1台
	燃料缶詰	235	ガソリン：4缶 軽油：4缶
建物被害	大型テント	11	1張
	救出工具キット	95	1セット

※施設の規模（駐車ます数）により備蓄量を決定しているため、エリアにより備蓄量は異なります

▼備蓄する資機材の例



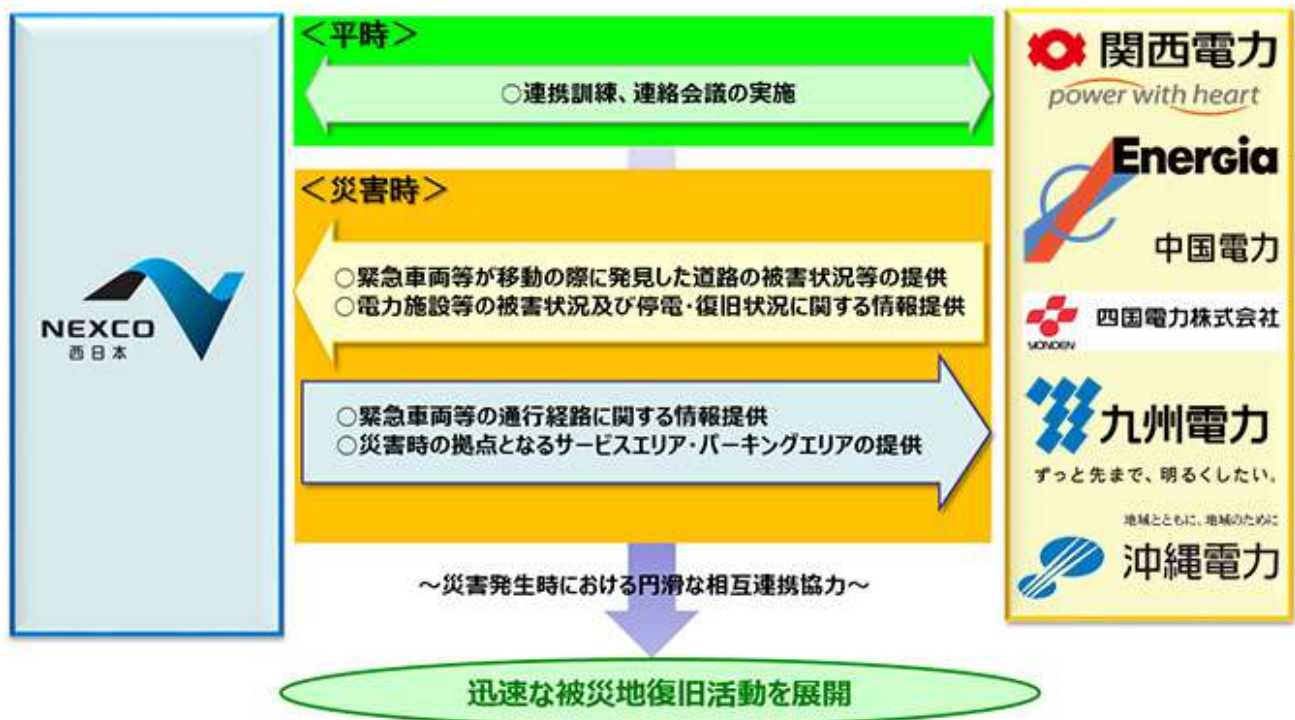
- ① 大型テント 外観
- ② 大型テント 内部
- ③ 発電機
- ④ 救急工具キット 外観
- ⑤ 救急工具キット 内部
- ⑥ トイレ利用キット
- ⑦ 投光機

地域・他機関との連携

災害協力協定 等に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、これまで西日本の全24府県、陸上自衛隊、独立行政法人国立病院機構災害医療センター及び同法人大阪医療センターと大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定を締結しています。

加えて、西日本管内の電力会社と協定を締結し、連携強化を進めています。



防災訓練

関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時や通常起こり得る交通事故などを想定し、迅速かつ的確な対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練や災害図上訓練（DIG）[☞](#)等を実施しています。

津波被害が想定される地域では、自治体や住民の皆さまと連携して、津波一時避難訓練を行っています。

継続的に関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み、実効性のある体制の構築に取り組んでいきます。

■ 総合防災訓練 段差修正訓練



■ 総合防災訓練 お客さま避難誘導訓練（南国SA）



高知自動車道 南国SAでのお客さま避難誘導訓練の様子

■ 津波一時避難訓練（和歌山県みなべ町）



阪和自動車道 みなべ料金所での避難訓練の様子

■津波一時避難訓練 (徳島県徳島市)



徳島自動車道 盛土のり面の避難施設

■近畿地方DMATブロック訓練



名神高速道路 吹田料金所敷地内での訓練の様子

冬期における道路交通確保

大雪時の社会的影響の最小化をめざします

大雪時には、大規模な滞留車両の抑制と通行止め時間の最小化を図るため、除雪体制の強化や集中除雪、大雪時の需要抑制の事前広報等の取組みを推進します。

また、大雪特別警報等異例の降雪時には、一部区間でチェーン規制を実施する可能性があります。

▼大雪時にチェーン規制を実施する可能性のある区間

都道府県	道路名	大雪時にチェーン規制を実施する可能性のある区間
岡山県・鳥取県	米子道	湯原IC～江府IC 34km
広島県・島根県	浜田道	大朝IC～旭IC 27km



米子道 車両滞留状況

関連ページ

- ▶ 特集1：災害対応力の強化

災害に強い道路づくり

斜面災害防止技術の研究開発

無線センサを活用した斜面災害防止検知技術（newron）の実用化を進めています

無線センサを活用し、あらゆる構造物を常時監視するシステム「newron（NEXCO West Real-time Observation Network）」を、大阪大学と連携して共同開発を行い、実用化を進めています。高速道路上で発生した土砂災害の中で突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。

本システムは設置・撤去・メンテナンスが容易な無線センサで斜面の土中水分や地下水位などをモニタリングするものであり、IoT技術をして高速道路構造物の常時監視を可能とするものです。

今後は試行中の新名神高速道路（高槻JCT～神戸JCT）での本格運用、そして全社展開に向けて取り組んでいきます。



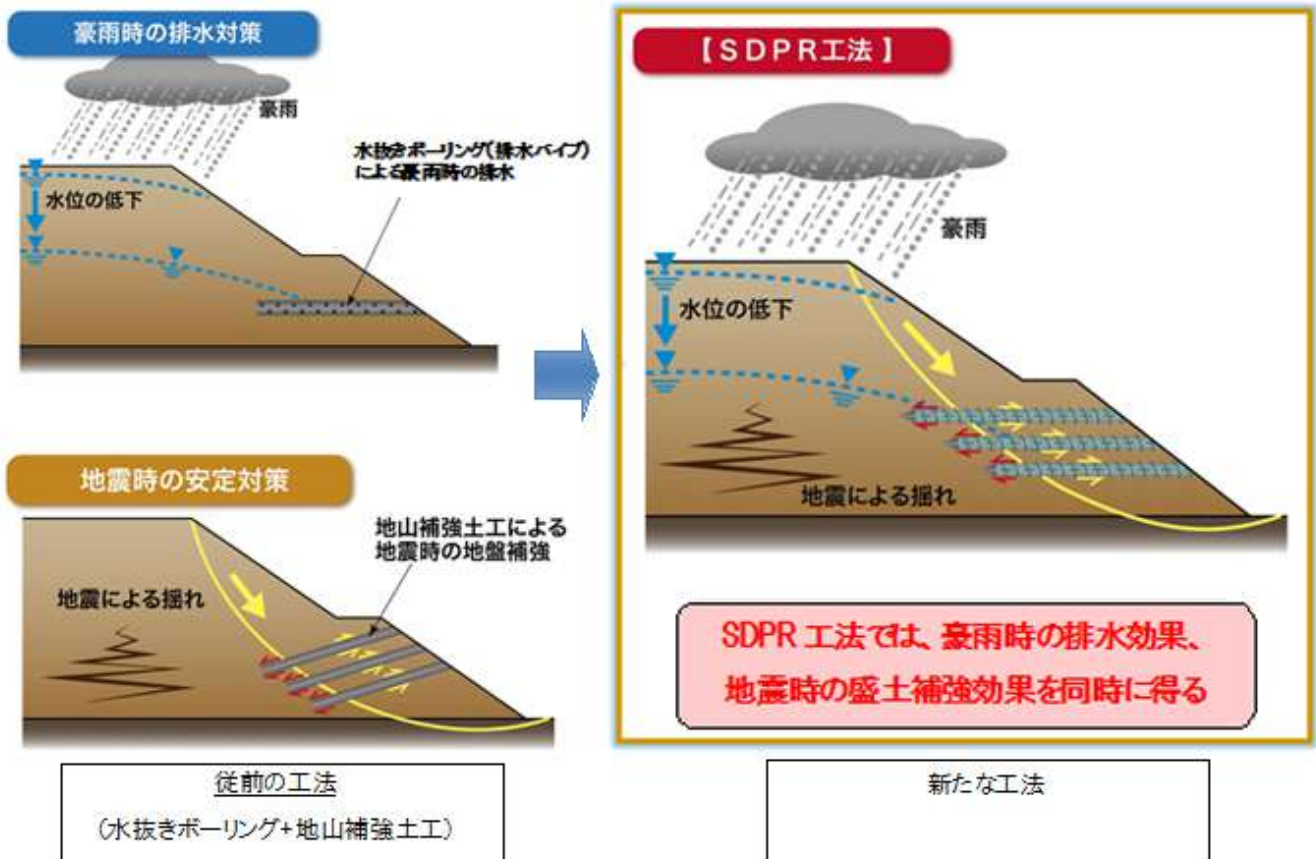
高速道路リニューアルプロジェクトで活用できる盛土補強工法を開発しました

豪雨および地震に対する盛土の安定対策工として、高速道路リニューアルプロジェクトでの活用をめざし、NEXCO西日本コンサルタンツ（株）と西日本高速道路メンテナンス九州（株）と共同で、排水効果に加え盛土補強効果を同時に得る工法として「排水機能を有するスパイラル羽根付き鋼管による盛土補強工法（SDPR工法）」を開発しました。

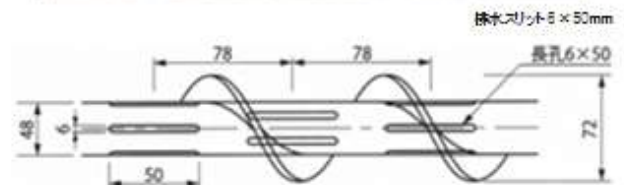
本工法は、排水パイプに鋼管を用い、スパイラル形状の羽根を取り付けることで、従来は別々に行っていた排水対策（水位の低下）と安定対策（すべり抵抗の増加）を同時に施工できるため、施工の省力化、工期短縮および工事費削減が期待できます。

これまで様々な地盤調査（材料試験）や実地試験により設計条件や施工条件の検討を行っており、また九州大学との共同研究において、豪雨時における地下水位について浸透流解析を実施して有効性も確認しています。今後は、盛土の大規模修繕にSDPR工法を活用して、高速道路リニューアルプロジェクトを進めていきます。

▼概要図



SDPR工法の施工状況



スパイラル羽根付き鋼管

関連ページ

- ▶ 100%の安全・安心の追求
- ▶ 排水機能を有するスパイラル羽根付き鋼管による豪雨と地震に耐える盛土補強工法
- ▶ 特集2 高速道路の長期保全

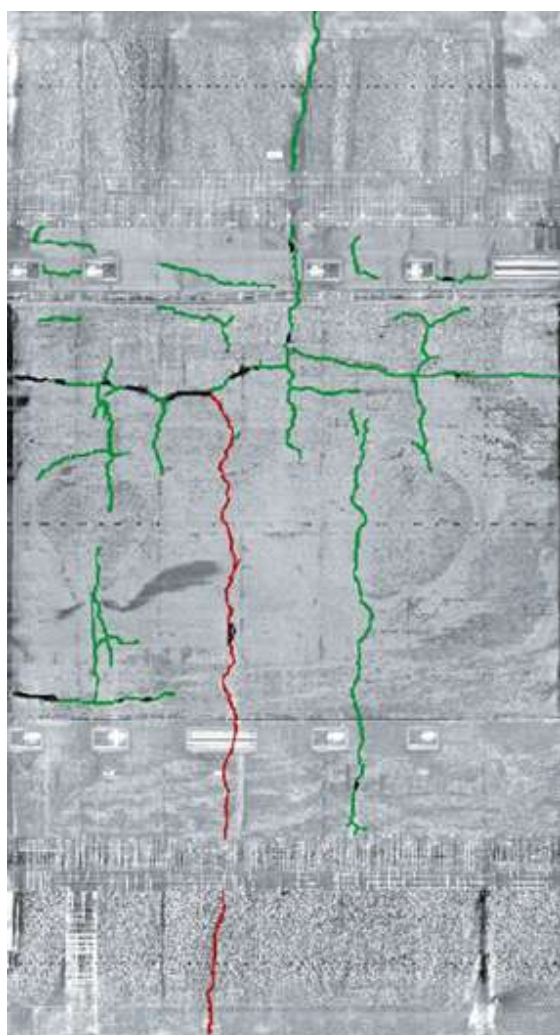
「eQドクターT」によるトンネル覆工点検

新幹線用トンネル検査システムを共同開発しています

「eQドクターT」は、超高解像度のトンネル覆工面撮影技術、覆工面展開図の自動貼り合わせ技術、自動ひび割れ抽出技術により、覆工コンクリートの状況をより高精度に確認するためのトンネル覆工点検システムです。

最高速度100km/hで走行する車両からトンネル覆工を撮影し、撮影した画像から自動でひび割れを抽出してデジタル図面化して活用しています。

現在、西日本旅客鉄道(株)と「eQドクターT」の技術を活用して、新たな「新幹線用トンネル覆工表面検査システム」の共同開発を進めています。今後も、このような高速道路以外の事業者との連携した取り組みを行い、広く社会に貢献していきます。



トンネル壁面画像の自動ひび割れ抽出状況



eQドクターT（道路トンネル覆工点検車）



撮影の状況（赤外線照明による撮影を行うことで、お客様の運転への影響はありません）

音による交通規制中注意喚起技術の展開

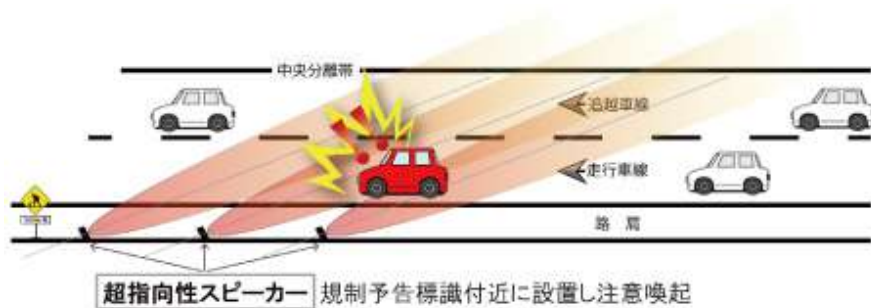
グループの技術を活用し、高速道路の安全・安心を提供しています

西日本高速道路サービス沖縄では、2013年7月に沖縄道で発生した交通規制中の事故を受け、規制箇所に近づいてくる車両に対して、従来の標識などによる注意喚起に加え、音で注意喚起する超音波による指向性注意喚起システム「Ultra SonicIMPACT」を開発しました。

超音波は人間の耳には聞こえない高い周波数の音で、特定の方向に向かって遠くまで伝わる特性があります。「USIMPACT」は、交通規制をしている箇所の手前に設置し、音声を超音波に変えて車線の一定範囲に向けて照射します。照射範囲の車線にさしかかった車両に超音波がぶつくと、波形が変わって運転手の耳に聞こえる音に戻る仕組みになっています。

開発後も試行錯誤を繰り返し、2017年度から毎年度行われている沖縄道の橋梁床板取り替え工事の連続した交通規制において、この「US IMPACT」を使用し運転手へ注意喚起を行ったところ、車両侵入事故は発生せず、一定の効果が得られました。全国の高速道路での交通規制工事でも少しずつ活用され始めています。

引き続き開発したシステムの分析・検証を行いながら改良を重ねていき、沖縄から全国の高速道路規制作業の安全・安心を提供していきます。



USIMPACT イメージ図



USIMPACT運用の様子（終日車線規制）




USIMPACT運用の様子（規制予告標識付近に設置）

関連ページ

▶ [西日本高速道路総合サービス沖縄](#)

道路管理のノウハウを活かした業務受託

地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています

2018年度は、2017年度に引続き公社が管理する橋梁の点検および検討業務について受注しました。また、高速道路を橋でまたぐ**跨道橋（OV）**  についても、管理する地方自治体から点検等を受注しています。

2019年度は、これらの継続受注とともに新規路線の受注をめざし、高速道路管理で培ったノウハウや技術を活かした業務を提案・実施していきます。



ETC  保守業務

▼道路管理に関する主な業務受託

有料道路	業務内容	
南阪奈有料道路 ※大阪府道路公社管理区間	土木維持管理（土木清掃・雪氷対策・維持修繕）、施設保守業務、ETC保守業務、料金收受業務	
堺泉北有料道路	ETC保守業務	
京都縦貫自動車道 ※京都府道路公社管理区間	ETC保守業務	
ながさき出島道路	トンネル側壁清掃、トンネル排水施設清掃	
広島高速道路	トンネル点検	
一般道路	区間	業務内容
小郡萩道路 （一般国道490号）	美祢東JCT～絵堂IC	道路の包括維持管理
山口宇部道路 （県道6号山口宇部線）	朝田IC～宇部東IC	道路の包括維持管理
広島中央フライトロード （県道73号広島空港線、 県道49号本郷大和線）	河内IC～大和南IC	交通管理に関する業務
松江だんだん道路 （一般国道485号松江第五大橋道路）	松江JCT～川津IC	交通管理に関する業務
県道大見吉津仁尾線	三豊鳥坂IC	ICの維持管理

グループの資産・人材を活用した地域貢献

高知県大豊町で、地域と連携して指定管理者事業とアグリ事業を行っています

NEXCO西日本グループの資産や人材を活用した地域活性化の取り組みの一環として、NEXCO西日本エンジニアリング四国では、2011年度より高知県大豊町の拠点観光施設「ゆとりすとパークおおとよ」および「道の駅大杉」の指定管理者として、地域と連携した施設の管理・運営と、ブルーベリーや原木しいたけの栽培・収穫・販売等のアグリ事業を行っています。

アグリ事業は町内の休耕地を借りて実施しております。収穫した農作物や加工品は、指定管理事業施設の食材として利用したり、同施設や各種のイベント、高松市や高知市内のスーパー等で販売しています。また施設の管理・運営に当たっては、高知大学とも連携し、学生主体のイベントの企画・運営などを通して地域協働を学ぶ実習場としての活用にも取り組んでいます。

関連ページ

▶ [ゆとりすとパーク](#) 



ゆとりすとパークおおとよ
花壇概観



ゆとりすとパークおおとよ
テントサイト

標高750mに位置し、芝生広場や遊具を備えた公園機能とコテージ・テントサイト・ログハウスからなる宿泊機能を併せ持つ面積9万㎡（東京ドームの約2倍）の施設です。



道の駅大杉全景



道の駅大杉内部の様子

道の駅では、大豊町で栽培生産されている農作物を使った商品や食事を提供しています。



高松市兵庫町での出張販売の様子

大豊町の知名度向上を目的に、高松市や高知市内への出張販売や、各種イベントへも積極的に出店しました。



高知市で開催された「食1-GP」出店の様子



高知大学生の実習（椎茸の仮伏せ）の様子

高知大学地域協働学部と連携し、接客や農作業を通して地域協働実習の場を提供しました。



ゆとりすとブルーベリー農園のビニールハウス

一般自動車道の運営事業への参画

維持管理ノウハウを活かした事業を実施しています

芦有ドライブウェイ（株）は道路運送法に基づく一般自動車道を運営し、自動車道を観光資源として有効活用し地域の活性化や発展に貢献します。

公共インフラの老朽化対策や長寿命化が課題となる中、道路の維持管理に豊富なノウハウを持つNEXCO西日本と維持管理協定を締結し、路面清掃やトンネル側壁清掃にNEXCO保有車両を使用するなど業務の効率化を図るとともに、点検業務の実施など保有技術やノウハウを生かした維持管理を実施しています。

トンネル側壁の清掃は、延長約1kmを1日足らずで効率的に実施し、同様に道路の路面清掃は、約10kmの全線を年間5回実施しています。

また、有馬温泉、六甲山観光施設等と連携を図り、芦有ドライブウェイ周辺地域の発展とドライブウェイの利用促進に努めています。



芦有ドライブウェイ四季折々の風景

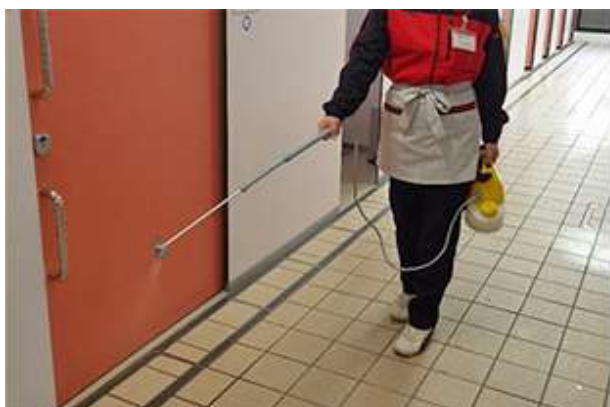
関連ページ

▶ [芦有ドライブウェイ（株）](#) 

ウルトラファインバブルを活用した環境技術をさまざまな事業分野に展開しています

ウルトラファインバブルは1 μ m【1/1000mm】以下の超微細気泡のことで、水の洗浄効果を向上させる環境技術です。NEXCO西日本グループではこのウルトラファインバブルを生成した水によるトイレ清掃、構造物の塩分洗浄、浄化槽汚泥減容化を実施しています。

ウルトラファインバブル水をトイレ床面に噴霧してモップ拭きするだけの作業で、従来の放水とデッキブラシ清掃に比べると、格段に人と環境にやさしい清掃となっています。現在、NEXCO西日本管内の休憩施設の約90%にウルトラファインバブル清掃を導入しています。また、高速道路だけでなく、スーパーやホテルなど環境を重視した施設清掃に活用が広がっています。



トイレ床面清掃状況

ウルトラファインバブル水を高圧で吹き付けることにより、従来の通常水に比べ付着した塩分を効率的に除去することができ、作業効率・安全性も向上しています。構造物・機械類の老朽化対策として、高速道路だけでなく塩害に悩む様々な施設設備での活用が期待されています。



桁端部塩分洗浄状況



雪氷車両洗浄システム

ウルトラファインバブルとオゾンを活用した技術により、SA・PAに設置されている浄化槽で発生する余剰汚泥の減容化が可能となり、ランニングコストの削減につながります。



浄化槽汚泥減容化ユニット

ウルトラファインバブルは、鮮度保持や生物の成長促進といった効果が期待できるため、農水産業分野でも活用が進んでいます。（株）Ligaricはウルトラファインバブル生成装置の提供を通じて地域産業振興にも一役買っています。

関連ページ

- ▶ [\(株\) Ligaric](#)

海外への事業展開

保有する技術の海外展開

グループの強みを活かし、海外でも事業を展開しています

当社グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。

インドネシアでは、技術アドバイザーを現地へ派遣し、高速道路の建設や舗装補修の支援をしています。

また、アメリカでは、NEXCO-West USA, Inc. が非破壊検査技術を用いた点検業務を受注しており、2018年度はワシントン・メトロの地下鉄トンネル点検を実施し、高評価を受けました。

海外での事業展開を通じ、その経験を国内の道路事業にフィードバックすることをめざしています。



舗装損傷調査会議（インドネシア）



地下鉄トンネル点検（アメリカ）

米国での橋梁非破壊点検事業

米国に子会社を設立し、事業を展開しています

2011年1月、当社は米国での橋梁点検事業への参入および先端技術の調査を目的に、NEXCO-West USA, Inc.（以下「USA社」）を設立しました。

USA社では設立以来、構造物非破壊点検、情報収集提供・研修支援および技術コンサルティングを三本柱として事業活動を行っています。

橋梁点検事業について、州道路管理者からの受注実績を積み重ねています

橋梁点検事業では、会社発足時より多数の州から橋梁非破壊点検を受注するなど、州管理者からの受注実績を着実に積んできました。

特に、赤外線カメラシステム※1とラインセンサカメラシステム※2を使用する橋梁コンクリート床版の非破壊点検は、目視や打音などに頼る従来の手法よりも、客観的かつ効率的な点検方法として、連邦道路庁や各州の道路管理者から注目されています。

※1 赤外線カメラで撮影した熱画像を独自に開発したコンピューターソフトを用いて自動で解析処理し、コンクリート内部の浮き・剥離や損傷を表示するシステム



インディアナ州での橋梁点検



赤外線カメラによる
コンクリート床版の撮影



ラインセンサカメラによる
コンクリート床版の撮影

米国での点検事業で培った技術を、日本国内でも役立てていきます

米国では2012年7月にMAP-21と呼ばれる陸上交通法が制定され、2014年10月より施行されています。これにより、各州の橋梁に対して従来の基本構造全体での評価に加えて床版、桁、支承、伸縮装置、橋脚、橋台といった部材レベルでの点検及び評価を行い、維持管理計画を立案することが義務化されました。

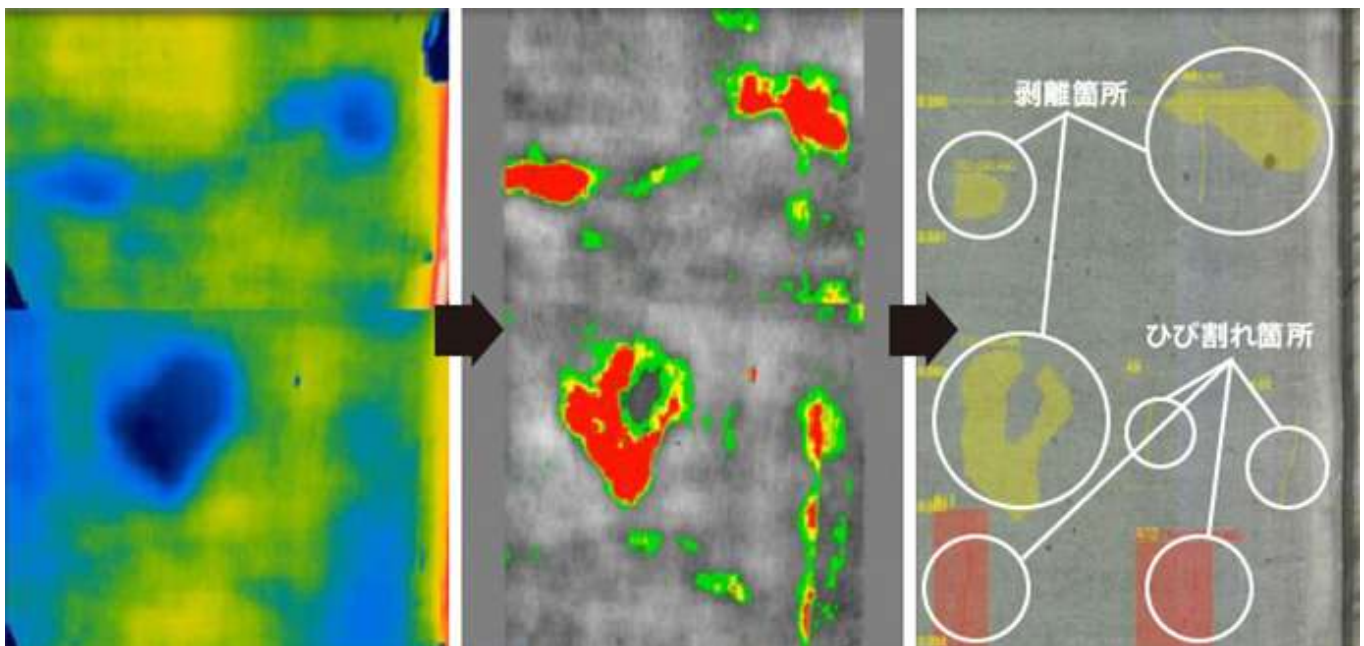
その結果、各州の道路管理者は点検コスト増大や人手不足に直面しており、点検業務の効率化が切望されています。このような背景もあり、交通規制をせずに車両に搭載したカメラを用いて高速でデータ取得する技術へのニーズが飛躍的に高まっています。

USA社では、州の道路管理者と連携し、非破壊検査  技術の利活用を促進することによって、道路橋梁点検の効率化および高度化に取り組んでいます。

一方、日本国内でも、2013年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」において、2030年頃までに国内全ての重要インフラと老朽インフラの点検・補修へ新技術の開発・導入をし、世界の点検・補修などのセンサ及びロボット市場の3割を獲得することが目標とされています。

USA社の米国での事業活動はこのような日本国内の動きに先行するものであり、米国で培った技術を国内の非破壊検査に役立てたいと考えています。

▼橋梁床版点検 画像解析・診断結果



(1)赤外線カメラ熱画像

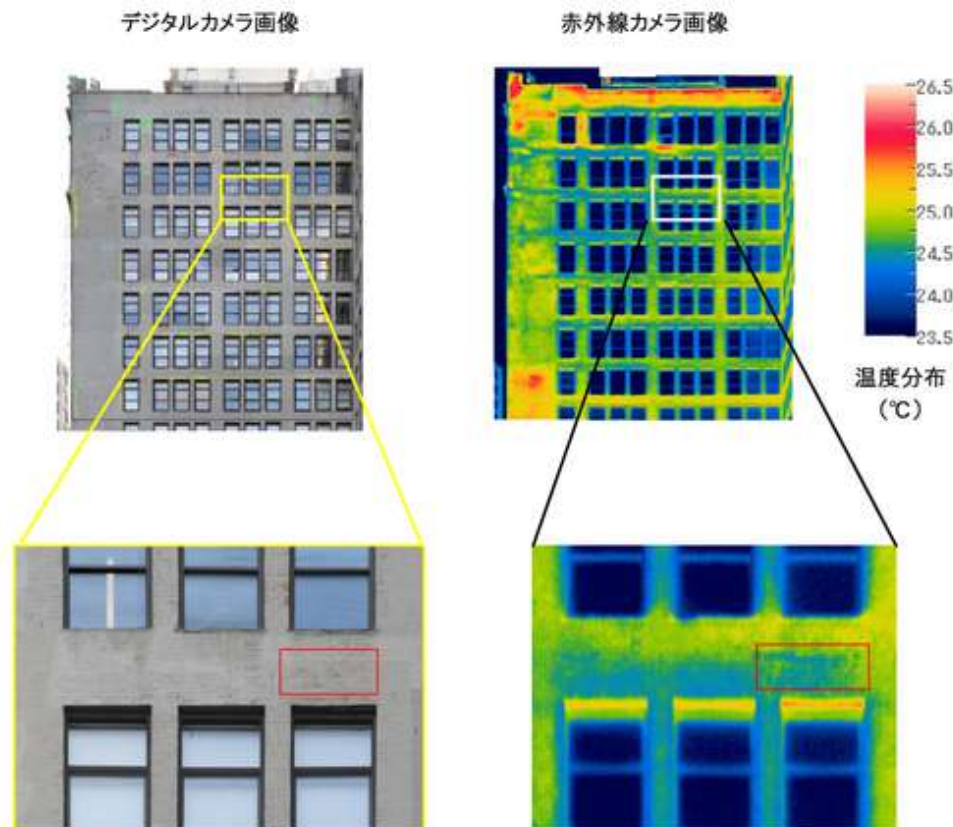
(2)コンピュータ処理画像
損傷の程度を緑黄赤で3段階表示

(3)健全度診断結果の段階表示
黄：健全度2（予防保全段階）
赤：健全度3（早期措置段階）

道路以外の構造物へも事業領域の拡大を図っています

2015年度より、道路橋点検で培った非破壊検査技術を他の構造物に応用することで、事業範囲を積極的に拡大しています。

例えば、ブラジルのイタイプダムやニューヨーク市の高層ビルなどのコンクリート構造物の点検を受注しており、2018年度にはワシントン・メトロ地下鉄トンネル点検やロサンゼルス・メトロ施工前建物調査などを実施しています。



また、情報収集提供・研修支援および技術コンサルティング事業においても、高速道路維持管理会社に対して地中レーダーや移動式防護柵の技術導入支援を実施したほか、最近では高速道路関連会社のみならず、民間企業や大学、地方公共団体からの研修生の受け入れ要請、国内素材メーカーからの市場調査の業務依頼などが増加し、米国進出を目指す民間企業の窓口として役割を果たしています。

インドネシアでの事業展開

道路PPP事業に参画しています

当社の海外高速道路PPP事業は、インドネシアを主なターゲットとして進めてきました。2011年2月に駐在員事務所を設置し、2014年11月に日本の高速道路会社として初めて海外の高速道路PPP事業に参画しました。

また、2015年8月にインドネシアの高速道路運営会社であるマルガ・ウタマ・ヌサンタラ（MUN）社と包括的技術連携の覚書を締結し、MUN社が参画を検討している事業に対し技術的支援をすることにより、インドネシアにおける道路技術の質の向上、発展に努めています。

例えば、ジャカルタ外環状道路とスルポン地区を結ぶ、延長約7kmの高速道路「ビンタロー・スルポン・ダマイ（BSD）道路」では、道路舗装の損傷状況を調査し、効率的な維持管理のための舗装補修工の改善提案を行っています。



ポンドックアレン料金所



BSD道路全景



BSD道路位置図



包括技術連携の期間を延長する変更覚書調印式

また、スラウェシ島のマカッサル港からマカッサル市内へと繋がる延長約10km（延伸区間含む）の高速道路「ボソワ・マルガ・ヌサンタラ（BMN）道路」では、当社社員を品質管理アドバイザーとして派遣し、延伸工事の設計・施工、品質向上を目的に技術支援を行っています。

さらに、インドネシアにおける道路の業務改善ワーキンググループを立ち上げ、BSD道路及びBMN道路の舗装補修等の効率化に向け、現地スタッフと当社社員が協力し、管理手法を検討しています。



BMN道路建設状況

国際貢献活動を基礎としたコンサルティング事業

毎年約100名の海外研修生を受け入れています

当社は、JICA長期専門家として、過去5名の社員を南米やアジア諸国に派遣しました。これらは国際貢献活動であると同時に、当社の海外要員の育成においても貴重な経験となりました。

また、国土交通省やJICAなどと連携して、開発途上国を中心に毎年約100名の研修生を受け入れており、研修生個人の能力向上のみならず、海外諸国との友好関係の構築にも役立っています。

これらを通じて培ったネットワークを基礎にして、途上国の技術者育成や道路管理技術向上に貢献したいと考えています。



JICA集合研修の様子



JICA長期専門家による講義風景

高速道路を通じた地域活性化

ドライブパスの実施

自治体と連携して、地域の観光振興に取り組んでいます

自治体や関係団体と連携した観光振興の取り組みの一つとして、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。

2018年度は、関西・中国・四国・九州各地域のドライブパスや、訪日外国人向けの企画等を含め、約26万件ご利用いただきました。



ドライブパスの申込専用サイト「みち旅」
<https://www.michitabi.com/>



京都・若狭湾・びわ湖
ぐるっとドライブパス
2018



ぶらり中国ドライブパス
2018

関連ページ

- ▶ [ドライブパス（周遊エリア内の高速道路が定額で乗り放題）](#) 

オフィシャルパートナーとしての活動

国と協働し、地域の活性化に取り組んでいます

当社は2017年3月に環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結し、ドライブパスの沿線に位置する国立公園の魅力を発信することにより、地域間交流の促進や地域の活性化に取り組んでいます。



自治体や関連団体と連携した取り組み

お国じまんカードラリーの展開

カードラリーで西日本各地へGO!

各府県が選ぶ「ごじまん」の観光地やサービスエリアに設置したカードを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんカードラリー」。2018年度は9,420名の方にご応募いただき、そのうち53名の方が全148スポットを制覇されました。

No 001 福井県立恐竜博物館



◎写真提供／福井県立恐竜博物館

No 157 海洋博公園・沖縄美ら海水族館



国営沖縄記念公園（海洋博公園）・沖縄美ら海水族館

●キャンペーン期間

2019年4月13日（土）～2020年1月13日（月・祝）

●キャンペーンサイトはこちら

www.w-nexco.co.jp/drive_porter/driverally/

2019年度は、沖縄県と本州四国連絡高速道路(株)が新たに加わり、当社的高速道路がある全ての府県（24府県）が対象となり、全157カ所のごじまんスポットでカードを配布しています。

●ご当地産品（イメージ）



〈滋賀県〉「近江牛」



〈兵庫県〉「香住がに甲羅盛り」

投資家・国民の皆さま

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

公正、透明、健全な事業活動

透明性の高い経営の推進と着実な債務返済

外部評価による透明性確保

- ▶ 外部評価により透明性の向上を図っています
- ▶ 2018年度 事業評価監視委員会 委員 **WEB**
- ▶ 2018年度 事業評価監視委員会 事業評価対象事業 **WEB**

低利率かつ安定的な資金調達

- ▶ 道路建設資金の安定的な調達に努めています **WEB**

積極的な情報公開

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

- ▶ 毎月の社長定例会見で情報発信をしています

投資家・金融機関の皆さまとの対話

- ▶ 事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています **WEB**
- ▶ 投資家・金融機関の皆さまへの個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています **WEB**

地域住民の皆さまとの対話

- ▶ 高速道路の新設・改築の際は、地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています **WEB**

現場見学会「なるほど！高速道路発見」

- ▶ 高速道路の現場を多くの方々に見学していただいています **WEB**

メディアを通じた情報発信

マスコミ向けプレスツアーの開催

- ▶ 建設現場等をマスコミ向けに積極的に公開しています

積極的な情報発信

- ▶ 高速道路を快適にご利用いただけるよう、積極的な情報発信に努めています **WEB**

外部評価による透明性確保

外部評価により透明性の向上を図っています

当社では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社的高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。

2018年度 事業評価監視委員会 委員

○ 常任委員

出野 精二 [(公社)関西経済連合会 常務理事・事務局長]
帯野 久美子 [(株)インターアクト・ジャパン 代表取締役]
正司 健一 [神戸大学大学院教授]
戸田 常一 [広島大学大学院教授] = 委員長
中瀬 勲 [兵庫県立人と自然の博物館 館長]

○ 特別委員

長谷川 修一 [香川大学教授]

2018年度 事業評価監視委員会 事業評価対象事業

○ 再評価※1

近畿自動車道敦賀線 (福知山～舞鶴西) 22.8 km

○ 事後評価※2

一般国道478号 京都縦貫自動車道 (京都第二外環状道路) 久御山IC～沓掛IC 15.7km
東九州自動車道 (門川～西都) 58.9km
計 3 事業 97.4km

※1 再評価：採択後3年を経過して未着工の事業および5年を経過して継続中の事業、再評価実施後3年経過した時点で継続中もしくは未着工の事業について実施し、事業の継続もしくは中止の方針を決定します。

※2 事後評価：事業完了後（完了後5年以内）に、事業の効果、環境への影響等の確認を行い、必要に応じて適切な改善措置、同種事業の計画・調査のあり方等を検討するもの。

関連ページ

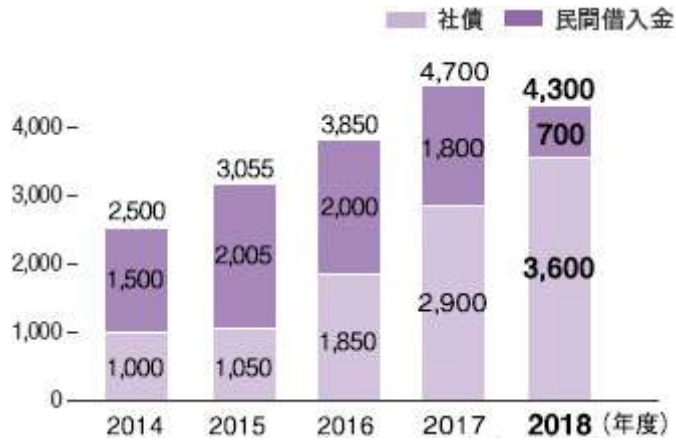
▶ [平成30年度 西日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会](#)

低利率かつ安定的な資金調達

道路建設資金の安定的な調達に努めています

高速道路事業の遂行に必要な資金については、社債の発行や民間金融機関からの借入等によって調達しています。建設から管理まで長期にわたる事業となるため、低利かつ安定的に調達できるよう努めています。

▼資金調達の推移（単位：億円）



関連ページ

- ▶ [高速道路事業のスキーム](#)

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

毎月の社長定例会見で情報発信をしています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

また、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を毎年開催し、経営層と直接対話いただく機会を設けています。



定例記者会見の様子

投資家・金融機関の皆さまとの対話

事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています

毎年7月に投資家や金融機関の皆さまをはじめとした市場関係者を対象に事業説明会を開催し、当社の事業に対する理解を深めていただくよう努めています。

企業情報や決算情報に加え、2018年度は、平成30年7月豪雨の対応状況、近畿圏の新たな高速道路料金、新名神高速道路の開通効果及び建設状況、高速道路リニューアルプロジェクト（特定更新等工事）の主な工事計画のほか、2018年度の資金調達についてご説明しました。質疑応答などを通じて、経営層と直接対話いただく機会とすることで、双方向コミュニケーションの場としても活用いただいています。

今後も皆さまの関心が高い事項をご説明するなど、より充実した説明会となるように努めてまいります。

投資家・金融機関の皆さまへの個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています

投資家や金融機関の皆さまを個別訪問を実施し、事業のスキームや債務の特徴をはじめ、事業計画、財務情報等、関心が高い事項についてご説明しています。

今後も、当社の事業に対するいっそうの理解促進を図るべく、積極的かつタイムリーな情報提供に努めていきます。



2018年度 事業説明会写真

地域住民の皆さまとの対話

高速道路の新設・改築の際は、地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています

高速道路を新設・改築する際には、地元自治体や警察、公共施設の管理者などの各関係機関や、計画道路の沿道地域の皆さまと入念な協議を重ねたうえで事業を進めています。

また、説明会や設計協議 [☞](#) の場でいただくご意見については、設計や計画に可能な限り反映させるよう努めています。

事業の全体概要はもちろん、環境対策や事業用地の取得など特に関心の高い事項については、必要に応じて現地での立ち会いや説明会を実施し、関係者の十分な納得が得られるまで説明を行っています。



事業説明会（新名神大津事務所）



境界立会（新名神京都事務所）

現場見学会「なるほど！高速道路発見」

高速道路の現場を多くの方に見学いただいています

普段は、目にすることのできない高速道路の現場を多くの皆さんに見学していただき、当社の安全・安心の取り組みなどを“なるほど！”と発見していただく、現場見学会「なるほど！高速道路発見」を2014年度から開催しています。これまでに2,270組6,008人のご応募をいただき、462組1,255人のお客さまにご参加いただきました。

道路建設事業では最盛期をむかえる建設工事の現場を、道路保全事業では道路維持や道路パトロールで使用する車両の乗車体験などの見学会を開催しました。

また、社員の技術力向上を目的として開設した茨木技術研修センター（アイトレ）では、親子を対象に、舗装排水実験や劣化した橋梁のたたき点検、料金収受などの高速道路に係るさまざまな業務を体験していただきました。

参加いただいたお客さまからは「いろいろな工夫をしながら高速道路を造っていることがよくわかった」などのご感想をいただいています。



吉野川大橋工事_建設現場見学



播磨新宮IC工事_建設現場見学



高所作業車_乗車体験



舗装排水実験_アイトレ施設公開

メディアを通じた情報発信

マスコミ向けプレスツアーの開催

建設現場等をマスコミ向けに積極的に公開しています

2018年度は、新規開通スマートIC・高松自動車道4車線化・リニューアル工事現場のマスコミ向けプレスツアーを開催しました。

プレスツアーでは現場公開のほか、概要説明、スマートICにおいては利用方法・注意事項の説明、実車によるデモンストレーション走行を公開し、テレビ・新聞等を通じ、高速道路の安全・安心に向けた取り組みを積極的に情報発信しました。

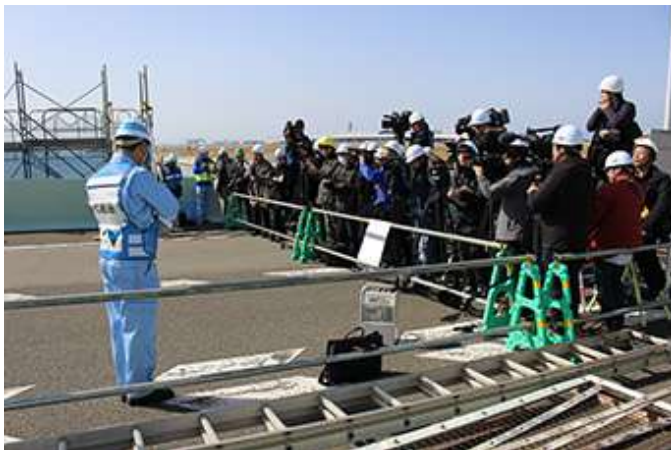
また、広島呉道路・高知自動車道立川橋の被災現場や、関空連絡橋の復旧作業等の公開を行い、一日も早い復旧に向けた姿勢について地域の皆さま・利用者の方々のご理解を得るよう取り組みを行いました。



和歌山南スマートIC建設現場公開



和歌山南スマートIC建設現場公開



橋梁架設マスコミ公開



広島呉道路復旧現場公開

高速道路を快適にご利用いただけるよう、積極的な情報発信に努めています

当社では、50周年を迎えた名神高速道路をはじめとして、建設から30年以上が経過した道路を多く管理しており、老朽化した高速道路の抜本的な補修を行っております。

これらの大規模更新・修繕事業（高速道路リニューアルプロジェクト）や集中工事は長期間にわたる交通規制を余儀なくされ、ご利用されるお客さまをはじめ、高速道路沿線の皆さまにも大きな影響を及ぼすことから、高速道路の損傷や老朽化の状況をお知らせし、健全な道路を次世代につなげるための工事であることを広く認識いただく必要があります。

そのためテレビ・ラジオCMをはじめ、高速道路の掲示板やSA・PAのハイウェイ情報ターミナル、リーフレット、ポスター、お客さまセンターなど、あらゆるコミュニケーション手段を活用してお客さまにお伝えしています。

また、WEBサイトでは、渋滞を回避して快適にご利用いただくために、工事規制予測や渋滞予測の情報を掲載するなど、日々、新鮮でお役立ちいただける情報発信に努めています。



テレビCM



ポスター

お取引先

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

公正な取引関係

競争性・公正性・透明性の追求

基本的な考え方

- ▶ 契約の基本方針

発注事務に係る綱紀保持

- ▶ 社内規程を制定し、社会からの信頼を確保できるよう努めています

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

- ▶ 契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続きを行っています

暴力団関係企業等の排除を徹底

- ▶ 警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底しています **WEB**

SA・PAのテナント会社との協働

SA・PAと地域連携

地域物産展の開催

- ▶ 地域の魅力発信に取り組んでいます **WEB**

地元企業とSA・PAテナントの橋渡し

- ▶ ハイウェイ大商談会（ビジネスマッチング）を開催

SA・PAのテナント会社との継続的な取り組み

研修会・講習会の実施

- ▶ お客さまに、安全に、そして安心してSA・PAを利用していただくことが、あらゆるサービスの前提です。 **WEB**

誤給油防止訓練

- ▶ 誤給油の危険性への認識を深め、防止徹底を図っています **WEB**

防犯講習会

- ▶ 警察署の協力のもと、防犯意識の向上を目的にした訓練を実施しています **WEB**

競争性・公正性・透明性の追求

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取り引きを行っています。

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

発注事務に係る綱紀保持

社内規程を制定し、社会からの信頼を確保できるよう努めています

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。

この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

またこの取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。

関連ページ

- ▶ [発注者綱紀保持](#)

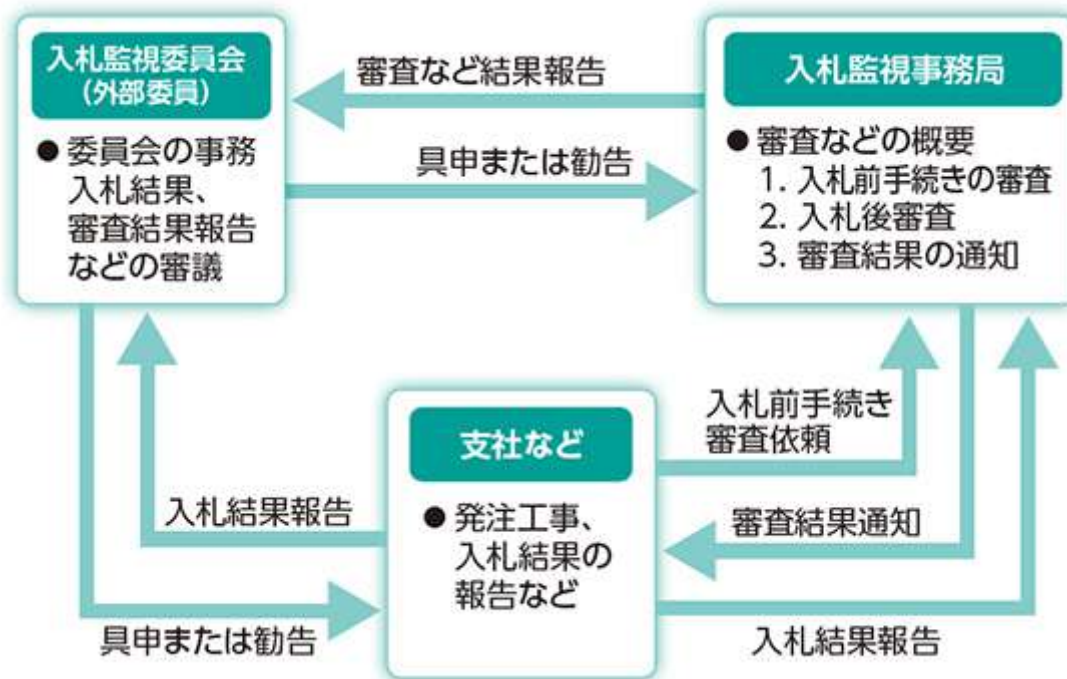
契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続きを行っています

契約手続の透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

また、入札手続契約の過程および結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

▼入札手続きなどの監視体制



関連ページ

- ▶ 調達・お取引
- ▶ 入札監視委員会の審議概要

暴力団関係企業等の排除を徹底

警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底しています

警察との連絡協議体制をいっそう強化し、公共工事からの暴力団関係企業等の排除を徹底するため、「公共工事からの暴力団関係企業等の排除に関する合意書」（2013年3月29日）を警察庁との間で締結しました。

警察との緊密な連携のもとに十分な情報交換等を行い、この合意書に基づく警察からの排除要請があれば、速やかに必要な排除措置を講じるなど、適切に取り組んでいます。

地域物産展の開催

地域の魅力発信に取り組んでいます

西日本管内の休憩施設において、2014年5月から原則毎月第2土曜・日曜に地域物産展を開催しています。

熊本地震から2年が経過した2018年4月の物産展では、東日本・中日本とも連携し、全国のサービスエリアで熊本物産展を開催しました。九州においては、阿蘇市観光協会と連携した観光イベントの実施や、秀岳館高校の雅太鼓部によるパフォーマンスを実施し、多くのお客さまにご参加いただきました。

また、平成30年が明治維新150年にあたることから、鹿児島県や山口県といった明治維新にゆかりのある自治体と連携し、西日本のSAにおいて、薩長土肥・明治維新に関連した商品を集めた物産展を7月に開催しました。

今後も各テナント会社や地元の商工会等と協働しながら継続開催することで、より多くのお客さまに地域の魅力を発信していきます。



熊本物産展の様子
高松自動車道 豊浜SA上り線



明治維新150年物産展の様子
九州自動車道 広川SA下り線

ハイウェイ大商談会（ビジネスマッチング）を開催

- 2018年度は、金融機関や自治体と連携し3回開催しました。
- ・6月:南九州地区の企業（75社）を対象に熊本市内で開催
 - ・2月:関西地区の企業（169社）を対象に大阪市内で開催
 - ・3月:兵庫県の企業（70社）を対象に神戸市内で開催



南九州ハイウェイ大商談会の様子

《成約商品例（南九州ハイウェイ大商談会）》



「えのきチップス」

旨味の濃い鹿児島県産ドライえのきをからりと揚げ、鹿児島県産のかま吹き海水塩をパリパリ。大人がハマる旨さです。

桜島SA上下線で販売中



「黒亭ラーメン」

熊本ラーメンの老舗「黒亭ラーメン」。焦がしにんにく油と豚骨スープのこだわりラーメンを自宅で楽しめます。

山川PA上り線等で販売中



「れんこんチップス」

からし蓮根屋さんが作ったれんこんチップス。パリパリの食感とれんこんの素朴な味わいが特徴です。
北熊本SA上り線等で販売中

SA・PAのテナント会社との継続的な取り組み

研修会・講習会の実施

お客さまに、安全に、そして安心してSA・PAを利用していただくことが、あらゆるサービスの前提です

SA・PAのテナント会社を対象に、アレルギー知識の習得及びアレルギー表示ミスの撲滅を目的としたアレルギー講習会を開催しました。さらに、中核サービスステーションとして指定されている西日本管内の全ガスステーションを対象に、防災意識の向上並びに災害時の燃料油安定供給体制の構築を目的とした災害対応研修会を実施しました。

お客さまに安心してSA・PAを利用していただけるよう、今後も継続して講習会等を実施する予定です。



アレルギー講習会の様子

誤給油防止訓練

誤給油の危険性への認識を深め、防止徹底を図っています

高速道路における誤給油における車両停止は、死亡事故にもつながりかねない非常に危険な事象です。そこで2016年度に、誤給油撲滅を目指して、誤給油対策本部を設置し、セルフ給油お客さま向けの誤給油防止ポスターやステッカー掲示、ウェブサイトや各種広報物による広報強化を実施しています。

また、誤給油防止教材（DVD）を製作して従業員教育の強化を図り、再発防止に向けたテナントやメーカーとの意見交換会などを実施しました。

2019年度も従業員の認識を深める誤給油防止への取り組みを継続して実施します。



誤給油防止訓練の様子



誤給油防止訓練の様子

防犯講習会

警察署の協力のもと、防犯意識の向上を目的にした訓練を実施しています

2018年度は、防犯意識の向上と犯罪抑止を目的に、防犯訓練を実施しました。警察署の協力のもと、各現場責任者および従業員が参加し、店内強盗シミュレーションや情報伝達等の模擬訓練、カラーボールの投てき訓練等を行いました。

2019年度も防犯意識の向上を目的とした防犯訓練を実施します。



防犯訓練の様子



防犯訓練の様子

グループ社員

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

人材の育成

人材育成の考え方

キャリアマネジメントの取り組み

- ▶ 社員のキャリア・能力開発を支援する人事制度の構築に取り組んでいます **WEB**
- ▶ 目指す人材像 **WEB**

グループ社員の成長支援

- ▶ NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

資格取得の支援

- ▶ 公的資格の取得を奨励・支援しています **WEB**

採用選考

- ▶ 人物像に重きを置いた採用選考を実施しています **WEB**

研修制度

- ▶ 技術力・専門力を高めるための研修を行っています **WEB**
- ▶ アイトレをリニューアルオープンしました

ダイバーシティ推進

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ



ダイバーシティ推進の考え方

- ▶ 全社員が“仕事も生活も”充実できる環境を整備
- ▶ 女性社員の活躍を支援 [WEB](#)
- ▶ 社内外ネットワーク構築とキャリア自律意識向上 [WEB](#)

仕事と家庭の両立支援

- ▶ “仕事も生活も充実”できる制度を構築
- ▶ 社員の声を取り入れた仕事と生活の両立支援制度の拡充 [WEB](#)
- ▶ 休暇のさらなる取得促進 [WEB](#)

障がい者の雇用促進

- ▶ 障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます [WEB](#)

定年後再雇用制度

- ▶ 定年退職者に活躍の機会を提供しています [WEB](#)

働き方改革

働き方改革への取り組み



働き方改革の考え方

- ▶ 働き方改革を通じて生産性を向上させるべく、会社と社員が一体となって取り組んでいます [WEB](#)

具体的な取り組み策

- ▶ 社員の健康管理の強化 [WEB](#)
- ▶ こころの健康診断“ストレスチェック”の実施 [WEB](#)
- ▶ 安心して働ける職場環境づくり [WEB](#)

業務改善に対する取り組み

業務の安全性向上

簡易路面調査システムの開発

- ▶ 安全・安心な舗装路面の確保に向けて取り組んでいます **WEB**

高速道路上での作業の安全性向上

- ▶ ロボアローの開発
- ▶ ロボコーンの開発 **WEB**

グループの技術力向上と業務の効率化

女性技術者会議の開催

- ▶ 女性技術者会議を開催しています **WEB**

SAPA接客コンテスト

- ▶ 接客コンテストを2019年3月に開催

業務研究発表会

- ▶ 業務研究発表会の実施

人材育成の考え方

キャリアマネジメントの取り組み

社員のキャリア・能力開発を支援する人事制度の構築に取り組んでいます

NEXCO西日本グループが将来にわたって、「100%の安全・安心」を追求するとともに、円滑で快適な高速道路サービスを提供し、国民の皆さまから信頼される企業であるためには、現場主義に徹した自律型人材を育成する必要があります。

そこで、社員の成長と会社の成長をつなぐための人材育成指針として「目指す人材像」を設定し、その実現に向けたキャリア・能力開発支援を柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

目指す人材像

私たちは、「100%の安全・安心」を追求し、円滑で快適な高速道路サービスを提供するために、『現場主義に徹して、自ら考え行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人材』をめざします。

グループ社員の成長支援

NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

若年層のうちは、幅広く業務の全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促すとともに、グループ理念である「高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高める」ため、グループ会社間における人事交流を実施し、実践力を備えた人材の育成に努めています。

※ OJT(On-the-Job Training)：職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

資格取得の支援

公的資格の取得を奨励・支援しています

NEXCO西日本では、業務に密接（直結・有益）する資格の取得を奨励・支援するため「資格取得支援制度」を導入し、受験費用の補助や報奨金の支給などを行っています。

▼資格取得支援制度による資格取得例

技術士、防災士、コンクリート診断士・宅地建物取引士、建築士・危険物取扱者など多数

人物像に重きを置いた採用選考を実施しています

「自立」と「成長」を積極的に担う多才な人材を確保するため、当社グループが求める才能、人材像をより明確に定義した採用選考活動を実施しています。

また、大阪、広島、高松、福岡、東京で会社説明会を実施し、先輩社員との座談会を通じて、当社グループの使命や実際に働く社員の想いを伝える取り組みを行っています。2019年度の新入社員は138人（男性102人、女性36人）※です。

※集計範囲：NEXCO西日本

NEXCO西日本が採用に当たって求める人材

1. 目的意識や信念を持って活動する人材
2. チームワーク志向と使命感、熱い思いを持った人材
3. 旺盛な好奇心・探究心、向上心、チャレンジ精神を持った人材
4. 地域社会への貢献に意欲ある人材

技術力・専門力を高めるための研修を行っています

保全事業の高度化・効率化、新規建設事業や大規模更新・修繕事業など、着実な事業実施を支える技術者をサポートすべく、茨木技術研修センター（I-TR＝アイトレ）を活用し、計画設計・建設・維持補修・更新など一連の高速道路事業に関わる技術研修を通年実施し、グループ会社社員も含めた技術力の向上や専門技術者の育成に取り組んでいます。

I-TRでは、劣化した実構造物やETC設備・料金機械設備など様々な「実物」を設置しており、体験実習を行うことで理解度の向上を図っています。

研修内容は、社内外の情勢等により求められる高速道路技術の変化に対応すべく随時見直しを行っており、昨今では、工事安全管理、点検診断技術、リニューアル技術、耐震補強技術などに関する研修の充実を図っています。

また、これら研修実施に加えて、学協会や外部機関が主催する学会や委員会等へ社員の積極的な参画を促しています。

▼I-TRで実施している主な研修

分野	目的	研修内容
橋梁	建設基礎技術の習得、点検・診断・補修・更新など保全技術の習得	実構造物や実物教材の活用により、技術変遷や劣化メカニズム、長期保全のポイントなどを解説 打音点検や非破壊検査などを体験実習
舗装		実構造物や実物教材の活用により、舗装構成の理解や点検・補修工事での留意事項などを体験実習
土工		実験装置や実物教材の活用により、斜面安定の理解や荷重試験などを体験実習
工事安全管理	工事中重大事故リスクマネジメントの習得	足場や安全装具など実物教材の活用により、工事中安全の基礎を解説 重大事故アセスメントなどを体験実習
特定更新	専門知識の習得、技術的課題の把握と課題解決能力の向上	実構造物の活用により、劣化メカニズムや床版取り替え技術を解説
点検・診断		実構造物の活用により、点検・診断技術を解説し、体験実習
ETC設備	設備構成の知識や障害対応の習得	実物シミュレーターの活用により、各機械の操作方法を解説、障害対応を体験実習
料金徴収		実物シミュレーターの活用により、各機械の操作方法を解説、動作検証や障害対応を体験実習



実構造物を活用した打音点検



auto CIMA Systemによる撮影・診断

アイトレをリニューアルオープンしました

アイトレ

茨木技術研修センター（I-TR）は改修工事を行い、2018年12月にリニューアルオープンしました。リニューアル工事により講義室を増設するとともに、研修教材として、熊本地震被災物など新たに約70体の研修供試体を設置したり、工事安全の重要性を再認識する場として安全啓発コーナーを整備しました。

「現場力」を高め、プロフェッショナルへの成長を促す「体験型研修」を実施するため、新しいI-TRを活用していきます。



熊本地震被災部材を使った研修の様子

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ

ダイバーシティ推進の考え方

全社員が“仕事も生活も”充実できる環境を整備

NEXCO西日本では、社員一人ひとりの“違い”を尊重し、「多様な意見」に耳を傾け取り入れることを大切にしています。

違いを持つ社員一人ひとりが自律・成長し、個々の力を100%発揮して活躍できる環境を整備することで、会社を取り巻く様々な環境変化にしなやかに対応できる組織づくりに取り組んでいます。

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ



ダイバーシティ推進ビジョン

女性社員の活躍を支援

長年培われた男性中心の働き方を見直し、女性活躍推進法に基づき策定した行動計画をもとに、「採用」「育成」「環境整備」の各側面から女性社員がより活躍できるよう支援を行っています。

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋）

<目標> 平成28年4月1日～平成33年3月31日

1. 新規採用に占める女性の割合を30%以上に拡大する
2. 社員のキャリア形成支援を図る
3. あらゆる社員が働きやすく活躍できる環境を構築する

▼女性社員の比率（NEXCO西日本）



社内外ネットワーク構築とキャリア自律意識向上

社内外のネットワークを構築するとともに、キャリア自律意識の向上を図るため、女性を対象とした社外研修への派遣やキャリア面談などを行っています。

妊娠・出産・育児と仕事の両立支援面談

妊娠や出産という女性ならではのライフイベントと仕事の両立を支援するため、妊娠時、産前休暇前、職場復帰前、職場復帰後に面談を行い、妊娠期の働き方や休暇からのスムーズな復帰、仕事と育児の両立といった各段階において、それぞれの社員に必要なサポートを行っています。

仕事と家庭の両立支援

“仕事も生活も充実”できる制度を構築

「ワーク・ライフ・インテグレーション」¹とは、会社の仕事（ワーク）と個人の生活（ライフ）を別々に捉えるのではなく、“仕事も生活も人生の一部”として統合（インテグレート）して考え、両者の充実を求める働き方です。

社員が仕事も生活も充実させ、両者の相乗効果でより活躍できるよう、両立支援制度の充実や休暇の取得促進に取り組んでいます。

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋）

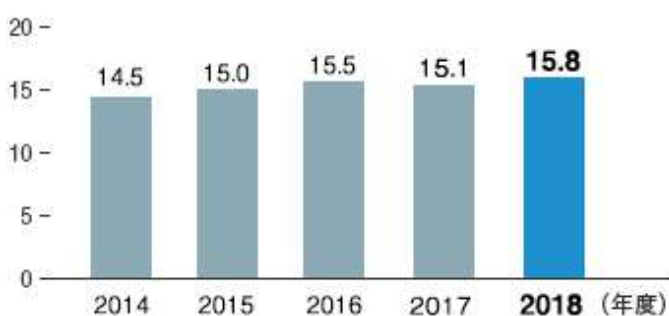
＜計画期間＞平成29年4月1日から平成32年3月31日まで

目標1 男性育児休業対象者に対し、育児関係制度等の周知を行うとともに、育児休業等の取得を促すことで、計画期間中の男性育児休業取得率8%を目指す。

目標2 働きやすい職場環境整備のため、両立支援に資する制度等の拡充を図る。

目標3 社員のワークとライフの充実に向け、休暇の取得促進等を図る。

▼有給休暇取得実績（単位：日）



▼育児休業取得実績（単位：人）



社員の声を取り入れた仕事と生活の両立支援制度の拡充

全社員を対象に行ったダイバーシティアンケート結果を踏まえ、2019年4月に育児部分休業（短時間勤務）と子の看護休暇の対象となる子の年齢を拡大、介護短時間勤務の取得日数の拡大や時差出勤制度の導入など、さらなる両立支援制度の拡充に取り組んでいます。

育児関係制度

凡例 ■ 2019年4月から拡大

制度	妊娠	出産	3歳	小学校入学	小学校3年生終了
直属の上司による両立支援面談（妊娠期・休暇前・復帰前後）	■	■	■	■	
育児休業	■	■	■	■	
部分休業（1日最大2時間までの休業）	■	■	■	■	■
子の看護休暇（5日・2人以上は10日/年度）	■	■	■	■	■

介護関係制度

制度	介護開始	通算184日	3年
介護休業（3回まで分割取得可）	■	■	■
介護短時間勤務（1日最大2時間までの休業）	■	■	■

休暇のさらなる取得促進

各社員の事情に応じて自由に休暇を確立できる制度にするため、2019年4月からポジティブ休暇（1年を通じて連続休暇を分散できる特別休暇）の連続取得要件を撤廃し、計画的に取得する年休5日とあわせて「ワークライフバランス休暇」として完全取得を推奨しています。

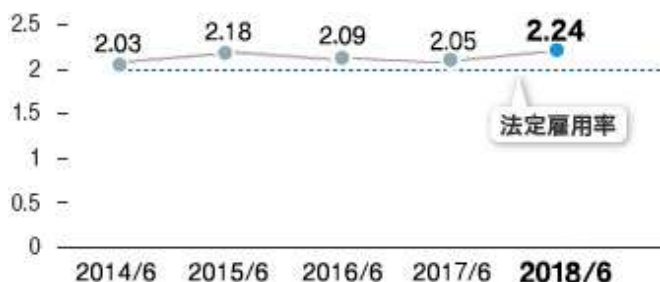
障がい者の雇用促進

障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます

当社グループでは、障がい者が自立し、社会参加できるように、障がい者の採用を継続的に行っています。また、職場環境に関して、バリアフリー化などのハード面と健康相談などのソフト面の両面で、障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

当社の2018年6月現在の障がい者雇用率は2.24%です。

▼障がい者雇用率の推移（NEXCO西日本）（単位：%）



定年後再雇用制度

定年退職者に活躍の機会を提供しています

定年退職者のキャリアを活かし、働きがいを持って活躍できる機会と場を拡大するため、再雇用制度を導入しています。2018年度は、当社の定年退職者のうち、継続雇用希望者11人全員を再雇用しました。

※集計範囲：NEXCO西日本

働き方改革への取り組み

働き方改革の考え方

働き方改革を通じて生産性を向上させるべく、会社と社員が一体となって取り組んでいます

社員がイキイキと健康的に能力を発揮できる環境を整えることは、企業にとって重要な課題です。当社の使命は高速道路の安全・安心の実現ですが、それを実現する社員の健康と安全を守ることも会社の重要な責務です。

そこで、柔軟な勤務体系の導入や業務の効率化による時間外労働の削減、ダイバーシティの推進などにより、社員にとって働きやすい職場環境を実現するとともに、社員一人ひとりが「決められた時間内でどうすれば効率的に業務を遂行できるのか」という目標を持ち、社員にとって働きやすい職場環境づくりを推進していきます。

具体的な取り組み策

社員の健康管理の強化

当社が目指すワーク・ライフ・インテグレーションの実現のためには、“社員の健康”が重要であるため、社員の健康管理を強く意識しています。

産業医・看護師と連携した健康管理や過重労働による社員の健康障害の防止に取り組むとともに、健康増進策の一環として歩数に応じて健康増進ポイント（レクリエーション費用として利用可能なポイント）を付与する「ウォーキング制度」を導入しています。



看護師による健康相談の様子

こころの健康診断“ストレスチェック”の実施

産業医・看護師による健康相談とともに、2013年度から継続してストレスチェック実施して“社員のこころの健康度”の把握に努めています。また、メンタル不調者に対する理解を深めるため、自身と部下に対するメンタルヘルスマネジメント研修を行っています。

安心して働ける職場環境づくり

仕事や職場環境、生活との両立や今後のキャリア形成など、働く上で生じる様々な悩みや不安について、国家資格を有する企業内キャリアコンサルタントに相談できる「キャリア相談窓口」などを設けるとともに、両立支援制度が利用しやすくなるようガイドブックを作成して周知するなど、社員が安心して働き続けられる環境づくりを進めています。



仕事と介護の両立支援ガイド
 ※各制度の利用できる期間等が分かる早見図を掲載



妊娠・出産・育児に関する両立支援制度ガイド
 ※ママとパパ別に利用できる制度が分かる早見図を掲載

関連ページ

▶ [トップメッセージ](#)

業務の安全性向上

簡易路面調査システムの開発

安全・安心な舗装路面の確保に向けて取り組んでいます

NEXCO西日本エンジニアリング四国では、「簡易路面調査システム」の開発に取り組んでいます。2018年度には、道路巡回車などの小型車に搭載可能な高精度3次元形状計測ユニット「Smart-EAGLE type-P」を完成しました。この計測ユニットは、ひび割れ率、わだち量、平坦性の路面性状3要素を完全自動解析できることが特徴で、高頻度な測定と自動解析による迅速な現状把握を可能とします。また、局部的な陥没を抽出する局所沈下量やひび割れ度合いと骨材飛散を定量評価するMPDなどの新たな評価指標を用いた、舗装ポットホール発生予測技術の研究開発を行っています。将来的には測定データをクラウドにアップロードするだけで、最新の損傷状況と舗装ポットホール発生予測をGIS情報システムなどで監視し、予防保全や改良計画を業務支援する「トータルシステム」の構築をめざしています。



Smart-EAGLE type-P搭載状況

高速道路上での作業の安全性向上

ロボアローの開発

当社グループでは、規制作業における矢印板設置を機械化し、作業員の安全性向上と負担軽減に取り組んでいます。通常、矢印板設置は、複数人が車外で作業を行う必要のある危険な重労働ですが、ロボアロー（矢印板自動設置回収車）の開発により、運転手が車内にいながら矢印板を設置・回収することが可能となりました。

そのほか、風による転倒やズレの生じにくい矢印板を開発するなど、引き続き作業の安全性向上と負担軽減に取り組んでいます。



ロボアロー

(西日本高速道路メンテナンス九州(株)による開発)

ロボコーンの開発

NEXCO西日本メンテナンス九州は、高速道路の維持修繕業務を行っています。維持修繕工事の実施にあたり、高速道路本線を規制するためラバーコーンの設置が必要になりますが、これまでは重さが約4kgもあるラバーコーンの設置・回収を作業員が荷台からはみ出して作業を行うため一般車両との接近など、非常に危険なうえ規制延長が長い場合は、作業員に大きな負担となっていました。

このためロボコーン(ラバーコーン自動設置回収車)を開発し、規制にかかる一連の作業を機械化することで、作業員の安全性向上と労力軽減を図っています。

現在、全国的高速道路で69台が稼動しており、今後も導入を進めていく予定です。



ロボコーンによるラバーコーン設置の様子1



ロボコーンによるラバーコーン設置の様子2

グループの技術力向上と業務の効率化

女性技術者会議の開催

女性技術者会議を開催しています

当社グループのエンジニアリング系会社では、女性技術者のワークライフバランスに考慮した働きやすい職場環境の醸成と活躍機会の創出を目的に、「女性技術者会議」を2016年12月から開催しています。2018年11月の3回目は、土木系、施設系、造園系と幅広い分野で活躍している女性技術者24名が、NEXCO西日本エンジニアリング四国に集まりました。会議では、初めて顔を合わせた女性同士の自己紹介に続き、グループ討議を通じて①女性技術者の活躍や日頃感じることや会社の取り組みなどについての情報共有、②職場環境の改善に向けた検討課題、③女性技術者同士のネットワーク構築などをテーマとして、事前アンケートの集計結果を基に、課題解決に向けた提言がなされました。また、本社人事部からダイバーシティ推進担当部長も参加し、会議内容の助言を行うとともに、担当部長による「ダイバーシティとキャリア自立」に関する講演会も開催されました。

2日目は、高知自動車道（新宮IC～大豊IC間）で発生した災害現場の視察を行い、土砂崩落や橋梁上部工の流出の被災状況、発災時の対応、応急復旧について把握し、今後の災害対応力の向上に活かされました。

今後も、会議を重ねることで女性技術者のネットワークの拡がりや深化を図り、各社で課題解決に取り組むヒントや方策を得ることで、グループ全体を通じた職場環境の改善、女性技術者のモチベーションアップを進めていきたいと考えています。



第3回女性技術者会議
(西日本高速道路エンジニアリング四国(株))



グループ討議の様子



ダイバーシティ講演会



災害現場視察（高知自動車道）

SAPA接客コンテスト

接客コンテストを2019年3月に開催

グループ会社とテナント店舗スタッフ約8千人の頂点に、ショッピング部門は東九州自動車道今川PA（上り線）の緒方彩乃さん（写真左）、レストラン部門は中国自動車道安佐SA（上り線）の梶谷尚子さん（写真右）が輝きました。



（上り線）の緒方彩乃さん



（上り線）の梶谷尚子さん

業務研究発表会

業務研究発表会の実施

NEXCO西日本グループでは、専門技術者の育成と技術力向上、業務改善の促進を目的としたNEXCO西日本グループ業務研究発表会を開催しています。発表された内容については、ルール化やマニュアルに取り込む等フォローアップを行い、グループ一体となって技術力向上や業務改善に取り組んでいます。



表彰式の様子

環境保全

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

- ▶ 「環境基本計画」を策定して活動を推進しています
- ▶ 中期計画「環境基本計画2020」に基づく環境アクションプラン2018の取り組み（達成状況）

事業活動と環境負荷

- ▶ 活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています **WEB**

低炭素社会の実現

交通渋滞の解消

- ▶ 高速道路整備やETC利用の普及促進でCO₂削減をめざしています **WEB**

省エネルギーの推進

- ▶ 電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています **WEB**
- ▶ オフィスでも省エネ活動を継続しています **WEB**

充電システムの整備

- ▶ SA・PAにおける急速充電システムの整備を進めています **WEB**

創エネルギーの推進

- ▶ SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています **WEB**
- ▶ TOPICS：高速・一定速度の走行による環境効果 CO₂排出の抑制に有効です **WEB**

CO₂以外の温室効果ガス抑制

- ▶ フロン排出抑制の取り組みを進めています **WEB**

循環型社会の形成

建設副産物の3R

- ▶ 建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています [WEB](#)

緑地管理の3R

- ▶ 刈草や剪定枝を緑化資材に転用する「緑のリサイクル」を行っています [WEB](#)
- ▶ 緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に努めています [WEB](#)

廃棄物の3R

- ▶ SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています [WEB](#)
- ▶ 大型・特殊車両の再利用を促進しています [WEB](#)

環境に配慮した調達

- ▶ 公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます [WEB](#)

自然と共生する社会の推進

自然環境に配慮した道路整備（エコロード）の推進

- ▶ 2つの軸を定め、エコロードを推進しています [WEB](#)

生物多様性の保全

- ▶ 道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています [WEB](#)
- ▶ 「地域性苗木」を育成・植栽し、生物多様性の保全に配慮しています [WEB](#)

野生動物の事故防止

- ▶ 動物侵入防止柵の設置に取り組んでいます [WEB](#)

沿道環境の保全

- ▶ 道路交通による騒音の低減に努めています [WEB](#)

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5か年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱である「[低炭素社会](#)」の実現」「[循環型社会](#)」の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（[アクションプラン](#)）を立て、実績を評価しています。



新名神沿線の淀川では、
ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、**持続可能な社会**の形成をめざします。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年制定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組みます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組みます。



新名神高速道路宝塚北SAの急速充電システム

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組みます。



他の建設工事等で発生した土砂を受け入れ、
利用しています

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会をめざし、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組みます。



高松自動車道
府中湖PAの土捨場跡地を利用して整備したビオトープ

中期計画「環境基本計画2020」に基づくアクションプラン2018の取り組み

2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2018」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に積極的に取り組みました。

低炭素社会の実現

高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策や、事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化などを実施しています。

循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse [再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。

実行目標計画の取り組み項目			活動内容	指標	単位	アクションプラン2018	
						目標	実績
低炭素社会の実現	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィス活動に要する電気使用量を削減する	電気使用量	kWh/m ²	2015年度実績より3%以上削減する (2015年度153kWh/m ²)	3.3%増加 (158kWh/m ²)
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量 (都市ガス+LPGガス)	m ³ /m ²	2015年度実績より抑制する (2015年度0.4m ³ /m ²)	13%削減 (0.35m ³ /m ²)
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	ha	94ha	82ha
	技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	-	-	再生アスファルト混合物(市中一般再生骨材)の適用性を検討し、市中一般再生骨材の基準化の可否を判断する	市中一般再生骨材の品質変動が製造混合物の品質に影響を及ぼさない配合率の上限値を設定し、これに基づいた試験施工の手引きを作成した
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	一般廃棄物(資源となるものを除く)の排出量を減量する	-	kg	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努めた
			休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する(再資源可能なもの)	再資源化率	%	100%をめざす	100%
			建設発生木材の再資源化を推進する	再資源化率	%	95%以上をめざす	98.5%
			建設汚泥の再資源化を推進する	再資源化率	%	90%以上をめざす	98.1%
自然と共生す	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する(建設)	設置延長	km	2.5km	2.7km
			地域性苗木を設置する	設置本数	本	-	約6,000本

実行目標計画の取り組み 項目			活動内容	指標	単位	アクションプラン2018	
						目標	実績
る 社 会 の 推 進	生活環境 の保全	道路交通 騒音対策	高機能舗装の 敷設を推進す る	敷設延長	車線・ km	100車線・km	109車線・km

事業活動と環境負荷

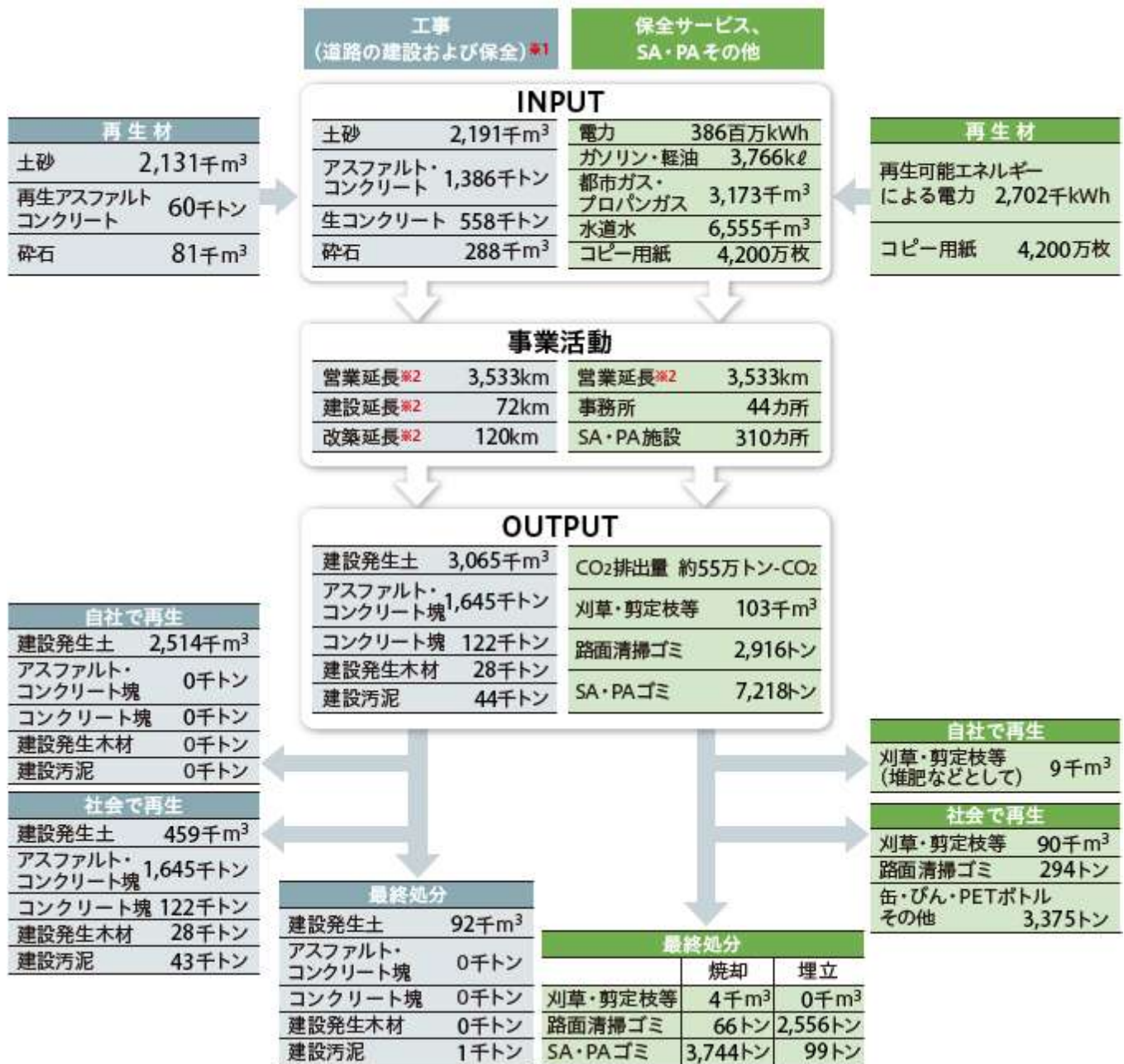
活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています

当社グループでは、高速道路の建設、維持管理、SA・PAなど休憩施設の運営などすべての事業活動が環境にどの程度負荷を与えているのか、できる限り定量的に把握するよう努めながら、環境に配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

これらの事業活動による2018年度の環境負荷の**マテリアルフロー**（原材料から廃棄物までのモノの流れ）は以下のとおりです。主なものとして、2,191千m³の土砂、1,386千トンのアスファルト・コンクリート、558千トンの生コンクリート、4,200万枚のコピー用紙、386百万キロワットアワーの電気使用量、3,766キロリットルの自動車燃料、6,555千m³の水道水などがあります。

また、高速道路の建設では、**盛土** 工事で大量の土砂を必要とする一方、切土部分では大量の土砂を排出します。そこで当社では、土砂の最終処分が少なくなるよう、自社または自治体等関係機関での再生利用を推進しています。2018年度の最終処分量は、92千m³となりました。

▼事業活動に伴うマテリアルフロー




※1：2018年度にしゅん功（完了）した工事のマテリアルフロー

※2：2019年3月末現在

交通渋滞の解消

高速道路整備やETC利用の普及促進でCO₂削減をめざしています

自動車は加速時に多量の燃料を消費するため、高速道路の整備による渋滞対策やETC  利用の普及による料金所での一旦停止車両の減少は、自動車交通によるCO₂排出量の削減に大きな効果をもたらします。2018年度のETC利用率は89.6%となり、ETC運用開始前と比較して、CO₂排出量が約19.3万トン削減されたものと推定されます。

今後も高速道路整備やETCレーンの複数化により交通混雑を解消することで、自動車交通によるCO₂排出量削減に貢献していきます。

省エネルギーの推進

電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています

当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明によるものです。これらをすべてLED化すると、トンネルでの電気使用量の約4割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

現段階では2019年度までに全体の17.9%にまで拡大する計画を立てています。2018年度末時点で144本のトンネルでLED化を完了し、2019年度は新たに20本のトンネルのLED化を予定しています。

▼電気使用量の内訳（単位：百万kWh）



オフィスでも省エネ活動を継続しています

2018年度も、前年度に引き続きオフィスにおける省エネ活動の取り組みとして、執務室内の照明の調整や昼休みの一斉消灯、エレベーターの稼働台数制限、空調温度の設定、パソコンの省エネモード設定のソフト対策や、執務室の照明のLED化やエアコンを省エネ製品に取り換えるなどのハード対策を実施しました。しかしながら夏の猛暑や災害対応による業務量の増加などの影響で、執務室床面積当たりの電気使用量が2015年度比で約3.3%程度増加となりました。

今後も引き続き、さらなるオフィスにおける省エネ活動に取り組んでまいります。

充電システムの整備

SA・PAにおける急速充電システムの整備を進めています

政府が掲げる低炭素社会 [☐](#) の実現にあたり、次世代自動車（電気自動車やプラグインハイブリッド車）の普及は必要不可欠であるといわれています。

高速道路の利便性向上、地域への貢献および次世代自動車の普及・技術発展の実現に向けいっそうの推進が図れ、高速道路の価値最大化に寄与することを目的とし、ジャパンチャージネットワーク（株）との業務提携を結び、協働により、次世代自動車用急速充電インフラの整備を進めました。2019年3月末時点で累計129カ所※に設置しております。

※ハイウェイオアシス [☐](#) への設置は含まない

創エネルギーの推進

SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています

太陽光発電設備をSA・PAや料金所、高速道路の遮音壁 [☐](#) などに設置し、その電力を休憩施設や道路設備に活用しています。

2019年3月現在の発電設備容量の合計は2,913キロワット（計84カ所）でした。

今後も太陽光発電整備による創エネルギーの拡大を進めていきます。

TOPICS

高速・定速走行による環境効果 高速道路は、CO₂排出の抑制に有効です

当社管内の高速道路を走行する自動車のCO₂排出量は、年間約800万トン（2018年度）と推定されています。これらの自動車が一般道路と同じ速度で走行した時のCO₂排出量は、年間約840万トンで、高速道路は年間で約40万トンのCO₂排出を抑制していることとなります。



また、自動車の走行ではCO₂のほか、粒子状物質（PM）、窒素酸化物（NO_x）などが排出されています。高速道路では走行速度が一般道路に比べて一定で速いため、これらの排出が減り、大気汚染も抑制されています。

▼高速・定速走行による温室効果ガス排出の削減量※



※「自動車排出係数の算定根拠」
（2003年12月国土交通省国土技術政策総合研究所）より作成。

フロン排出抑制の取り組みを進めています

低炭素社会  実現に向けた取り組みの一環として、CO₂よりもオゾン層を破壊する影響が大きく、地球温暖化  の要因の一つになっているフロンガスの排出抑制に取り組んでいます。2015年4月に施行されたフロン排出抑制法※を受け、各社屋や料金所、休憩施設等で使用している業務用エアコンや製氷機等の簡易点検、詳細点検を実施しました。点検の結果、2018年度の「フロン類算定漏えい量」は14 t-CO₂でした。

※フロンガスを発生する設備・機器の使用にあたって、設備の管理者に対して、フロンガス漏えいの有無を調べる簡易点検もしくは定期点検の実施と、漏えいを発見した場合の設備整備と修理点検の記録作成、一定量（1,000 t-CO₂）以上の漏えいがあった場合の報告を義務付けた法律。

循環型社会の形成

事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進することにより、天然資源の消費を抑制し、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

建設副産物の3R

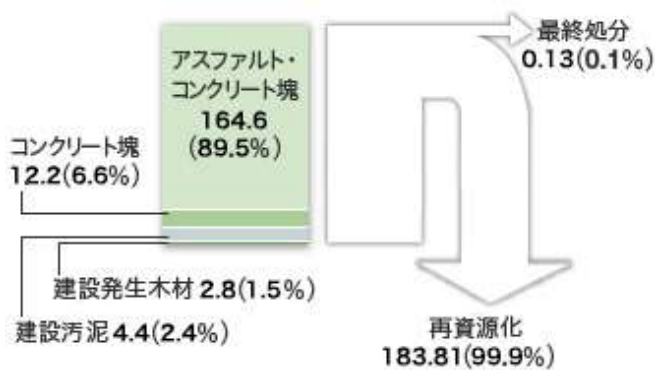
建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、他の工事現場や再資源化工場への持ち込みを進めるなど、最終処分（埋め立て）をできるだけ少なくしています。

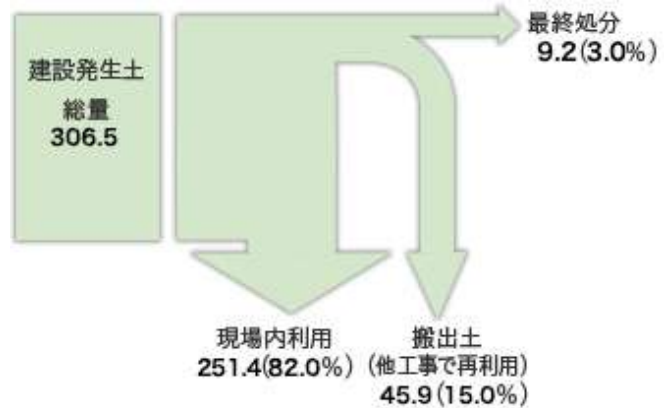
また、アスファルト・コンクリート塊やコンクリート塊といった建設廃棄物についてはコンクリートや舗装の骨材や基礎砕石として、建設発生土は道路の盛土材などとして、再利用しています。

今後も建設副産物の3Rの推進に取り組んでいきます。

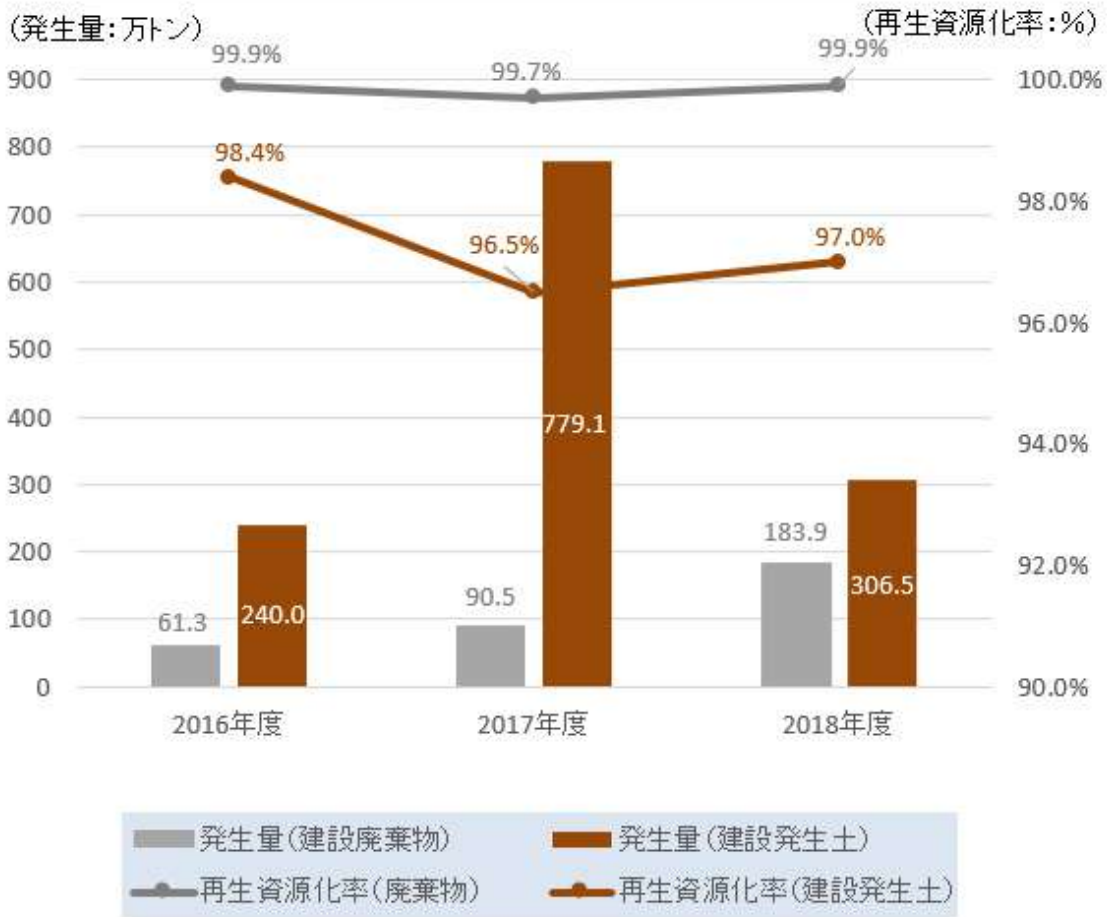
▼建設廃棄物の再資源化の状況（単位：万トン）



▼建設発生土のリサイクルの状況（単位：万トン）



自工区および他の建設工事で発生した土砂を受け入れ、利用



建設廃棄物・発生土の発生量の推移
及び再資源化率の推移

緑地管理の3R

刈草や剪定枝を緑化資材として再利用する「緑のリサイクル」を行っています

高速道路の緑地からは、維持管理の際に刈草や剪定枝が大量に発生します。これらから、主に建設事業で使用する堆肥やチップを自社プラントで製造する「緑のリサイクル」を行っています。2018年度は約1,551m³の堆肥を生産しました。

緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に努めています

高速道路緑地の草刈りの手間軽減と刈草の減量化を図るために、当社では選抜育種したテイカカズラ（商品名：eQカズラ）を植栽しています。eQカズラは、生育に伴い地表面を覆い隠すことで雑草の侵入を抑制するため、維持管理コストを従来の約10分の1にでき、生態系への悪影響もありません。エコエリア山田の太陽光発電設備周辺にも防草対策として植栽しています。

2018年度までに約134万本を高速道路の緑地等に植栽しており、今後は高速道路の既開通区間への導入を推進いたします。

なお、この技術は、当社とグループ会社の西日本高速道路エンジニアリング九州（株）が共同で開発（特許：第4642049号）しています。



eQカズラによる雑草抑制（大分道 エコエリア山田）

廃棄物の3R

SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています

当社グループでは、お客さまにゴミの分別のご協力をいただくとともに、よりきめ細かな分別を実施し、SA・PAにおけるゴミの3Rを推進しています。

再資源化可能なゴミはリサイクル工場に運搬し、資源の有効利用に貢献しています。2018年度は、SA・PAで発生したゴミ7,218トンのうち約47%にあたる3,375トン再資源化しました。

今後もお客さまに引き続きゴミの分別や家庭ゴミの持ち込み抑制にご協力いただきながら、ゴミの削減・再資源化に取り組んでいきます。

▼SA・PAのゴミ再資源化を図った廃棄物の内訳（単位：トン）



大型・特殊車両の再利用を促進しています

当社グループでは、高速道路での使用には耐えられず更新時期を迎えた除雪車などの大型・特殊車両について、解体処分をせず一般競争入札で売却することで、資源の有効利用を図っています。売却された車両は再整備のうえ、国内の一般道や海外で再利用されます。

2018年度は標識車や散水車、除雪車など64台を売却しました。今後も車両の再利用を推進し、資源の有効利用を図っていきます。



散水車

環境に配慮した調達

公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます

当社では、環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に準じて、[グリーン調達](#)の基本方針を定めています。

事務用品は、2006年度にグリーン調達率100%を達成し、2018年度も継続達成しています。公共工事に関しては、2018年度は対象とした66品目のうち、40品目についてグリーン調達しました。

引き続き、事務用品については環境省の方針に準拠するとともに、公共工事については、当社設計要領との整合性を確認したうえで、グリーン調達の方針に基づく調達を実施していきます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、[遮音壁](#) の新設・改良などを推進しています。



自然環境に配慮した道路整備（エコロード）の推進

2つの軸を定め、エコロードを推進しています

エコロードの推進にあたっては、道路による自然環境への影響を緩和する「マイナスの低減」、道路空間を利用して自然環境を創出する「プラスの付加」という2つの軸を定め、さまざまな対策に取り組んでいます。

マイナスの低減

1. 回避：保全対象部分を避けて路線を選定

回避した路線

自然環境保全上の重要な部分を避けて路線選定を行う



2. 低減（最小化・均衡）：自然に及ぼす影響を最小化

動物の移動経路の確保
横断構造物や侵入防止柵の設置

地形改変の最小化
トンネルや橋梁構造の採用



3. 低減（修復・再生）：のり面 や表土の緑化等



4. 代償：近隣同様の生息・生育環境を整備



プラスの付加


道路のり面や環境施設帯、SAを活用し、緑化や水辺整備によって動植物の生育環境を創出



「府中湖PAに整備したビオトープ」（高松自動車道）
土捨場跡地を利用したビオトープの整備

生物多様性の保全

道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています

当社グループでは、建設事業ごとに工事着手前に自然環境の調査を実施し、学識経験者を交えた委員会等で最適な自然環境の保全対策を検討しています。必要に応じて構造変更による隣接湿地の保存や希少植物の移植などを実施し、自然環境に及ぼす影響の最小化や生物多様性  の保全に努めています。

また、建設後においても、環境の経年変化や保全措置の効果を把握するためモニタリングし、適切な管理を行うことで、自然環境保全の質的向上にも努めています。

「地域性苗木」を育成・植栽し、生物多様性の保全に配慮しています

自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面 [□](#) に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与できると考えています。

2017年度末までに約12.6万本の地域性苗木を植栽しており、今後も、建設工事が進む新名神高速道路などで積極的に取り組んでいきます。



地域性苗木の植樹

野生動物の事故防止

動物侵入防止柵の設置に取り組んでいます

高速道路に野生動物などが侵入すると、動物が車にひかれる危険があるばかりでなく、動物を避けようとしたドライバーが交通事故に巻き込まれる恐れがあります。

そこで、当社では、動物の道路への侵入防止柵を設置しています。また、ドライバーへの注意喚起を促すための標識設置などの対策も講じています。



シカ侵入対策（フェンスの高上げ）



小中型動物侵入対策（排水溝の閉塞）

沿道環境の保全

道路交通による騒音の低減に努めています

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任のひとつと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、[遮音壁](#) の増設やかさ上げによる遮音壁の改良などに努めています。

また、老朽化した遮音壁の取り換えなどの改良工事も実施しています。今後も、必要に応じて沿道環境の保全に努めていきます。



【施工前】



【施工後】

老朽化した遮音壁の取替え及びかさ上げ工事

社会貢献

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

NEXCO西日本の社会貢献

社会貢献の考え方

- ▶ 社会貢献活動

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

- ▶ 地域の高齢者やお子さま向けの交通安全教室を開催しています

関係機関への講習会の実施

- ▶ ノウハウを活かした講習会に取り組んでいます

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動

- ▶ 西日本各地で森林再生に取り組んでいます

WEB

各種環境保全活動への参加

- ▶ 環境保全活動へ参加しています

「地域貢献」への取り組み

資機材やノウハウを活かした支援活動

- ▶ 地域の災害復旧ボランティアに参加しました
- ▶ 相互協力協定に基づく除雪支援活動を実施しました

学生や地域の子供たちの教育支援

- ▶ 大学生への講義を実施しています **WEB**
- ▶ 校外学習活動として職場体験学習を実施しています
- ▶ 大学や社会福祉法人と協定を締結し、学生実習の場などを提供しています **WEB**

地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献

- ▶ 地域社会や住民と一体となった地域貢献活動を継続しています **WEB**


グループ会社との取り組み

グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

- ▶ 多種多様なボランティア活動への参加を支援しています **WEB**

社会貢献の考え方

社会貢献活動

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR  活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

地域の高齢者やお子さま向けの交通安全教室を開催しています

高齢者やお子さまが地域で安心して暮らせるよう、地域の警察や交通安全協議会、市町村等と連携し、交通安全教室や講習会を行っています。

シルバー講習会では高速道路での逆走事故防止などを中心に、幼稚園での交通安全教室ではキャラクターや紙芝居を使うなど分かりやすさを心掛けながら、飛び出し事故の危険性などについてお伝えしています。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



交通安全教室の様子
(西日本高速道路サービス四国(株))

関係機関への講習会の実施

ノウハウを活かした交通規制に関する講習会に取り組んでいます

当社グループのパトロール会社では、関係機関に対し交通規制に関する講習会を実施しています。

2018年、関西地区では、近畿2府4県の警察の皆さまや高速道路沿線の消防の皆さまに対し、高速道路での作業や規制時における安全対策等の講義を行いました。

講義においては、規制器材や発炎筒の使用方法や赤旗の振り方などの実技を交えながら行いました。パトロール会社では、2018年度で88回の交通安全講座を実施しており、今後もこうした業務でのノウハウを活かした取り組みを継続し、地域社会へ貢献していきます。



実技指導の様子
(西日本高速道路パトロール関西(株))

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動

西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。グループ社員やその家族が参加し、自治体や森林組合とともに、2018年度は3カ所、約6ヘクタール（累計で7カ所、約91ヘクタール）で植林や間伐を行いました。今後も引き続き、西日本各地で自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



つなぎの森 関西 南紀龍神 下草刈り活動の様子と参加者



つなぎの森 四国 高知大豊町 下草刈り活動の様子と参加者

各種環境保全活動への参加

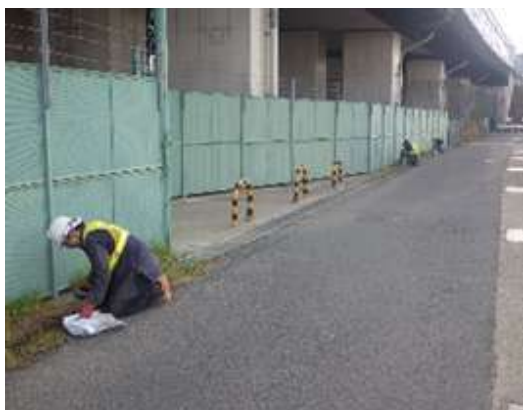
環境保全活動へ参加しています

当社グループでは地域社会への参加の一環として、各種清掃活動へ参加しています。一例としては、川西市でのクリーンアップ大作戦における地元の駅周辺での清掃や地域からの要望を踏まえた工事現場付近での清掃を実施することで、地域の環境保全のほか、社員の美化意識の向上を図りました。

引き続き環境保全活動を通じて地域社会での活動に参加してまいります。



川西市クリーンアップ大作戦への参加（日本西高速道路ビジネスサポート（株）ほか）



工事現場付近での清掃（（株）富士技建）

アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加しています

当社グループでは、地域に愛されるきれいな道路環境づくりや地域の環境美化を目的として、「アドプト・ロード・吹田」に参加しています。

当社グループでは、吹田ジャンクション周辺に限らず西日本の各地において環境保全活動に社員が自主的に参加しており、2018年度は約1,700回、8,800人が参加しました。

これからも地域を愛し、地域とともに生きる企業グループをめざしていきます。



アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加したボランティアスタッフ

「地域貢献」への取り組み

資機材やノウハウを活かした支援活動

地域の災害復旧ボランティアに参加しました

西日本高速道路エンジニアリング九州(株)では、2016年の熊本地震により被災した歴史的庭園の復旧活動を、地元の方々や造園専門家と協働で取り組みました。現場では、被災前の資料等を基に、社員の造園の知識や技術を活かしながら、崩落した池泉護岸や合掌式の石橋の復旧作業、堆積した土砂の撤去作業の支援を行いました。

また、西日本高速道路メンテナンス中国(株)では、2018年の7月豪雨で被害を受けた呉市の災害ボランティアに参加しました。被災地では土砂等で元の状態がわからなかったため、社員は細心の注意を払いながら、土砂撤去や家財等の搬出、清掃作業等を行いました。

2018年度におけるグループ全体での災害復旧ボランティア参加は、71日・95人にのぼりました。今後もこのような活動を通じて、地域の復旧に取り組んでいきます。



庭園復旧の様子

(西日本高速道路エンジニアリング九州(株))

相互協力協定に基づく除雪支援活動を実施しました

2018年2月5日から8日にかけて、北陸地方西部の福井県嶺北地方・石川県加賀地方を中心に記録的な大雪となり、石川県と福井県を結ぶ国道8号では一時約1,500台の車が立ち往生するなど、大規模な交通障害が発生しました。

西日本高速道路メンテナンス関西(株)では、当社と近畿地方整備局が締結している相互協力協定に基づき、除雪作業の支援要請を受け、2月8日～10日の3日間にわたって、作業員4名、作業車2台を出動させ、国道8号を中心にのべ74時間除雪作業の支援を行いました。

今後も災害などの有事の際には、当社グループが有する資機材やノウハウを活かした支援を実施していきます。



除雪支援活動の様子

学生や地域の子供たちの教育支援

大学生への講義を実施しています

西日本高速道路エンジニアリング中国（株）では、広島工業大学環境土木工学科における年間15回の「道路工学」講座を実施しています。道路構造、景観、環境など道路に関する様々な分野の専門的な内容についての講義のほか、[土工](#)、橋梁、トンネル等の建設現場等の見学も行っており、この講座への取り組みは30年以上にわたって実施しています。

2018年度におけるグループ全体での同様の取り組みは8大学、のべ42回にのぼり、今後もこうした学生への教育支援を継続していくことで、地域や社会に貢献していきます。



建設現場見学の様子

校外学習活動協力として職場体験学習を実施しています

当社グループの料金收受会社では、地域との交流をはかり、高速道路や料金所への理解を深めていただくために、地元小中学生に対して職場見学会や料金所での職場体験学習を実施しています。

具体的には、発券機横での通行券の手渡しや料金所ブースでの料金收受などを体験してもらっています。実際に高速道路を利用するお客さまから「がんばれ」と励ましの言葉をいただき、子どもたちも真剣に料金收受に取り組んでいました。

今後もこうした校外学習活動への支援を通じ、地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。



料金収受体験学習の様子
(西日本高速道路サービス中国（株）)

大学や社会福祉法人と協定を締結し、学生実習の場などを提供しています

NEXCO西日本エンジニアリング四国では、地域と連携した地域活性化の取り組みの一環として、高知県大豊町で指定管理者事業とアグリ事業を行っています。

実施に当たっては、2015年度に高知大学地域協働学部と「地域協働による教育活動実施に関する協定」を締結し、指定管理者事業やアグリ事業を中心に学生を受け入れて、地域の課題を地域とともに解決する力を育成するための教育活動の場として活用してもらっています。

また、障がい者の方の働く場所と機会を提供するため、社会福祉法人と2012年度に協定を結び、指定管理事業施設の花木育成や植付け、清掃作業等を行ってもらっています。

今後もこれらの活動を通じて、地域の活性化や地域とのつながりを強化していく取り組みを実施していきます。



高知大学地域協働学部生との意見交換の様子



高知大学生の実習（椎茸の仮伏せ）の様子



高知大学地域協働学部生が企画・運営したブルーベリー収穫祭の様子



高知大学地域協働学部生がゆとりすとパークで運営しているブルーベリーカフェの様子



障がい者による花苗栽培の様子

地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献

地域社会や住民と一体となった地域貢献活動を継続しています

西日本高速道路パトロール関西（株）では、地域のために活動し、地域の方々に愛される企業をめざして、大阪マラソンでのボランティアに参加しています。

大阪マラソンは約3万人が参加する日本でも有数の市民マラソンで、2018年度は大会前日のランナー受付や、ゼッケン配布のボランティアとして活動しました。ランナー受付では職業柄、極力受付待ちの渋滞を発生させないよう、丁寧に應對しつつも簡潔明瞭な説明に徹するなど工夫しながら実施しています。

他にもグループ各社では、グループ発足当初から、地元の福祉施設や幼稚園で行われる季節の行事への参加、料金所で育てた花の鉢の寄付など、季節や地域行事にあわせたボランティアを実施しています。

今後も地元の方々との交流を通じて、地域の活性化に貢献できるような取り組みを継続してまいります。



ランナー受付の様子



老人ホームへ花の寄贈
(西日本高速道路サービス中国（株）)



SS沖縄バンド倶楽部による県警主催防犯イベント出演
(西日本高速道路総合サービス沖縄（株）)

グループ会社との取り組み

グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

多種多様なボランティア活動への参加を支援しています

グループ各社では、安全・環境・地域貢献の分野に限らず、献血やAED講習会、エコキャップや古本の収集寄付などのボランティアを幅広く実施しています。ボランティアの実施にあたっては、企画・提案から参加方法までグループ社員個人の自主的な活動を基本としております。

会社としての支援については、グループ会社によって制度の違いはありますが、ボランティア休暇制度を導入しているところや、障害保険の付保や消耗品の購入を会社経費とするなど、ボランティア活動に参加する社員を支援しています。



ボランティア清掃の様子



ビーチクリーンイベント



献血の様子



献血車

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することをめざしています。

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)	
			管理のポイント・指標	
 お客さま	交通安全の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまセンター(高速道路利用者) ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) 	死傷事故率 ^{※1} (自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数) 車限令違反車両取締件数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令件数) 逆走事案件数 ^{※1} (交通事故または車両確保に至った逆走事案件数) 人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件数)	
	快適な高速道路 空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ● CS推進オピニオンリーダー意見交換会(外部有識者) ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価)) 年間利用台数 通行止め時間 ^{※1} (単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間) 本線渋滞損失時間 ^{※1} (渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間) 路上工事による交通規制時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	
	SA・PAのお客さま 満足施設への変革		高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められます。	Wi-Fiサービスの提供箇所数 ^{※2} SA・PAインフォメーションの日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所認定数(カテゴリー1) ^{※2}
 社会	社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(地域住民) ● 設計協議(地域住民) ● お客さまセンター(高速道路利用者) ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) 	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。 管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	新規開通路線延長(2車線⇒4車線化) スマートIC新規設置箇所数
	災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定・災害協力協定・連携協定(当社事業エリアの各府県・政令指定都市、陸上自衛隊) 	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所
	高速道路を通じた 地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	地域物産展実施エリア 地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数 ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数 地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数
	透明性の高い経営と 着実な債務の返済	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業評価監視委員会(財界・学術界の外部有識者) 	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。 また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	高速道路機構の債務削減
 投資家・国民の皆さま	積極的な情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(機関投資家) ● 個別投資家訪問(機関投資家) ● 記者会見(マスメディア) ● アンケート調査(コミュニケーションレポート読者) 	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	社長定例会見(毎月開催) facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式facebook登録者数の増) CSR報告書での企業活動報告

※1 集計期間:2018年1月1日～12月31日

※2 2019年5月末実績





持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)

2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



KPI(マネジメントアプローチ)						関連ページ
目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs		
6.8件/億台km	5.4件/億台km	後日、ウェブサイト に掲載	NEXCO西日本事業エリア の全国路線網	  	27ページ	
—	538件	—			32ページ	
70件	78件	後日、ウェブサイト に掲載			27ページ	
780件	983件				—	
3.6ポイント	3.6ポイント				28ページ	
1,011百万台	1,058百万台				WEB	
56時間	76時間				32ページ	
573万台・時	561万台・時				WEB	
112時間/km	115時間/km				WEB	
—	196カ所				—	30ページ
—	68カ所	—	30ページ			
—	56.5km	8.3km	NEXCO西日本事業エリア	     	23ページ	
4カ所	4カ所	4カ所			31ページ	
98%	98%	後日、ウェブサイト に掲載			WEB	
1カ所 累計 236カ所	— 累計 235カ所	3カ所 累計 238カ所			WEB	
—	64カ所	—			WEB	
—	のべ2,979日	—				
—	3カ所 (累計73カ所)	—				
210千件	256千件	—			34ページ	
11ページの「高速道路機構の債務残高」を ご覧ください。			(旧道路関係4公団)		11ページ	
—	11回	—	NEXCO西日本		35ページ	
登録者数 25,000人	登録者数 25,200人	登録者数 30,000人			WEB	
1回	1回	1回			50ページ	
			NEXCO西日本グループ			

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)	
			管理のポイント・指標	
 お取引先	公正な取引関係	<ul style="list-style-type: none"> 入札監視委員会(外部有識者) 	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数
	SA・PAのテナント会社との協働	<ul style="list-style-type: none"> 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) 	お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心にかかる講習等 誤給油防止訓練
 グループ社員	「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) 外部講師による研修(グループ社員) 	中期経営計画に定めた「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修 資格取得支援制度の利用者数 女性管理職者比率
	低炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) 	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> 環境アクションプラン 省エネルギー活動 道路施設の維持管理に要する電気使用量 新設料金所等に太陽光発電を設置する 次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する
 環境保全	循環型社会の形成		高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> 環境アクションプラン 環境物品等の調達の推進 事務用品における特定調達物品等の調達率 植物系廃棄物(草刈等)の再資源化率 建設発生土の再利用率 アスファルトコンクリート塊の再資源化率 コンクリート塊の再資源化率
	自然と共生する社会の推進	<ul style="list-style-type: none"> 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) 鶉殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> 環境アクションプラン エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 周辺的生活環境への影響を減らす道路づくり 動物侵入防止対策の設置・改良箇所 遮音壁の設置(設置延長)
 社会貢献	「安全」「環境」「地域貢献」の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) 	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動 職場周辺や各地域での清掃活動 つなぎの森活動

KPI(マネジメントアプローチ)						関連ページ
	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs	
	—	各支社年2回	—	NEXCO西日本		36ページ
	—	年3回	—	飲食物販テナント事業者		WEB
	—	年1回	—	元売テナント事業者等		WEB
	—	のべ 821回	—	NEXCO西日本グループ		37ページ
	—	178名	—	NEXCO西日本		WEB
	—	9.2%	—	NEXCO西日本グループ		WEB
	2015年度実績より 4.3%以上削減する (2015年度 73.9千kWh/km)	5.5%削減	2015年度実績より 5.5%以上削減する (2015年度 73.9千kWh/km)	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
	—	—	10kW			40ページ
	次世代自動車の 社会動向を踏ま えた、適時・適正 なインフラの整 備、インフラ技術 を検討する	高出力型充電設 備に関する動向 調査の実施及び 管内への適用に ついて検討した	電気自動車用急 速充電設備を 新たに4基増設 する	NEXCO西日本事業エリア のSA・PA		40ページ
	100%	100% (規格等により 適合商品がない 場合を除く)	100%	NEXCO西日本		40ページ
	95%以上	96%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
	80%以上	97%	80%以上			40ページ
	99%以上	100%	99%以上			40ページ
	99%以上	100%	99%以上			40ページ
	88カ所	102カ所	92カ所	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
	—	—	0.7km			40ページ
	—	のべ88回	—	NEXCO西日本グループ		41ページ
	—	のべ1,700回 8,800人	—			42ページ
	—	3カ所 のべ5.9ha	—	NEXCO西日本管内 実施箇所 (全7カ所のべ100ha)		WEB

連結損益計算書

(単位:億円)

区分	2018年度	2017年度	増減
営業収益			
高速道路事業	10,288	15,679	▲ 5,391
料金収入	7,826	7,643	183
道路資産完成高	2,433	8,002	▲ 5,569
その他	29	34	▲ 4
関連事業	494	533	▲ 38
SA・PA事業	337	330	7
その他の事業	157	202	▲ 45
計	10,783	16,213	▲ 5,429
営業費用			
高速道路事業	10,246	15,691	▲ 5,444
道路資産賃借料	5,603	5,511	92
道路資産完成原価	2,433	8,002	▲ 5,569
管理費用	2,209	2,177	32
関連事業	436	472	▲ 36
SA・PA事業	291	280	10
その他の事業	145	192	▲ 47
計	10,683	16,164	▲ 5,481
営業利益			
高速道路事業	41	▲ 11	53
跨道橋耐震対策事業^{※1} を除外した高速道路事業営業利益	(50)	(▲11)	(62)
関連事業 (うちSA・PA事業)	58 (46)	60 (49)	▲ 1 (▲ 3)
計	100	48	51
経常利益	129	73	55
当期純利益^{※2}	98	230	▲ 132
跨道橋耐震対策事業及び 厚生年金基金代行返上益関係を除外した当期純利益^{※3}	(106)	(42)	(64)

※1 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)に対する耐震対策事業であり、目的積立金「跨道橋耐震対策積立金」より充当されることから、参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益を記載しています。

※2 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

※3 前期比較のため、跨道橋耐震対策事業及び厚生年金基金代行返上益関係を控除した当期純利益を記載しています。

※4 億円未満は切り捨てで表示しています。

主要な経営指標等の推移

回次	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
営業収益 (億円)	10,120	8,841	9,352	16,213	10,783
経常利益 (億円)	79	128	114	73	129
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	30	73	159	230	98
純資産額 (億円)	1,614	1,567	1,798	1,990	2,124
総資産額 (億円)	9,517	11,758	14,385	11,706	13,950
1株当たり純資産額 (円)	1,699.19	1,648.61	1,891.16	2,093.11	2,234.61
1株当たり当期純利益金額 (円)	31.81	77.60	167.91	242.37	103.32
自己資本比率 (%)	17.0	13.3	12.5	17.0	15.2
自己資本利益率 (%)	1.9	4.6	9.5	12.2	4.8

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。

※ 億円未満は切り捨てで表示しています。

高速道路事業トピックス

- 2018年度の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比4.1%増の295万台/日となり、料金収入は、対前期183億円増の7,826億円、その他収入は29億円となり、その結果、道路資産完成高を除く高速道路事業営業収益は対前期178億円増の7,855億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期92億円増の5,603億円となりました。
管理費用は、南阪奈道路や堺泉北道路の移管に伴う費用の増加などにより、対前期32億円増の2,209億円となりました。
- 以上のことなどから、高速道路事業の営業利益は、対前期53億円増の41億円となりました。
- 道路資産完成高は、高松自動車道4車線化事業(鳴門IC～高松市境)などの一部完成がありました。また、新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT)の完成などがあった前期からは5,569億円減の2,433億円となりました。
なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

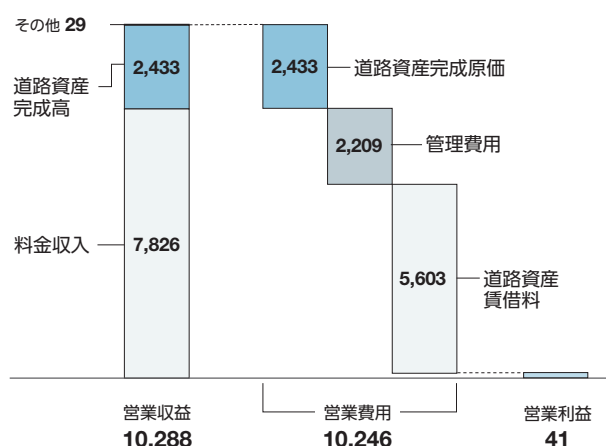
関連事業トピックス

- SA・PA事業は、新名神高速道路 宝塚北SAの新規オープン等による収益の増加があった一方で、店舗リニューアルに伴う建物撤去費用、維持管理・建物点検等による費用の増加により、営業利益は対前期3億円減の46億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、対前期1億円減の58億円となりました。

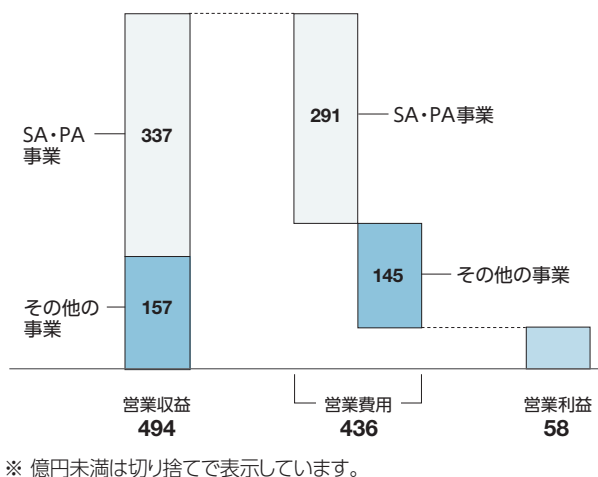
全事業の業績

- 当期純利益は、厚生年金基金の代行返上*に伴う特別利益(271億円)があった前期からは132億円減の98億円となりました。
 - なお、跨道橋耐震対策事業及び厚生年金基金代行返上益関係を除いた当期純利益は、対前期64億円増の106億円となります。
- *当社が加入していた建設関係法人厚生年金基金は、厚生年金基金の代行部分について、平成29年5月1日付で厚生労働大臣から過去返上の認可を受けました。

高速道路事業の損益 (単位:億円)



関連事業の損益 (単位:億円)



NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。

われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実を図ります。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。

また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。



関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科 教授

山本 昭二様

NEXCO西日本グループのコミュニケーションレポート2019を読んでもと一昨年から続いている災害への対応とこれからの成長戦略についていくつかの特徴が明らかになってくる。

平成30年7月の豪雨では広く西日本で災害が発生し、高速道路も大きな被害を受けた。広島呉道路の復旧が鉄道の再開にも連携していることから分かるように、地域の交通の要となる道路の災害対応力の重要性が再確認された。

関西国際空港連絡橋への船舶の衝突は、予期できない事態であり、迅速に対応できたことは同空港の重要性から見ても評価できるものであった。

一方で、平成30年3月の新名神高速道路の高槻～神戸間の開通効果によって中国自動車道の渋滞は確実に減少しており、高速道路のネットワークの改善は地域

の交通サービスに大きな役割を果たしていることも再確認された。同じことは高松自動車道の4車線化においても見られた。

高速道路を利用することによる移動する時間の節約と目的地までの途中での休憩や食事などへのニーズへの対応は、確実な移動のための基礎的なサービスや移動の楽しみの充実を図るための両輪である。従来の時間の節約を中心としたサービスの提供に加えて、SAやPAでの非日常的な体験の提供の可能性を追求することは、高速道路の利用者の多様性を高めて、優れたネットワークを構築することに貢献するはずである。宝塚北SAの開設などNEXCO西日本グループの試みは時宜にかなったものと言えるだろう。

SAやPAでのサービスが良くなることは、高速道路のネットワークの改善にとって必須のものであることは強調しておきたい。SAやPAでのサービス向上は、ドライバーの体調維持や同乗者との優れた経験に繋がり、ドライバーの運転能力向上に寄与し、ひいては走行する自動車の安全性を高めることができる。つまり、移動の質を高めることにより、最終的に優れたネットワークが構築されること、それがNEXCO西日本グループとしての成長戦略の要となるものだからである。

第三者意見をうけて



取締役
専務執行役員

芝村 善治

今年度の第三者意見は、前年度に引き続き、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授の山本昭二様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

今年度は西日本各地で多くの災害が発生し、高速道路も大きな被害を受けましたが、関係機関からの多大なご協力と当社グループの総力を挙げた取り組みにより、早期に高速道路の復旧を成し遂げることができました。引き続き24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供するという当社グループの使命の

もと、高速道路の安全・安心を届けてまいります。

高速道路の新設や4車線化事業等による高速道路ネットワークの機能強化は、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するものと考えています。実際に、新名神高速道路の開通や高松自動車道の4車線化により、渋滞回数が減少し定時性が向上するなど、目に見える効果が現れてきています。引き続き高速道路ネットワークの機能強化に向けて、事業を推進してまいります。

SA・PAにおいては、インバウンドや小さなお子様連れの旅行等、多種多様なニーズに対応できるサービスを提供し、高速道路のお客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PAを目指してまいります。

今後もインフラを管理する企業グループとして環境の変化に対応し、地域と連携した取り組みを通じて高速道路ネットワークの価値を最大化させ、持続的に成長してまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、コミュニケーションレポートの更なる充実に活かしていくとともに、NEXCO西日本グループ一体となった事業への取り組みに活用させていただきたいと存じます。

編集方針

当社グループでは、ステークホルダーの皆さまにCSRに対する考え方や取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

レポートは「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行しており、詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」では、ウェブサイトに掲載することで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しています。※ また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートをめざしました。

※「全体版」については、<https://corp.w-nexco.co.jp/csr/>に
掲載されています。

報告対象期間：

2018年4月1日～2019年3月31日
(一部2019年4月1日以降の内容も含まれます)

発行時期：

2019年7月(前回2018年7月、次回予定2020年7月)

参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2019」各メディアの情報内容



レポートへの主なご意見と改善のポイント



(「コミュニケーションレポート2018」読者アンケートより)



文章が長くて読みづらく、また専門用語が多くて分かりづらく感じた。



文章については簡潔にまとめ、イラストや写真を使って読みやすくなるよう工夫しました。また、専門用語を極力使わないようにするとともに、専門用語を使う際には補足説明を行うことで、読みやすく分かりやすいレポート作成を心がけました。



平成30年7月豪雨の時の高速道路の復旧状況について知りたい。



平成30年7月豪雨を含め、2018年度に発生した主な災害と当社グループの取り組みについて、特集ページにて紹介しています。

ア

アイハイウェイ

交通状況の表示や道路映像、SA・PA駐車場映像のリアルタイム配信など、道路情報を提供しているウェブシステムのこと。PCまたはスマートフォン用のアプリケーションでも提供中。

アセスメント

ある事象が他に及ぼす影響の程度や範囲について、事前に予測・評価、査定すること。

アンカーボルト

構造部材(橋梁、トンネルなど)と道路付属物(ジェットファン、標識板、情報板)などを固定するために、コンクリートに埋め込んで使用するボルトのこと。

インシデント

コンピュータやネットワークのセキュリティを脅かす事象のこと。

インバート

トンネル全体の長期安定性を確保するための大規模修繕工事の一つ。トンネル周辺の土圧の増加に対して、トンネル底部にインバートコンクリートを設置することにより、安定性を向上させるもの。

インフォメーション

高速道路を安全・安心・快適にご利用いただくための総合案内窓口。NEXCO西日本では68カ所のSA・PAに配置され、お客さまからのお問い合わせ対応や地域情報の提供などを行っています。車いす、ベビーカー、老眼鏡など各種器具の無料貸し出しも実施しています。

インフラ長寿命化計画

国土交通省が管理・所管するあらゆるインフラについて維持管理・更新等を着実に推進するため、中長期的な取り組みの方向性を明らかにした行動計画。国土交通大臣を議長とする「社会資本の老朽化対策会議」が2014年5月に公表した。新設から撤去までの、いわゆるライフサイクルの延長という狭義の長寿命化に留まらず、インフラの更新を含めた継続的なメンテナンスサイクルを構築し、将来にわたって必要なインフラ機能を発揮し続けるための取り組みを実行することを目的としている。

ウェルカムゲート

SA・PAを一般道からでもご利用できるように設けた出入口のことです。SA・PAが地域のふれあいの場としてご利用いただけるよう、地域の皆さまにもご自由にお立ち寄りいただけます。

オーバーホール

機械製品を部品単位まで分解して清掃・再組み立てを行い、新品時の性能状態に戻す作業のこと。

カ

環境アクションプラン

NEXCO西日本が掲げている環境基本計画(中期計画)のもと、継続的な改善を行うための年次行動計画。NEXCO西日本では、環境方針の3つの重点テーマ「[低炭素社会の実現](#)」「[循環型社会の形成](#)」「[自然と共生する社会の推進](#)」を実現するために、このプランの達成に注力しています。

概成

ほぼ出来上がること。

汽水域

淡水と海水が混じり合う水域。一般には川が海に淡水を注ぎいれている河口部。

切土

地山を切り取って低くし、平坦な地表（道路面）を作る、あるいは周囲より低くすること。

グリーン調達

原材料や資材、製品などを調達する際、環境負荷の少ない物品やそのような配慮をしているメーカーの製品を優先的に購入すること。NEXCO西日本では、2001年に制定されたグリーン購入法に基づいて、環境省が定める「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に沿って、グリーン調達を推進しています。

激甚災害

地震や風雨などによる著しい災害のうち、被災地域や被災者に助成や財政援助を特に必要とするもの。激甚災害法(1962年成立)に基づいて政令で指定される。

建設副産物

建設工事に伴い副次的に得られた物品。「工事現場外に搬出される建設発生土」、「コンクリート塊」、「アスファルト・コンクリート塊」、「建設発生木材」、「建設汚泥」、「紙くず」、「金属くず」、「ガラスくず・コンクリートくず（工作物の新築、改築または除去に伴って生じたものを除く）および陶器くず」またはこれらのものが混合した「建設混合廃棄物」などがあります。

コーポレート・ガバナンス

「企業統治」の意味。長期的な企業価値の最大化に向けて、企業経営の健全性・効率性・透明性を確保する仕組みや制度のこと。

国連グローバル・コンパクト

1999年の世界経済フォーラムで、国連のアナン事務総長（当時）が提唱した、企業の自主行動原則。グローバル・コンパクトの参加企業には、「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野における10原則を守るよう要請しています。

コンプライアンス

「法令遵守」の意味とされることが一般的ですが、近年では、法令のほかに社内規則や社会的規範なども含めた、広い範囲のルールなどを遵守することが求められるようになってきています。NEXCO西日本では、これを「法令に違反する行動や社会から非難される行動をしないこと」としています。

交通安全対策アクションプラン

道路構造などのハード対策と交通情報提供などのソフト対策を組み合わせ、交通安全対策に取り組んでいるもの。2011年度に策定し、その後、より高精度な情報提供に随時取り組んでいる。

跨道橋（OV）

高速道路の上空を横断する道路、水路、鉄道のための橋梁（橋）の総称。正式名は跨高速道路橋。

サ

災害協力協定

大規模災害発生時等における相互協力に関する協定：防災・災害対策など地域の安全・安心の向上に関するものとして、大規模な災害が発生した場合に、初動段階から高速道路および一般道の道路管理者が相互に緊密な連携・調整を図り、迅速かつ円滑な災害対応を図ることを目的としている。

災害図上訓練（DIG）

地図を使って災害対策を検討する訓練。Disaster Imagination Gameを略してDIGと表記する。災害が起こった場合どう行動すべきか、机上で比較的簡単に行うことができる防災訓練の手法の1つ。

載荷実験

構造物などに一時的に荷重を加えて、対象物に及ぼす応力、変形、破壊などの影響や強さなどを調べる試験のこと。荷重の大きさ、荷重を加える時間・回数などを変えながら、荷重と変位量との関係を求め、構造物の安定性などを調べる。

産学連携

新技術の研究開発や、新事業の創出を図ることを目的として、大学などの教育機関・研究機関と民間企業が連携すること。

暫定2車線区間

将来の4車線（片側2車線）化を前提に、暫定的に2車線（片側1車線）で供用している高速道路。

ジェットファン

トンネル換気用の送風機。

軸重計

車軸にかかる重さを測定する機器。

持続可能な開発目標（ Sustainable Development Goals : SDGs）

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標のこと。持続可能な世界を実現するため、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等17のゴールから構成されています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的な目標であり、日本でも積極的に取り組んでいます。

持続可能な社会

1987年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」で公表された「将来の世代が彼らのニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たす」という「持続可能な開発」の考えに基づき、開発と地球環境の保護を共存させていける社会のこと。

ジビエ

キジ、ヤマウズラ、野ウサギ、シカ、イノシシなど、フランス語で狩猟によって食材として捕獲される天然野生鳥獣やその肉のこと。

遮音壁

音が道路の外側に伝わることを防ぐ壁。道路から発生する音を遮音、または回折することによって減音を図り、沿道の環境を保全することを目的に設置する壁構造の環境対策施設。

循環型社会

「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会から脱却し、「資源の3R」によって、廃棄物を減らし、資源を繰り返し（循環）利用する社会。2000年に制定された「循環型社会形成推進基本法」では、「天然資源の消費量を減らして、環境負荷をできるだけ小さくした社会」と定義されています。

床版

橋梁において自動車や人などの荷重を直接支える部材。

情報セキュリティ

国際規格「ISO/IEC27002」では、「情報セキュリティ」を「情報の機密性、完全性および可用性を維持すること」と定義しています。また、内閣官房情報セキュリティセンターによると、これら3つの性質のうち、機密性は「あらかじめ決められたものだけが、その情報を使えること」、完全性は「情報が壊されたり、勝手に変更されたり、消されたりしないこと」、可用性は「情報を使うことを許された者が、使いたい時にその情報を使えること」をそれぞれ指します。

韌性

材料の粘り強さ。破壊や亀裂等に対する抵抗の程度。亀裂が発生しにくく、かつ伝播しにくい性質など材料の特性を指す。

新直轄方式

高速自動車国道の整備を、国と地方自治体の負担により整備する手法のこと。一般的に、採算性に乏しい路線・区間など、高速道路会社による整備・管理が難しい路線・区間が多く指定されています。

ステークホルダー

企業活動をするうえで影響を与えるすべての利害関係者のこと。具体的には、顧客（一般消費者）・株主・取引先・社員・地域社会などを指し、企業が社会的責任（CSR）を果たすためには、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションによって信頼関係を強化するとともに、すべてのステークホルダーに対する責任を明らかにして、事業活動を行っていく必要があります。

すべり摩擦係数

物質と物質との間に働く抵抗力（摩擦力）を荷重で割ったもので、すべりやすさを表す指標のこと。路面とタイヤとのすべり摩擦係数は、タイヤや路面の条件等によって変化する。

スマートIC

高速道路の本線やサービスエリア、バスストップなどから乗り降りができるように設置され、利用をETC搭載車両に限定したインターチェンジ。料金の支払い方法をETCに限定することで簡易な料金所の設置で済み、従来のインターチェンジに比べて低コストで導入することができます。

生物多様性

多様な生物が地球全体に存在しており、それらの生命が豊かな個性を持ってつながりあっていること。生物多様性条約では、「生態系（さまざまな生物が生息する場所）の多様性」「種の多様性」「遺伝的多様性」という3つのレベルで多様性をとらえ、それらの保全を求めています。

設計協議

高速道路が通過する自治体や関連する他の公共事業者や地元住民の皆さまと、図面に基づき周辺の道路や水路の切り替えなどについて協議を行い、道路構造について決定します。NEXCO西日本など高速道路会社は、この結果をもとに道路設計を実施します。

線状降水帯

次々と発生する発達した雨雲が列をなした積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる強い降水をとまなう雨域のこと。

タ

ダイバーシティ

社員一人ひとりが持つ違い（性別、人種、国籍、宗教、年齢、学歴、職歴など）を受け入れ、それぞれを価値として活かすことで企業の競争力につなげようという考え方。

地球温暖化

人間の活動による化石燃料の使用や森林の減少などによって、温室効果ガス（二酸化炭素やメタンなど）の濃度が高まり、地球表面の大気温度が上昇すること。

低炭素社会

脱化石燃料化を進め、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を最小に抑えるための配慮を徹底することを当然とする社会のこと。究極的には、温室効果ガスの排出を自然が吸収できるレベル（カーボン・ニュートラル）な社会をめざすもの。

テレコミュニケーター

高速道路に関するお客さまからの問い合わせに対して、電話対応をする専門要員のこと。NEXCO西日本では、お客さまセンターに配置され、24時間体制で交通情報や料金に関する問い合わせその他の案内を行っています。

電磁パルス法

励磁コイルに大電流を流すことによりコンクリート内部に埋め込まれた鉄筋にパルス打撃を与え、その振動音響を受信・解析することでコンクリートの内部状況や強度を推定する、非破壊検査の手法の一つ。

独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構

略称・高速道路機構。日本国内の高速道路（高速自動車国道・自動車専用道路）の道路資産を保有・貸付けし、債務の返済を行う独立行政法人として、2005年に設立されました。日本道路公団等民営化関係法施行法により、道路関係公団の業務を各道路会社とともに承継しています。

土工

土木工事において土を掘り、運び、盛り固めるなどの基礎的な作業。

ナ

日本道路公団

2005年に分割民営化されるまで、有料道路（高速自動車国道、一般有料道路）の建設および管理を行っていた特殊法人。1956年に日本道路公団法により設立されました。業務のうち、施設の管理運営と建設は、西日本・中日本・東日本高速道路に、保有施設及び債務は[高速道路機構](#)に、それぞれ分割承継されました。

ネットワークバリュー

高速道路がネットワークでつながって、1つのシステムとして機能することにより生み出される価値。

のり面

高速道路を建設する際、[切土](#)や[盛土](#)によって作られる人工的な斜面のこと。

ハ

ハイウェイオアシス

高速道路上にある一部のSA・PAに連結されている、道路区域外の都市公園・地域振興施設等の呼称。高速道路の料金所を出ることなく、隣接する公園・レクリエーション施設を利用できます。

薄層舗装

加熱アスファルト混合物を厚さ2.5cm以下に舗装する表面処理工法のこと。

橋桁

橋脚の上に架け渡して、[床版](#)にかかる自動車や人などの交通荷重を支える部材。

バタフライウェブ

コンクリート箱桁橋のウェブを蝶型の形状の薄型パネルを使用した構造形式の橋梁。パネルを工場で作成できることや、橋梁重量の軽量化で作業効率が向上するため現場での施工期間を短縮することができる。

バリアフリー

もともとの意味は「バリア（障壁）がない（フリー）」こと。最近は、建物内外の段差など物理的なバリアだけでなく、高齢者や障がい者が住みやすい社会をつくるための、心理的、制度的、社会的なバリアの除去も含むようになっていきます。

パワーハラスメント

職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させる行為のこと。

箏篳（ひちりき）

6世紀初め頃に中国から伝来した雅楽の管楽器。長さ約18cmの竹管の表に7つ、裏に2つの孔（あな）を空け、その間に樺の皮を巻き、上端にマウスピースの役割を果たす葦（ヨシ）製の舌（蘆舌：ろぜつ）を挿入した縦笛です。

非破壊検査

道路構造物や設備のひび割れ等の傷を、破壊することなく検出する検査技術のこと。構造物や設備に放射線や超音波などを入射して、内部損傷を検出したり、電流や磁束（磁力線の束）を流して表面の傷を検出したりする方法がある。

ヒヤリハット

事故には至らなかったものの、あわや事故になりかねない危険な事例のこと。文字通り、「ヒヤリとする」「ハットする」が、その語源です。

プラント

さまざまな素材や製品がつくられる生産設備のこと。

プレキャストPC床版

橋梁床版の施工性、品質・耐久性の向上を目的に、工場で製作した**プレストレスト・コンクリート**を用いて引っ張りに耐える力を強くしたコンクリート床版のこと。プレキャストとは、あらかじめ工場で製作した製品という意味。

プレストレスト・コンクリート

荷重によって生じる引張応力の一部あるいは全部を打ち消すように、あらかじめ圧縮応力を加えてあるコンクリート。鉄筋コンクリートに比べ、引張応力によるひび割れを防ぐことができる。

プローブ情報

自動車の動きをセンサーの感知から発信される情報により、交通流動や車両挙動、気候や路面状況までをモニタリングすることで得られる車両が走行するすべての道路交通情報。

包括協定

包括的連携に関する協定：各自治体とNEXCO西日本が相互の連携を強化し、双方の資源を有効に活用することにより、地域社会の安全・安心の向上と活性化、高速道路利用者の利便性向上と利用促進を図ることを目的としている。

保全事業システム

高速道路を確実に補修することを目的に、当社グループが自ら行うべき点検・診断・措置・記録の一連の業務サイクルのこと。

ボックスカルバート

道路などの下に埋設された箱型の構造物のこと。高速道路では主に盛土されている箇所的一般道との交差点所に設置されている。カルバートボックスともいう。

マ

マテリアルフロー

企業の事業活動に伴って、一定期間に投入される物質（マテリアル）の総量と流れ（フロー）、外部への物質の総排出量を集計したもの。これらを集計し定量的に分析することによって、物資が製造プロセスでどう移動するかが追跡でき、その結果、資源の消費をどう抑えるかの検討・対策立案につなげることができま

マルチカラー情報板

従来の可変式道路情報板は3色（赤・緑・橙）での表示でしたが、近年は白色を含む7色表示可能な情報板の導入を進めており、これをマルチカラー情報板と呼んでいます。

盛土

低い地盤や斜面に土砂を盛り上げて高くし、平坦な地表を作る、あるいは周囲より高くすること。

ヤ

ヤード

作業場のこと。

要衝

産業・交通のうえで、重要な地点や場所。

ラ

ライフライン

生活の基盤となる生命線。主に電気・ガス・水道・通信・輸送などを指す。

リスクマネジメント

企業経営を行ううえで、経営に重大な影響を及ぼしかねない危険（リスク）を把握・評価することでリスクの未然防止を図るとともに、リスクが顕在化した場合は最小限にとどめる管理手法のこと。

リダンダンシー

「冗長性」、「余剰」を意味する英語で、必要最低限のものに加えて、余分や重複がある状態を指す。高速道路の整備では、自然災害等に備え、あらかじめネットワークを多重化するなどして、一部区間の途絶が全体の機能不全につながらないようにすることをいう。

料金・経路検索サイト

NEXCO西日本のウェブサイトを提供している通行料金および目的地までの所要時間を検索できるサービス。NEXCO3会社、本四高速道路、首都高速道路、阪神高速道路と地方都市高速道路、ならびに一部の新直轄方式で整備された道路がサービス対象です。

連携協定

連携に関する実施協定：大規模な災害発生時において、双方の活動をより円滑で効果的なものとし、被災地への早期救援を可能とならしめることを目的とし、陸上自衛隊と締結している。

ロールプレイング

役割演技法と呼ばれる、教育訓練法のこと。実際の仕事上の場面を設定し、そこでの役割を演じることで、実務上のポイントを習得するもので、接客やセールス技術など、対人コミュニケーション能力の向上を目指す研修で用いられます。

ワ

ワーク・ライフ・インテグレーション

会社における働き方（ワーク）と個人の生活（ライフ）を柔軟かつ高次元に統合（インテグレート）することで、生産性や成長の拡大を実現するとともに、生活の質を上げ、充足感と幸福感を得ることを目指すもの。ワークとライフを対立的にとらえ、その量的バランスを図るワーク・ライフ・バランスの発想をさらに一歩進めた考え。

3R

限りある資源を有効に使い、**循環型社会**を形成するために、必要な3つの取り組み。Reduce(リデュース：廃棄物の削減)、Reuse(リユース：使えるものは繰り返し再使用)、Recycle(リサイクル：廃棄物の再資源化)のこと。

CS推進オピニオンリーダー

高速道路を利用するお客さまの満足度向上をはかるため、NEXCO西日本では外部有識者をCS推進オピニオンリーダーに委嘱し、定期的にご意見を伺う機会を設けています。外部有識者は、物流事業者、マスコミ、物販・レストラン運営者、学識関係者など多方面から選任しています。

CSR

Corporate Social Responsibilityの略。一般的に「企業の社会的責任」と訳される。企業が自社を取り巻く社会課題を整理し、社会課題の解決または社内外のステークホルダーからの要請や期待に応えた経営を行うことで、事業活動を社会と調和させ、結果として企業の持続的成長を可能にしていくもの。

DMAT

災害派遣医療チーム。Disaster Medical Assistance Teamの略称。医師、看護師、業務調整員（救急救命士・薬剤師・臨床工学技士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・放射線技師・社会福祉士・コメディカル・事務員等）で構成され、地域の救急医療体制だけでは対応できないほどの大規模災害や事故などの現場に急行する医療チームのこと。

DRIVE&LOVE

2010年度より実施している交通安全啓発活動。交通事故原因のほとんどはドライバーの不注意によるものという現状を受け、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」をドライバーに訴えかけることで、運転への意識を変えていこうとしているのが特徴です。一般企業・メディア・著名人などにも広く参加を呼びかけながら、交通事故ゼロを目指しています。

ETC

電子料金収受システム（Electronic Toll Collection System）の略。無線通信を利用して車両と料金所のシステムが必要な情報を交換し、料金の収受を行うので、有料道路を利用する際に料金所で停止することなく通過できます。

GRI

国連総会の下部機関である国連環境計画(UNEP) 公認協力機関となっている非営利団体で、正式名称はGlobal Reporting Initiative。GRIが発行する「GRIガイドライン」は、持続可能な社会実現に向けて企業などの組織が発行する報告書についての国際的なガイドラインの発行元として知られ、日本でも多くの企業がCSR報告書の作成にあたって、GRIガイドラインを参考にしています。

ICT

Information and Communication Technologyの略。情報通信や関連技術の総称。コンピュータ技術を活用した産業・設備・サービスの高度化など、さまざまな分野で活用されている。

IR

IRは「Investor Relations」の略で、自社について理解を深めてもらうために、企業が投資家・株主に向けて行う広報活動全般を指します。そのIR活動で、投資家・株主が適切な投資判断ができるように、企業が開示・提供する情報をIR情報といいます。

ISO 26000

2011年に国際標準化機構（ISO）によって発行された「組織の社会的責任」に関する国際規格。認証規格ではなく、ガイダンスという位置づけであることが特徴。「説明責任」「透明性」など組織が尊重すべき「7つの社会的責任の原則」を示したうえで、「7つの中核課題」として「組織統治」「人権」「労働慣行」など関連する課題や具体的なアクションプランを示しており、各組織が自主的に社会的責任を果たす際の手引書として活用できます。

NETIS

NETIS（新技術情報提供システム）はNew Technology Information Systemの略。技術活用システムという国土交通省の制度の運用にあたり新技術に関する情報を蓄積したデータベースシステム。インターネットで一般にも公開されており、有用な新技術の情報を誰でも容易に入手することが可能。

PDCA

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善します。

POP

商品の販売促進用の広告の一つ。商品名や価格、特徴などを説明したもので、店の雰囲気演出にも繋がることから店舗などで幅広く用いられる。

PPP事業

Public Private Partnership(官民連携)の略。民間の資金や経営・技術力などのノウハウを活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る事業手法。

SPring-8

兵庫県の播磨科学公園都市にある世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設。放射光とは、電子を光とほぼ等しい速度まで加速させ、磁石によって進行方向を曲げた時に発生する、細く強力な電磁波のことで、SPring-8では、この放射光を用いてナノテクノロジー、バイオテクノロジーや産業利用まで幅広い研究が行われている。SPring-8は国内外の産学官の研究者等が開かれた共同利用施設として、1997年より放射光を大学、公的研究機関や企業などのユーザーにも提供している。

Wi-Fi

無線通信を利用してデータの送受信を行うシステム規格の一つ（ワイファイ、Wireless Fidelityの略）。

みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へーを表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道を走ること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
TEL (06) 6344-4000(代表) FAX (06) 6344-7183
インターネットからのお問い合わせ：
NEXCO西日本ウェブサイト (<https://www.w-nexco.co.jp>) から、[お問い合わせ] ページへアクセスできます。

